履修の手引

令和７年度

Kindai Univ.

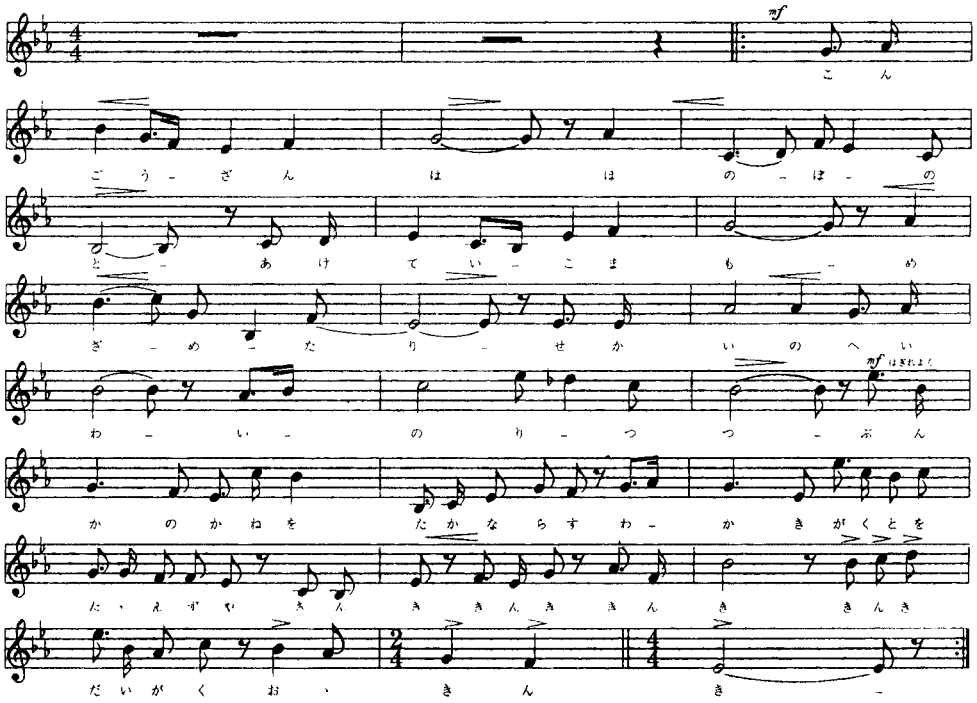
FACULTY OF HUMANITY-ORIENTED SCIENCE AND ENGINEERING　KINDAI UNIVERSITY

近畿大学 産業理工学部
URL; https://www.kindai.ac.jp/hose/

校　　歌

近 畿 大 学 校 歌

世耕　弘一　作詞
今中　楓溪　補作
樋口　昌道　作曲



(1)　金剛山はほのぼのと　　明けて生駒も目ざめたり
　　世界の平和祈りつつ　　文化の鐘を高鳴らす
　　若き学徒を讃えずや　　近畿　近畿　近畿
　　近畿大学　おお近畿

(2)　開けゆく代のさきがけと　　進む行く手に栄えあれ
　　理想の光相追いて　　真実一路あこがれの
　　若き学徒に誇りあり　　近畿　近畿　近畿
　　近畿大学　おお近畿

(3)　外国までも響けよと　　高き文化の足音を
　　互いに誓い競い立ち　　真理に愛に魂結ぶ
　　若き学徒にほまれあれ　　近畿　近畿　近畿
　　近畿大学　おお近畿

学園章について

学園章

学園花は、 梅、 です。
「梅花霜雪を経て開く」。
自然の厳しさをへて、 春いちばん、
品格高き花が咲きひらく。
学園章は、 梅の花弁を、 象徴したものです。
五つの花弁は、 大学の大、 花芯も大。
人そのものでもある。
これは、 大学の現および未来に向っての存在と位置をかたどるものです。
一部がやや離れているのは未来志向に基づく内面の未完、 さらに充溢、 完熟をめざし向う形姿。
一本のつよい線に貫かれる。

■建学の精神

「実学教育」と
「人格の陶冶」

■教育の目的

人に愛される人
信頼される人
尊敬される人
を育成することにある。

学部長　依田　浩敏

新入生の皆さんへ

産業理工学部学部長　依田　浩敏

大学では皆さんが主体的に自ら学ぶということが基本です。また、自己責任が強く求められます。私たち教職員は皆さんが大学生活を有意義に過ごせるように努めますが、皆さん一人ひとりが主役となり、自ら意義ある大学生活にしていくことが必要です。そのため、皆さんが自主的・主体的に行動するとともに、責任をもつことも要求されます。

「履修の手引」には各学科の教育目標、進級ならびに卒業の要件、開講科目の一覧などが記載されています。また、シラバスは産業理工学部のホームページからも見ることができます。各自で閲覧し、疑問に思う点があれば担当の教職員に相談して下さい。くれぐれも履修方法を誤ったために進級できなくなるといった事態を招くことがないように、卒業後の進路を考えながら、履修計画を立てて下さい。

教職員一同、本学部での学生生活が楽しく、実り多いものとなることを願っています。

沿　　革

●大正 14 年　大阪専門学校設立
●昭和 18 年　大阪理工科大学設立
●昭和 24 年　近畿大学設立（新学制により上記２学を合併）
●昭和 40 年　第二工学部校舎本館１号館竣工
●昭和 41 年　第二工学部一部（工業化学科、建築学科、電気工学科）、二部（工業化学科、建築学科）設置
●昭和 42 年　２号館竣工
●昭和 43 年　高電圧実験室竣工
●昭和 45 年　体育館竣工
●昭和 46 年　クラブハウス竣工
●昭和 50 年　学生食堂竣工
●昭和 52 年　建築構造実験室竣工
●昭和 59 年　木材加工工作室竣工
●昭和 60 年　第二工学部を九州工学部に学部名変更
●昭和 61 年　学生駐輪場竣工
●昭和 62 年　産業デザイン学科、経営工学科設置
●昭和 62 年　３号館竣工、第２クラブハウス竣工、有害物質処理室、図書館・電算機棟竣工
●昭和 63 年　建築材料実験計測室竣工
●平成 2 年　第二学生食堂、学生駐車場竣工
●平成 4 年　大学院産業技術研究科修士課程（物質工学専攻、電子情報工学専攻）設置
●平成 6 年　大学院産業技術研究科博士課程（物質工学専攻、電子情報工学専攻）、大学院産業技術研究科・修士課程（造形学専攻、経営工学専攻）設置
●平成 6 年　バウヒュッテ、建築学科環境実験室竣工
●平成 8 年　大学院産業技術研究科（造形学、経営工学）博士課程設置、第２学生駐車場増設
●平成 10 年　５号館竣工
●平成 11 年　電気工学科を電気情報工学科に名称変更
●平成 12 年　工業化学科を生物環境化学科に、経営工学科を経営情報学科に名称変更
●平成 13 年　分子工学研究所（ヘンケル先端技術リサーチセンター）竣工
●平成 13 年　附属福岡高校、九州工学部キャンパスへ移転
●平成 16 年　九州工学部を産業理工学部（生物環境化学科、電気通信工学科、建築・デザイン学科、情報学科、経営コミュニケーション学科）に改組
●平成 19 年　分子工学研究所（JSR 機能材料リサーチセンター）竣工
●平成 20 年　経営コミュニケーション学科を経営ビジネス学科に名称変更
●平成 20 年　学生食堂竣工
●平成 21 年　硬式野球部創部
●平成 21 年　硬式野球部トレーニングセンター竣工
●平成 25 年　産業理工学研究科修士課程（産業理工学専攻）設置
●平成 27 年　産業理工学部地域連携研究センター設置
●平成 27 年　産業理工学研究科博士課程（産業理工学専攻）設置
●平成 28 年　電気通信工学科を電気電子工学科に名称変更
●平成 28 年　創立 50 周年記念式典

産業理工学部卒業生の総数（令和 7 年 3 月末現在） 19,283 名

◇　目　　次　◇

事務部学生関係業務
近畿大学・産業理工学部教育方針
［Ⅰ］履修の手引
学園・学部・学科の目標……1
１．履修規定
1.1　はじめに ……6
1.2　学年次 ……6
1.3　卒業要件 ……6
1.4　進級の条件 ……8
1.4.1　各学年の進級条件 ……8
1.4.2　３年次進級の単位数条件 ……8
1.4.3　４年次進級の単位数条件 ……9
1.5　授業について ……9
1.5.1　授業科目の構成 ……9
1.5.2　授業形態 ……9
1.5.3　受講制限 ……9
1.5.4　クラス編成 ……9
1.5.5　授業時間と単位数 ……10
1.5.6　休講と補講 ……10
1.5.7　出席の重要性について ……10
1.5.8　欠席について ……10
1.6　履修から単位修得までの手順 ……10
1.6.1　履修の種類 ……10
1.6.2　履修手続き（Web履修登録）……10
1.6.3　成績（GPA）によるCAPの緩和 ……11
1.6.4　履修に関する注意事項 ……13
1.6.5　履修届の変更・修正 ……13
1.6.6　履修相談 ……13
1.6.7　受講者心得 ……13
1.6.8　共通教養科目の履修制限 ……13
1.6.9　留学生の外国語科目の履修に関する注意事項 ……13
1.6.10　レポートにおける剽窃（ひょうせつ）（盗用）行為 (plagiarism) について …14
1.7　試験 ……14
1.7.1　試験の種類 ……14
1.7.2　定期試験 ……14
1.7.3　試験期間 ……15
1.7.4　受験者心得 ……15
1.7.5　追試験制度について ……15
1.7.6　追試験の申請 ……15
1.7.7　再試験制度について ……15
1.7.8　再試験の受験資格と受験上の注意 ……16
1.8　成績の評価と通知 ……16
1.8.1　成績の評価 ……16

1.8.2　成績通知の手順 ……16
1.8.3　成績照会 ……16
1.8.4　進級判定 ……16
1.8.5　卒業判定 ……16
1.9　表彰および懲罰 ……16
1.9.1　表彰 ……16
1.9.2　懲罰 ……16
1.10　連絡窓口 ……17
1.10.1　休学など ……17
1.10.2　学生への連絡 ……17
1.10.3　大学への連絡 ……17
1.10.4　事務窓口・取扱時間 ……17
1.11　GPA（Grade Point Average）制度について ……18
2．授業科目一覧 ……21
2.1　教養・基礎教育部門総括表 ……22
2.2　生物環境化学科総括表 ……24
2.3　電気電子工学科総括表 ……30
2.4　建築・デザイン学科総括表 ……36
2.5　情報学科総括表 ……41
2.6　経営ビジネス学科総括表 ……47
2.7　インターンシップ ……53

3．教職課程
3.1　教職課程の目的 ……58
3.2　教員免許状の種類 ……58
3.3　受講手続き ……58
3.4　授業科目 ……58
3.5　所要資格と修得単位数 ……59
3.6　教科及び教科の指導法に関する科目とその履修方法 ……59
3.7　教職課程で履修しなければならない必修科目 ……59
3.8　教育の基礎的理解に関する科目等とその履修方法 ……59
3.9　教育実習について ……65
3.10　その他、教職課程に関する履修上の注意事項 ……68

4．転学部・転学科、大学院進学 ……69

5．キャリア教育 ……70

［Ⅱ］附属施設利用の手引
［Ⅱ-1］　福岡キャンパス ……73
［Ⅱ-2］　図書館 ……74
［Ⅱ-3］　電算機センター ……75

［Ⅲ］配置図 ……77

福岡キャンパス学生センター学生関係業務

学 生 支 援 課

【教　務　係】

教務係は、皆さんの科目履修、授業、試験、成績など主として教育面の調査、企画、立案、推進をはかることを業務としています。

教務係の主な業務は次のとおりです。

○　各種証明書発行
○　時間割作成・変更
○　授業の履修登録・履修指導
○　学生の成績管理
○　授業の休講・補講
○　教室の使用管理
○　定期試験の準備・運用
○　入学・進級・留年・卒業
○　転学部・転学科
○　教職課程
○　大学院に関すること全般

【キャリア支援室】

キャリア支援室は、就職・進路全般についての窓口です。ここでは、就職の指導・紹介・求人の受付・就職の資料収集統計・就職希望者の登録等就職に関するすべての業務を行っています。また学生の就職支援について、教員との連携を図るために就職対策委員会を設置しています。

キャリア支援室の主な業務は、次のとおりです。

○　学生の就職指導及び紹介
○　就職希望者の登録及び調査
○　就職資料収集及び統計
○　インターンシップ
○　卒業生の就職後の情報収集
○　就職先の新規開拓
○　その他学生の就職
○　就職対策委員会

【学　生　係】

学生係は、学生生活全般についての窓口です。

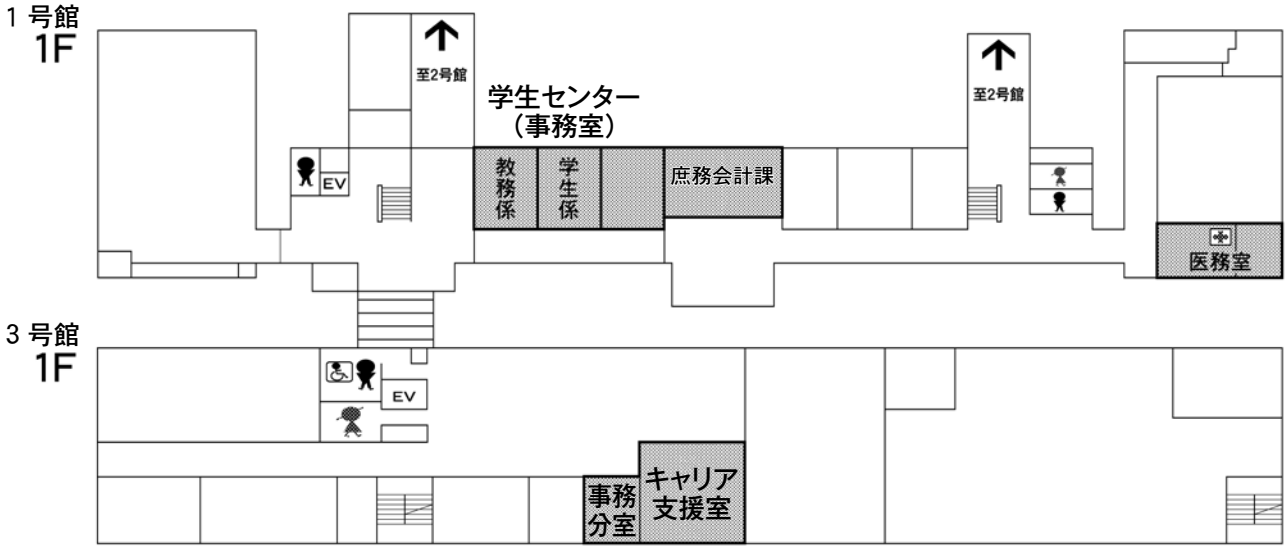
ここでは学生の課外活動、健康管理、奨学金、福利厚生、その他学生生活に関する相談に応じています。また学生生活の充実をはかるために、学生厚生補導に関する重要事項の審議機関として学生支援委員会が設置されています。

学生係の主な業務は次のとおりです。

○　休学、復学、退学、除籍等学生の身分
○　学友会活動
○　課外活動（各種団体結成、集会、対外試合、合宿、施設備品使用、印刷物の発行・配布、掲示）
○　学費（延納・分納）
○　学生補導、家庭との連絡
○　学生の個人相談
○　学生実態調査
○　学生証の発行
○　通学定期、学割の証明
○　健康管理
○　奨学金
○　寮等の紹介
○　学生健保共済会
○　学生支援委員会
○　学生の賞罰
○　学生の郵便物、遺失物、拾得物
○　学生のアルバイト指導及び紹介
○　その他学生一般

【庶務会計課】

○　TA受付
○　学費
○　時間外申請



近畿大学教育方針

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

本学は、「建学の精神」と「教育の目的」を実現するために、「全学共通科目」と「専門教育科目」を２本柱として、各学部学科の特色を生かしたカリキュラムを提供します。また、ボランティア、インターンシップ、各種資格取得講座などのプログラムを展開し、全教職員が、学生の学問的、人間的成長とキャリア形成を支援します。さらに、生涯学習社会実現のために、学生と社会人と教員が共に学び合う機会を提供します。これらにより、学生はディプロマ・ポリシーにある資質及び能力を以下のように身に付けます。

１．全学共通科目および学部基礎科目では、文系・理系の枠を超え、入学者の基礎学力の確認と向上を図るプログラムを提供し、各学部における専門分野の学問へ導くとともに、学問する習慣を身に付けます。
２．専門教育に携わっている教員が教養教育（全学共通科目）に参加して、実学（専門教育）と教養の連動ないし融合を視野に入れた授業を提供します。これにより、教養と専門教育の意味を幅広い視野から理解し、学ぶ意義と意欲を体得します。
３.「専門教育科目」においては、社会のニーズに対応できる教養に裏打ちされた専門性を高める工夫を進め、社会に貢献できる知識と技能、探求心を身に付けます。また、必要に応じて他学部との単位互換制度等を活用し、複眼的な専門性を育成します。
４．さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するため、グローバル教育の充実を図り、国際社会が共有する目標と文化的多様性の価値を理解し、国際感覚を身に付けます。さらに、海外の教育機関等との提携による国際スタンダード教育への参加を進めます。
５．産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。社会人の学びの場（リカレント教育）を充実し、生涯学習社会の実現に貢献します。学生の資格取得のために、学部横断的な取り組みを展開します。ボランティア、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会、国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。これにより、社会貢献の意義と使命感を体得し、常に自らを高める自己教育力を身に付けます。
６．これらの達成度および学修の成果は、別に定める「評価の方針」によって評価を行います。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は、「建学の精神」と「教育の目的」に基づいて、「深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身に付けるべき資質を以下に示します。

１．大学での種々の学びを通じて、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格へと自らを成長させ続ける自己教育力を培っていること。
２．問いながら学ぶ「学問」習慣を身に付け、専門領域における知識・技能を修得し、それらに裏打ちされた探究心と社会貢献への使命感に目覚めていること。
３．専門領域における課題の意味を、広い歴史観や深い人間観の中で位置づけようとする教養を、身に付けていること。
４．異質な価値や文化を理解し、自国の伝統や文化の意味を再発見する国際感覚を、身に付けていること。

産業理工学部教育方針

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

１．教育課程編成方針

産業理工学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる３つの大きな能力を身に付けた「フロンティア人材」を育成するため、共通教養科目、外国語科目、そして学科別に設定された専門科目からなる教育プログラムを開講しています。

２．学修内容・方法

＜共通教養科目＞

社会の多様性を尊重し、コミュニケーション力と論理的な思考力を身に付けるため、次の４つの科目群からなる共通教養科目をおもに１～２年次において学修します。とくに１年次においては、課題設定・問題解決科目群に設定された少人数科目を中心に、能動的で自律的な学修態度への転換を図り、専門教育にスムーズに移行できるように配慮しています。

１）人間性・社会性科目群
２）地域性・国際性科目群
３）課題設定・問題解決科目群
４）スポーツ・表現活動科目群

人間性・社会性科目群、地域性・国際性科目群、および外国語科目では、人文科学と社会科学の学問領域に触れつつ、それらの基本的な知識や科学的な思考方法を修得することができます。また、社会人にふさわしい倫理観の涵養を図るとともに、地域や国際交流の発展に貢献しようとする態度を身に付けます。

課題設定・問題解決科目群では、大学生に求められる「読解力」、「論理的記述力」、「批判的分析力」を向上させ、とくに「近大ゼミ」、「科学的問題解決法」等の少人数科目では、客観的な記述とディスカッションの実践を通じて論理的思考とコミュニケーション力、プレゼンテーション力の基盤を形成することができます。また、デジタル化社会に対応するための基礎的な能力に加え、将来を見据えて主体的・自律的に学ぶ姿勢と、キャリアパスを具体化する意識と行動力の基盤を育成します。

スポーツ・表現活動科目群では、文理融合科目を中心に身の回りの現象・問題に目を向けて、考察し解決する力を身に付けます。

＜外国語科目＞

外国語科目では、異文化を正しく理解し尊重する態度を育み、グローバル社会に対応するための基礎的能力を身に付けます。すなわち、他言語の人々の考えを正しく理解し自分の考えを的確に伝えるための言語能力とコミュニケーションスキルを修得します。

＜専門科目＞

専門科目は、学科別に分野や学修内容に応じてより細かな科目群に分かれて、講義・演習・ゼミナール・実験・実習等の様々な方法・形態で実施されます。

１年次においては、共通教養科目とともに専門基礎科目によって幅広い教養や専門分野の基盤となる知識や技能を修得します。

２年次から３年次においては、理系４学科では各専門分野に関する原理・法則、実験・製作、情報の収集・解析等の技術を学修します。それとともに、技術者・研究者としての倫理観も身に付けます。また、経営ビジネス学科では経営学・商学、会計・財務、社会・工学、グローバル、コミュニケーションといった各分野の発展的内容を学び、経営学、会計学、マーケティング論につい

ての知識のほか地域社会やグローバル社会における諸課題の解決法を身に付けます。加えて、会社組織の起業と経営、地域のマネジメントやコーディネートに携わるうえで大事な倫理観を身に付けます。

４年次においては、３年次までに修得した知識・技能を問題の発見や解決・創作に利用できる能力、問題点を論理的に理解しその解決策を多面的な見地から思考する力、および建設的な議論ができるコミュニケーション力を修得するために卒業論文・研究に取り組みます。また、経営ビジネス学科では、経営学を始めとする各専門分野に関する高度な知識を修得すると同時に、論理的思考力、データ分析力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、研究計画力、協調性を身に付けます。

専門科目の到達目標等については、各学科のカリキュラム・ポリシーに掲げています。

３．学修成果の評価方法

ディプロマ・ポリシーで掲げる各能力の到達に関しては、講義・演習科目では筆記試験やレポートにより評価します。実験・実習形式で行われる科目については、実技試験やレポート、作品等により評価します。コミュニケーション力や表現力の育成を目的とする科目では、プレゼンテーションやディベートによる評価を重視します。到達度は点数化の上、各セメスター終了時に個人宛に通知します。また、資格の取得や外部機関による検定試験の成績、研修・交流会等での実績も到達度評価の対象となることがあります。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

産業理工学部では、近畿大学建学の精神と教育の目的に即して、文理協働の発想に根ざした高いコミュニケーション力と、自ら課題を発見し解決策を見出していく能力を持った「フロンティア人材」を世に送り出すことを目的としています。生物環境化学科、電気電子工学科、建築・デザイン学科および情報学科の各学科では、所定の課程を修め以下に示す学修成果を上げた者に学士（工学）の学位を授与します。

１．自然・技術・人文・社会が調和する文理協働の発想を志向し、多様性を尊重しつつ高い倫理観を持って、地域や国際交流の発展に貢献しようとする態度を身に付けていること。
２．各専門分野の原理・法則に基づいた論理的な思考力と、実験や作品の制作・情報の収集解析に必要な技能を身に付けていること。また、それらを問題の発見や解決・創作に利用できる能力と、建設的な議論ができるコミュニケーション力を身に付けていること。
３．問題とその解決策について主体的に思考・判断し、人々と協調して解決に向けて取組める力を身に付けていること。

また、経営ビジネス学科では、所定の課程を修め以下に示す学修成果を上げた者に学士（経営ビジネス学）の学位を授与します。

１．社会経済に関心を持ち、新しい専門知識を自ら学び、社会活動に取り組む意欲を持っていること。
２．企業その他組織に関する知識や情報を活用し、大局的かつ戦略的な思考ができること。
３．マネジメントに関する幅広い知識を応用し、社会の課題を自ら発見し解決する能力を身に付けていること。
４．企業その他組織の運営に必要な知識、および社会経済や国際化の動向を把握できる知識を持ち、それらの視点に立った行動ができること。

I

履修の手引

学園・学部・学科の目標

近畿大学学園の「建学の精神」と「教育の目的」

近畿大学学園の建学の精神は、「実学教育と人格の陶冶」です。この建学の精神を具体的に実践するために「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育の目的に掲げています。

この建学の精神と教育の目的に基づいて、「広い教養に裏打ちされた人格とチャレンジ精神をもって未来を志向しつつ、実践的学問すなわち実学の発展に貢献することのできる人材を育成」して、社会に送り出すことに全力で取り組んでいます。

本学の各学部・大学院及び各学校は、それぞれの人材育成目標に沿って、特色あるカリキュラムを用意し、充実した教授陣が、質の高い教育を提供しています。

学生の皆さんには、上記の建学の精神と教育の目的を理解していただき、本学園で、本当に優れた友人・先輩・教員や夢中になれる学問に出会い、美しいものに打たれ、豊かな教養と専門的知識を身につけ、各人固有の才能を見出し、自分に最もふさわしい将来設計をされることを願っています。

近畿大学教育方針

【産業理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

近畿大学学園の建学の精神に基づいた産業理工学部は、従来の大学における文科と理科に区別された教育に対する反省から人間主義の工学“（Humanity-Oriented Science and Engineering)”の実践を目指し、自然・技術・人文・社会が調和する文理協働の発想をもった教養ある社会人を育成することを教育理念としています。このため、本学建学の精神である実学教育のもと、技術に偏重せず21世紀が求める文理シナジー的発想とコミュニケーション力を持ったフロンティア人材を育成することを目的にしています。

実社会で活躍できる人材となるためには、専門知識ばかりではなく、社会人としての基礎能力もしっかりと身につけておくことも大切です。そのために産業理工学部では教養・基礎教育を行うための共通教養科目として人間性・社会性科目群、地域性・国際性科目群、課題設定・問題解決科目群、スポーツ・表現活動科目群という四つの科目群と外国語科目を全ての学科で開講しています。四つの科目群では幅広い教養科目の他に社会奉仕実習やインターンシップといった体験型の授業があります。外国語科目では英語、中国語、フランス語、スペイン語などのスキルアップのために習熟度別にクラス分けを行い、実践的な教育を行います。

産業理工学部は、21世紀にふさわしい新たな学びの場として人間力を高めるためのきめ細かな教育を提供し、本当に楽しく、充実した学生生活になるような体制を整えています。

生物環境化学科

【生物環境化学科の学修・教育目標】

人類と地球環境をより良い未来へ導いていくために、自然現象を分子レベルで理解し、問題解決していく能力が強く求められます。生物環境化学科では、社会の幅広い分野で活躍できるプロの技術者を育てるため、「生物」、「環境」、「化学」をバランスよく学べるカリキュラムを用意し、講義科目だけでなく実験科目と演習科目を充実させています。生物環境化学科には次の３コースがあります。

バイオサイエンスコース：バイオテクノロジーを専門に学びます。遺伝情報の流れや、それをもとにした遺伝子医薬などの応用まで幅広く学びます。微生物を用いた実験やタンパク質を用いたバイオセンサーの実験など、種々のバイオテクノロジー全般の技能を修得します。

食品生物資源コース：食の安全と品質を守り、食料その他生物資源の有効利用に携わるエキスパートを育てます。バイオテクノロジーを基盤に、新しい食品機能の発見と健康への利用、微生物の産業利用、食品と栄養の科学について学びます。また、排水浄化と有害物質の分解、バイオマスの資源化など生物を利用した自然環境の保全修復技術も身につけます。

次世代エネルギー・環境材料コース：環境にやさしい化学の観点から、地球温暖化対策、新エネルギーの研究開発、人と環境に優しい材料の開発、リサイクル技術、環境計測、環境教育を身につけます。また、導電性や磁性を持った先端材料の開発、選択的高性能化学センサーの開発、微量で特殊な化合物の検出ツールなど、21世紀を支える先端技術も身につけます。

【生物環境化学科のカリキュラム編成上の特色】

1　21世紀の最重要課題「バイオ」、「環境」、「材料」の分野で、実社会の問題を解決し新たな技術やアイデアを生み出すことのできる人材の育成を目指したバランスのとれたカリキュラムを用意しています。

2　１、２年次ではおもに生物学・有機化学・無機化学を中心とするコア科目を配し、３年次以降の展開科目で幅広い専門知識を学びます。４年次では卒業研究を中心とした本格的な研究者・技術者養成のための教育を行います。

3　１年次よりすべての学期で実験科目が開講され、充実した研究設備のもと実践的な教育を行います。

【その他の特色】

1　産学官連携による企業や公的機関との共同研究を積極的に推進しており、研究業務の実際や大学での勉強がどう生かされているのかを実感しながら勉強できます。

2　国家資格である「食品衛生管理者及び食品衛生監視員」の養成施設として当学科は認定されているほか、専門性を生かした公害防止管理者などの資格取得をサポートしています。

3　地域社会との交流による環境ボランティアや理科教育支援を積極的に行います。

4　近畿大学はもちろん、国公立大学の大学院への進学率も高く、そのためのきめ細かな指導も行います。

電気電子工学科

【電気電子工学科の学修・教育目標】

電気電子・情報通信技術は、身近な携帯電話からインターネット・自動車・航空機・ロボットなどありとあらゆるところで利用され、広く産業社会活動の基盤技術となっています。電気電子工学科では、いつまでも最前線で輝ける技術者として活躍できるよう、電気工学の基礎に始まり、半導体エレクトロニクス、情報通信、クリーンエネルギーにまで広がる個別技術をハードとソフトの両面から理解し、自然や地球環境と調和した基盤技術が開拓できる技術者を育てます。電気電子工学科には次の３コースがあります。

エネルギー・環境コース：環境保全に配慮した電気エネルギーの生成や安定供給、電気設備の設置や保全、電気電子デバイスの回路設計など、つねに社会で求めつづけられる専門知識と実践力を身につけ、社会や環境を創る・支える・守ることができる技術者を育成します。

情報通信コース：携帯電話やリモコンに組み込まれたコンピュータのソフト・ハード技術、ロボット制御技術など、情報通信社会を支える多種多様な技術を学びます。おもにコンピュータを利用した装置と装置間の通信技術を中心に、情報通信に関する理論と技術を身につけたICT基盤を支える技術者を育成します。

半導体エレクトロニクスコース：専門基礎技術を理解し、独力で知識を吸収しながら時代をリードできる、より高いレベルの「自立した技術者」を目指して、アナログ技術とディジタル技術、ハードウェア技術とソフトウェア技術、これらを組み合わせたエレクトロニクス技術に精通し、とくに情報通信社会を支える半導体デバイスの設計・製造・試験に関わる技術を学ぶことで半導体に関わる技術を修得します。さらに専門知識を活用して英語でもコミュニケーションできる能力と多角的視野に基づいた教養も身につけ、世界に通用する技術者を育成します。

【電気電子工学科のカリキュラム編成上の特色】

1　数学や物理の学修において高校からスムーズなつながりができるよう、補習的な講義などを通したリメディアル教育を行っています。また、専門分野へのつながりに配慮した専門基礎科目を設けています。

2　１、２年次では、電気電子分野の専門基礎科目を配置し、３年次以降に各コースに所属して、コースに応じた専門知識を教育します。

3　「電子情報設計プロジェクト」では、15週にわたり一つのテーマに関して、グループ討論による問題抽出、解決法の探索・実現を通してエンジニアリングデザイン能力を養います。

4　「電子情報工学セミナー」では、自己分析とグループディスカッションにより、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養います。

【その他の特色】

1　「知能ロボットプロジェクト」や「電気電子工学科ものづくり工房」により実践的なモノづくり教育を進めています。
2　各学年複数教員の担任制で、一人一人の顔が見える学生指導体制をとっています。
3　電気電子・情報通信分野からの多くの求人があり、毎年、一部上場企業をはじめとして就職率が高く、質の高さが社会や産業界から認められています。

建築・デザイン学科

【建築・デザイン学科の学修・教育目標】

建築の工学とデザインの感性を磨き、高い使命感と倫理観を身につけた建築技術者と美しい建築空間あるいはデザインコミュニケーション情報を創造するデザイナーの育成をめざします。建築や都市など規模の大きなものから、住宅や店舗の設計、ポスターデザインやウェブデザインなどの身近なものまで、幅広い「モノづくり」の技術・技能の習得を目標としてカリキュラムを編成しています。また、設計意図や完成作品の特徴を多くの人に伝え、深く印象付ける能力の習得も大切だと考えて開講科目を定めています。

建築・デザイン学科は次の２コースを設けています。

建築工学コース：国際的に通用する建築技術者に育つようより高いレベルの専門知識を授けます。建築に関する包括的な専門知識に加えて、さらに建築物や地域の安全性（建築構造）、快適性（建築環境・設備）、材料・構法（建築生産）に関する建築工学の高度な専門技術を習得するカリキュラムとしています。本コースを修了することで一級建築士受験資格と共に、二級施工管理技士受験資格を取得できます。

建築・デザインコース：自分の将来設計に合わせ、建築およびデザインの両方のプログラムを発展的に学修することができるコースです。幅広い素養と建築に関する包括的な専門知識・能力を身につけて、建設関連業界で活躍できる技術者や、企画から制作までの全過程を行える技能を持ち、デザイン関連業界で活躍できる人材の育成を目標としながら、その両方の資質を有したこれからの社会で必要とされる新たな建築士・デザイナーの育成を目指します。

建築設計・施工に欠かせない建築計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産の４分野にわたる内容と、ユニバーサルデザインを軸に情報・プロダクト・環境デザインの３分野を総合的に学修できる多彩な科目が用意されています。そのため、各学生の将来目的に応じて履修科目を選定することができます。本コースを修了することで二級建築士の受験資格を取得できます。さらに修得科目によっては一級建築士の受験が可能となります。

【建築・デザイン学科のカリキュラム編成上の特色】

1　建築とデザインのいずれをも学ぶことができるように設定された多様な科目から、自分の将来設計にあった科目の選択が可能となっております。
2　幅広い視野を持ち人間力のある実践的な建築技術者と総合的なデザイン力のあるデザイナーを育成するため、建築教育とデザイン教育を高度に織り込んだ斬新なカリキュラムを編成しています。
3　一級建築士、二級建築士、技術士などの建築業務に関わる資格の取得をめざすカリキュラムとしています。また、インテリアコーディネーター、CG検定などのプロフェッショナル資格をめざした指導にも力を注いでいます。建築やデザインの分野で就職し活躍していくためには、専門資格の取得は必須です。

【その他の特色】

1　設計事務所やデザイン事務所等の会社組織や実務者と連携した実践的な教育を行います。
2　演習を中心とした専門教育の多くは、少人数クラスの授業で個別指導を徹底しています。
3　学生にとって魅力があり、なおかつ社会的にも話題となっている課題を取り上げ、作品などその成果は、学外発表・展示などにより外部の評価を受け、授業改善に結びつけています。

情報学科

【情報学科の学修・教育目標】

情報が社会のあらゆるレベルに浸透し、私たちの身近な生活と切っても切れない存在であることが認められる中、情報自身は、常にその可能性を広げ、存在様式を進化・発展させ続けています。巨大化し、多様化していく情報と与し、手なずけ、役立てて行くためには、情報を扱うためのソフトウェアやネットワークの技術と知識を学ぶとともに、日々進化・発展していく情報の様々な形式に触れ、そのサイエンスとしての扱

い方に慣れ親しみ、新たな情報メディアの可能性を常々考えるような習慣を身につけることが必要となります。このような技術と知識と体験を身につけた人を育成するため、情報学科では次の３つのコースを設けています。

情報エンジニアリングコース：情報システムの構築とその分析・設計・開発に関わる知識と技術を身につけ、インターネット社会の情報基盤を開発する最前線において活躍できる人材を育成します。このため、情報技術に関する基礎知識（ハードウェア、ネットワーク、データベース、アルゴリズム）、情報システムに関わる分析・設計・運用技術、プログラミング、セキュリティ、先端技術（クラウド、組み込みなど）の教育を提供します。

メディア情報コース：情報メディアに関する知識と、コンテンツを制作するための手続き的知識と技能を身につけ、創造産業を含む文化産業に従事できる人材を育成します。このため、社会生活における情報メディアの役割・知的財産権・インターネットサービスやビジネス等に関する基礎知識、コンピュータ音楽・コンピュータグラフィックス・ディジタル映像といったコンテンツ制作技能、Webデザインの手法・Webプログラミング・Web解析技術といったWebサイトの企画・制作・運用に関する技能を修得するための教育を提供します。

データサイエンスコース：膨大なデータから有益な情報を抽出し、分析・予測に役立てるための手続き的知識と技能を身につけ、企業のマーケティングやデータ分析に携わる部門において活躍できる人材を育成します。このため、データ分析のための基礎知識（統計解析、データの可視化、データベース）、知識発見のための手法（データマイニング、機械学習、最適化）、そして、発展技術（シミュレーション、モデル同定）に関する教育を提供します。

【情報学科カリキュラム編成上の特色】

1　カリキュラムは、各コース共通の知識となる科目群と、それぞれのコース毎に特徴的な科目群から構成されています。
2　演習科目を多数用意して徹底した実践力の修得を行います。
3　「情報学プロジェクトⅠ・Ⅱ」として、実際に社会の中で役立つシステムを構築することを目的として、ゼミ単位少人数のチームで企画、計画から設計、コスト試算、構築、実証評価までを行い、その結果をプレゼンテーションとして発表するという講義を行います。座学や演習だけでは身につけることができない社会に役立つ実践力を育てます。

【その他の特色】

1　就職率が高いだけでなく、特に上場企業への就職者が多いのが特長です。
2　各コースの特性に沿った資格取得を積極的に指導します。

経営ビジネス学科

【経営ビジネス学科の学修・教育目標】

経営ビジネス学科では、実践的な経営センスを持ち、地域や社会に貢献する人材を育成します。知識中心の組織社会化がますます進行する中で、知的資源や人的資源をいかに活用していくかが重要となってきています。また近年、社会全体の価値観や利害の多様化が進み、複雑化し、それらの間の調和をいかに図っていくかが重要になってきています。このような変化のために、マネジメントに対するニーズと期待が高まってきています。また、学生の関心と活躍の場のグローバル化も起こってきています。

マネジメントについて最も必要なことは、社会における組織の使命や役割を明らかにすることです。その使命を果たし、役割を遂行するためには、二つの条件が不可欠です。一つは、革新性・創造性をもつことであり、組織の置かれている現状をつねにチェックし、改善を加えていくことが必要です。もう一つは、社会性をもつことであり、組織に対する社会の期待がどこにあり、社会が必要とするものは何かを考えることが必要です。マネジメントのあり方は、この２つの条件、革新性・創造性と社会性によって左右されます。

このような基本的認識に立って、経営ビジネス学科では組織経営に関する理論的、実践的教育を進めています。なお、組織は、企業だけでなく、非営利組織・自治体・地域コミュニティも含みます。これらの幅広い組織の経営（マネジメント）方法について、段階的に学んでいきます。

また、社会性を養うために、マネジメントの理論や技術だけでなく、そのよって立つ文化的背景をも学ん

でいきます。

学科では経営マネジメントとグローバル経営の２コースを設け、学生が興味や関心に応じて履修できるような編成としています。経営マネジメントコースでは、経営や会計について幅広く学び、経理面での理論と実践の融合を目指していきます。また企業・非営利組織・自治体などの組織に着目して、それらの運営に関する科目を幅広く学びます。グローバル経営コースでは、国際的な視野に立ち、グローバル社会における組織経営に関わる能力を養成します。国際化に対応するために、外国の文化の理解や語学の習得もめざします。

【経営ビジネス学科のカリキュラム編成上の特色】

1　専門基礎科目を重視し、主要分野に関する必修科目を配置しています。それをベースに、段階的、系統的履修を促します。

2　ゼミナールを中心にした少人数教育を徹底し、「全人教育」を目指し、各学年で少人数によるゼミナール教育を行います。

3　「会計処理演習」「フィールドワーク」「データ分析」を開講し、具体的事例や実践的テーマに対して、学生が直接参加する授業を行います。アクティブラーニングは各科目でも取り入れて、学修内容のより深い理解をめざします。

【その他の特色】

1　簿記関連、語学関連などの資格取得に関して、課外授業を行います。

2　アクティブラーニングを実践するために、グループワークや学外での活動を積極的に行います。

１．履修規定

1.1　はじめに

大学は、それぞれの専門分野で定められた科目について所定の単位数を修得して“学士”（英語名：Bachelor）の学位を得る所です。近畿大学産業理工学部を卒業すると“学士（工学）”または“学士（経営ビジネス学）”の学位を得ることができますが、卒業するには所定の単位を修得しなければなりません。単位を順調に修得するための履修計画や履修のための諸手続き、修得単位数の確認などは、学生自身で行わなくてはいけません。実社会では書類提出や諸手続きがわずか１日、場合によってはたった１時間遅れただけで大きな損失を被ることもありますが、それは全て“自己責任”として処理されます。大学でも同様であり、いい加減な履修計画を立てたり、必要な手続きを怠っていると、４年間で卒業できなかったり、本来取得可能な資格を取り損ねたりすることがあります。

したがって、新入生の皆さんは、当学部の“履修規定”をよく理解し、順調に卒業できるよう努めてください。

また、種々の事務手続きや休講・補講の通知、試験時間割など重要な連絡事項は、産業理工学部内専用サイトUNIVERSAL PASSPORT（以後「ユニパ」）の電子掲示によって学生の皆さんに伝えられます。

1.2　学年次

入学後１年間は１年次、在学期間が１年増すごとに２年次、３年次となります。しかしながら、３年次、４年次に進級するためには、「1.4　進級の条件」を満たしていることが必要です。そうでない場合は留年ということになります。４年次に進級していない（卒業研究に着手できない）学生に対しては当然、卒業見込証明書が発行されませんので就職活動もできませんし、在学期間を問わず進級条件を満たさない限り、卒業できません。そのようなことがないように、各学科では単位の修得状況が心配な学生の成績通知書に警告を記載しています。単位の修得状況には日頃から十分注意してください。

また、編入学、転学部、転学科あるいは再入学して本学部の学生となった場合には、修得済みの科目や単位数に応じて移動先の学科が指定した学年次に籍をおくことになります。

1.3　卒業要件

当学部で卒業資格を得るための要件は４年間以上在学し、共通教養科目、外国語科目、専門科目のなかから学科・コースで指定された必修科目、定められた単位数以上の選択必修科目をすべて修得したうえで、卒業所要単位数124単位以上を修得しなければなりません。また、“教職課程科目のうち教職に関する科目”単位は卒業所要単位に含まれませんので注意してください。

表1.1　卒業要件

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">必修・選択必修の要件</th><th>卒業に要する単位数</th><th>単位数の総計</th></tr>
<tr><td rowspan="2">共通教養科目</td><td>必修科目</td><td>10単位</td><td rowspan="4">28単位以上</td><td rowspan="6">124単位以上</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td><td>10単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語科目</td><td>必修科目</td><td>４単位</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門科目</td><td>必修科目</td><td>学科・コースで指定された全単位</td><td rowspan="2">学科・コースで指定された単位数以上</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td><td>学科・コースで指定された単位数以上</td></tr>
</table>

なお、修得しなければならない科目などは学科・コースにより大きく異なります。**詳細は表1.2および各学科の「学修の手引」を参照してください。**

表1.2　各学科の卒業要件

◎生物環境化学科 卒業所要単位数表

	必修・選択必修の要件		卒業に要する単位数	単位数の総計
共通教養科目	必修科目	10単位	28単位以上	124単位以上
	選択必修科目	10単位以上		
外国語科目	必修科目	４単位		
	選択必修科目	４単位以上		
専門科目	必修科目	38単位	80単位以上	
	選択必修科目	14単位以上		

◎電気電子工学科 卒業所要単位数表

エネルギー・環境コース

	必修・選択必修の要件		卒業に要する単位数	単位数の総計
共通教養科目	必修科目	10単位	28単位以上	124単位以上
	選択必修科目	10単位以上		
外国語科目	必修科目	４単位		
	選択必修科目	４単位以上		
専門科目	必修科目	71単位	85単位以上	
	選択必修科目	14単位以上		

情報通信コース

	必修・選択必修の要件		卒業に要する単位数	単位数の総計
共通教養科目	必修科目	10単位	28単位以上	124単位以上
	選択必修科目	10単位以上		
外国語科目	必修科目	４単位		
	選択必修科目	４単位以上		
専門科目	必修科目	71単位	85単位以上	
	選択必修科目	14単位以上		

半導体エレクトロニクスコース

	必修・選択必修の要件		卒業に要する単位数	単位数の総計
共通教養科目	必修科目	10単位	28単位以上	124単位以上
	選択必修科目	10単位以上		
外国語科目	必修科目	４単位		
	選択必修科目	４単位以上		
専門科目	必修科目	75単位	85単位以上	
	選択必修科目	10単位以上		

◎建築・デザイン学科 卒業所要単位数表

建築工学コース

	必修・選択必修の要件		卒業に要する単位数	単位数の総計
共通教養科目	必修科目	10単位	28単位以上	124単位以上
	選択必修科目	10単位以上		
外国語科目	必修科目	４単位		
	選択必修科目	４単位以上		
専門科目	必修科目	53単位	80単位以上	
	選択必修科目	17単位以上		

建築・デザインコース

	必修・選択必修の要件		卒業に要する単位数	単位数の総計
共通教養科目	必修科目	10単位	28単位以上	124単位以上
	選択必修科目	10単位以上		
外国語科目	必修科目	４単位		
	選択必修科目	４単位以上		
専門科目	必修科目	33単位	80単位以上	
	選択必修科目	４単位以上		

◎情報学科 卒業所要単位数表

情報エンジニアリングコース

	必修・選択必修の要件		卒業に要する単位数	単位数の総計
共通教養科目	必修科目	10単位	28単位以上	124単位以上
	選択必修科目	10単位以上		
外国語科目	必修科目	４単位		
	選択必修科目	４単位以上		
専門科目	必修科目	46単位	80単位以上	
	選択必修科目	８単位以上		

メディア情報コース

	必修・選択必修の要件		卒業に要する単位数	単位数の総計
共通教養科目	必修科目	10単位	28単位以上	124単位以上
	選択必修科目	10単位以上		
外国語科目	必修科目	４単位		
	選択必修科目	４単位以上		
専門科目	必修科目	30単位	80単位以上	
	選択必修科目	８単位以上		

データサイエンスコース

	必修・選択必修の要件		卒業に要する単位数	単位数の総計
共通教養科目	必修科目	10単位	28単位以上	124単位以上
	選択必修科目	10単位以上		
外国語科目	必修科目	４単位		
	選択必修科目	４単位以上		
専門科目	必修科目	38単位	80単位以上	

◎経営ビジネス学科 卒業所要単位数表

経営マネジメントコース

	必修・選択必修の要件		卒業に要する単位数	単位数の総計
共通教養科目	必修科目	10単位	28単位以上	124単位以上
	選択必修科目	10単位以上		
外国語科目	必修科目	４単位		
	選択必修科目	４単位以上		
専門科目	必修科目	28単位	80単位以上	
	選択必修科目	６単位以上		

グローバル経営コース

	必修・選択必修の要件		卒業に要する単位数	単位数の総計
共通教養科目	必修科目	10単位	28単位以上	124単位以上
	選択必修科目	10単位以上		
外国語科目	必修科目	４単位		
	選択必修科目	４単位以上		
専門科目	必修科目	28単位	80単位以上	
	選択必修科目	６単位以上		

1.4　進級の条件

1.4.1　各学年の進級条件

各学年に１年以上在学していること、かつ各学科・学年で定めている単位修得条件を満たすこと。

1.4.2　３年次進級の単位数条件

３年次に進級するためには２年次終了時に共通教養科目、外国語科目、専門科目のなかから学科・コースで指定された科目をすべて修得したうえで、卒業所要単位のうち61単位以上修得しなければなりません。そうでない場合は留年し、卒業が延期となります。詳細は表1.3および各学科の「学修の手引」に書いてありますので、十分に理解して下さい。

表1.3　各学科の進級条件

◎生物環境化学科 進級条件表

	共通教養科目・外国語科目	専門科目	単位数の総計
３年次進級条件			61単位以上
４年次進級条件	３年次までに開講される必修科目の全単位	３年次までに開講される必修科目の全単位	110単位以上

◎ 電気電子工学科 進級条件表

	共通教養科目・外国語科目	専門科目	単位数の総計
３年次進級条件		１年次に開講される必修科目の全単位	61単位以上
４年次進級条件	１年次に開講される必修科目の全単位	２年次までに開講される必修科目の全単位および「電気情報工学応用実験」「電子情報設計プロジェクト」「電子情報工学セミナー」の３科目の単位	110単位以上

◎ 建築・デザイン学科 進級条件表

	共通教養科目・外国語科目	専門科目	単位数の総計
３年次進級条件		「建築・デザイン演習Ⅰ」「建築・デザイン演習Ⅱ」「静定構造力学Ⅰ及び演習」「建築と構造」の４科目の単位	61単位以上
４年次進級条件	英語科目における必修/選択必修科目の中から４単位以上	２年次までに開講される必修科目の全単位	110単位以上

◎ 情報学科 進級条件表

	共通教養科目・外国語科目	専門科目	単位数の総計
３年次進級条件	「近大ゼミ」「科学的問題解決法」の２科目の単位	１年次に開講される必修科目の全単位	61単位以上
４年次進級条件	２年次までに開講される必修科目の全単位	２年次までに開講される必修科目の全単位および「情報学プロジェクトⅠ」「情報学プロジェクトⅡ」の２科目の単位	110単位以上

◎ 経営ビジネス学科 進級条件表

	共通教養科目・外国語科目	専門科目	単位数の総計
３年次進級条件	「近大ゼミ」「科学的問題解決法」「ライフデザイン」「日本語の技法」「情報処理Ⅰ」５科目の単位	１年次に開講される必修科目の全単位	61単位以上
４年次進級条件	３年次までに開講される必修科目の全単位	３年次までに開講される必修科目の全単位および ３年次までに開講される選択必修科目から６単位以上	110単位以上

1.4.3　４年次進級の単位数条件

４年次で取り組む卒業研究は特に重要な必修科目です。４年次に進級して卒業研究に着手するためには３年次終了時に共通教養科目、外国語科目、専門科目のなかから学科・コースで指定された科目をすべて修得したうえで、卒業所要単位のうち110単位以上修得しなければなりません。詳細は表1.3および各学科の「学修の手引」に書いてありますので、十分に理解してください。

1.5　授業について

1.5.1　授業科目の構成

当学部で開講される授業科目は、その目的や内容から表1.4のように分類されます（各科目の構成については、各学科の科目一覧表を参照のこと）。共通教養科目、外国語科目、専門科目には、それぞれ必修科目、選択必修科目および選択科目があります。

表1.4　授業科目の構成

授業科目	授業内容
共通教養科目	各学科で学ぶ専門的な知識と両輪をなす基礎的な知識と社会生活における幅広い教養を修得することを目的として、人間性・社会性科目群、地域性・国際性科目群、課題設定・問題解決科目群、スポーツ・表現活動科目群、という四つの科目群で構成されます。これらは主として1、2年次に学修するように開講されています。また、各科目群をバランスよく学修することが求められます。
外国語科目	外国語学修を通じて、異文化を正しく理解し尊重する態度を育み、グローバル社会に対応するための基礎的能力を身に付けます。
専門科目	専門分野に必要な知識と技術の修得を目的としており、講義、実験、実習、演習などの科目で構成されます。１年次から開講されますが、高年次になるにつれてそのウエイトは大きくなります。
教職課程科目	高等学校の教員免許状の取得を希望する学生に対して開講される科目です（詳細は「3.教職課程」を参照のこと）。 **※卒業の所要単位にはなりません**

1.5.2　授業形態

ほとんどの科目は毎週同一の曜日・時間帯に授業が実施されますが、一部の科目はある数日間にわたって集中的に講義が実施されることがあります。これを“集中講義”といいます。

また、近畿大学で全学共通のコンテンツ（講義動画等）を利用して実施される「KICSオンデマンド授業」では、授業コンテンツ動画を各自で視聴し、インタネットを通じてディスカッションや課題を提出することになります。

1.5.3　受講制限

適正な授業運営および教育効果の向上のために、授業で利用する教室の定期試験収容人数を上限に、受講可能な学生の人数を制限します。共通教養科目の選択必修科目の一部科目については、Web履修登録期間に、受講希望科目の抽選を実施し、その結果によって受講可能な科目を決定します（1.6.8共通教養科目の履修制限を参照）。それ以外の科目についても、第一回目の授業もしくはWeb履修登録（1.6.2履修手続きを参照）において、適正な受講者数を超過した科目には、当該の授業担当教員の判断または選考および抽選により受講制限を実施し、受講する学生の人数を調整します。

なお、受講制限により受講が認められなかった場合は、並行開講されている授業科目への振替受講となることがあります。

1.5.4　クラス編成

教育効果の向上のため受講制限とあわせてクラス編成を実施する場合があります。習熟度別クラスや再履修生専用クラスなど、あらかじめクラスが指定されている場合がありますので注意してください。

1.5.5　授業時間と単位数

当学部での授業時間は１コマ（１時限）当たり90分間で表1.5の時間割に従って授業が開講されます。ただし、同じ授業時間でも科目によって単位数が異なります。履修登録（「**1.6.2　履修手続き**」を参照のこと）をする際に各学科の「学修の手引」に記載されている単位数をよく確認してください。

所定の単位数は、15回の授業と定期試験（定期試験を実施しない科目もあります）により構成されています。その単位数を修得するには、まず、授業に全て出席して、真剣に授業内容に取り組むことが必要です。

表1.5　授業時間

（授業時間については変更となる場合があります。）

	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
時　間	9:20～10:50	11:00～12:30	13:20～14:50	15:00～16:30	16:40～18:10

1.5.6　休講と補講

やむを得ない事情で授業が行われないことを休講といい、休講された授業を、日時を改めて行うことを補講と言います。休講と補講はユニパにより通知されます。

1.5.7　出席の重要性について

授業はすべて出席することが前提であり、何回まで休めるというものではありません。したがって、各科目で設定されている成績評価方法および基準によっては、毎回出席しなければ早い段階で単位の修得が不可能になり、試験を受けることができなくなる場合があります。（課題提出や小テストなどが実施されるため欠席が多いと授業についていけなくなります）科目によっては受講者を決定するための選考で出席状況（出席・遅刻・早退）は重要な要素にもなりますので**必ず全回出席するようにして下さい。**

1.5.8　欠席について

産業理工学部においては公欠というものは存在せず、原則いかなる欠席も通常の欠席として取り扱います。しかしながら、忌引きの場合のほかいわゆる“学校感染症”に感染し学校保健安全法に基づき出席停止となる場合など表1.9に記載されるようなやむを得ない事情がある場合は、学生支援課へ相談してください。

1.6　履修から単位修得までの手順

1.6.1　履修の種類

表1.6「履修の種類と履修方法」を確認のうえ、手続きを行なってください。授業担当教員が一度許可をしても状況によっては履修を取り消す場合があります。また、他学科での履修は別途手続きが必要です。（**1.6.4「履修に関する注意事項」**を参照のこと）。

表1.6　履修の種類と履修方法

履修の種類	履修の内容	授業担当教員許可
上級履修	時間割において、自分の在籍している学科を問わず、在籍年次より上の年次を対象に開講されている授業科目を履修すること。	在籍学科を問わず必要
下級履修	時間割において、自分の在籍している学科を問わず、在籍年次より下の年次を対象に開講されている授業科目を履修すること。	他学科履修であれば必要 在籍学科であれば不要 ※ただし、クラス設定、受講制限、受講条件がある場合は必要
再 履 修	一度履修して不合格となった授業科目を自分の在籍している学科を問わず、在籍年次または下の年次を対象に開講されている授業科目を履修すること。	

※産業理工学部では原則として上級履修は認めていません。

1.6.2　履修手続き（Web履修登録）

表1.7は、授業科目の履修登録と単位修得のための一連の手続きを示しています。

すべての学生は、ユニパにてその年度に履修する授業科目（前・後期分）をWeb入力して所定の期間内にWeb申請しなければなりません。なお履修手続

きに際しては、予習・復習・レポート作成といったことに十分な学修時間が確保できるよう、原則として**前期・後期を合わせた年間の履修科目の合計が49単位を超えて履修することはできません。このことを「キャップ（CAP）制」と言います。**

ただしキャップ（CAP）制に含まれない科目もありますので、以下の除外科目一覧を確認してください。

※キャップ（CAP）制除外科目一覧

	科目名		科目名
1	職業指導（工業）	12	情報科教育法Ⅰ
2	職業指導（商業）	13	情報科教育法Ⅱ
3	教職論	14	商業科教育法Ⅰ
4	教育学概論	15	商業科教育法Ⅱ
5	教育心理学	16	特別支援教育論
6	特別活動及び総合的学習の時間の理論と方法	17	教育方法論
7	教育行政学	18	生徒・進路指導論
8	工業科教育法Ⅰ	19	教育相談
9	工業科教育法Ⅱ	20	教育実習指導
10	理科教育法Ⅰ	21	教育実習
11	理科教育法Ⅱ	22	教職実践演習（高等学校）

なお、“履修できる”単位の上限が年間49単位であり、“修得できる”単位の上限が年間49単位ではありません。したがって、前期に不合格となった科目やGPA制度における履修取り下げ科目が多いからといって、後期になって科目を追加して履修することはできませんので注意してください。

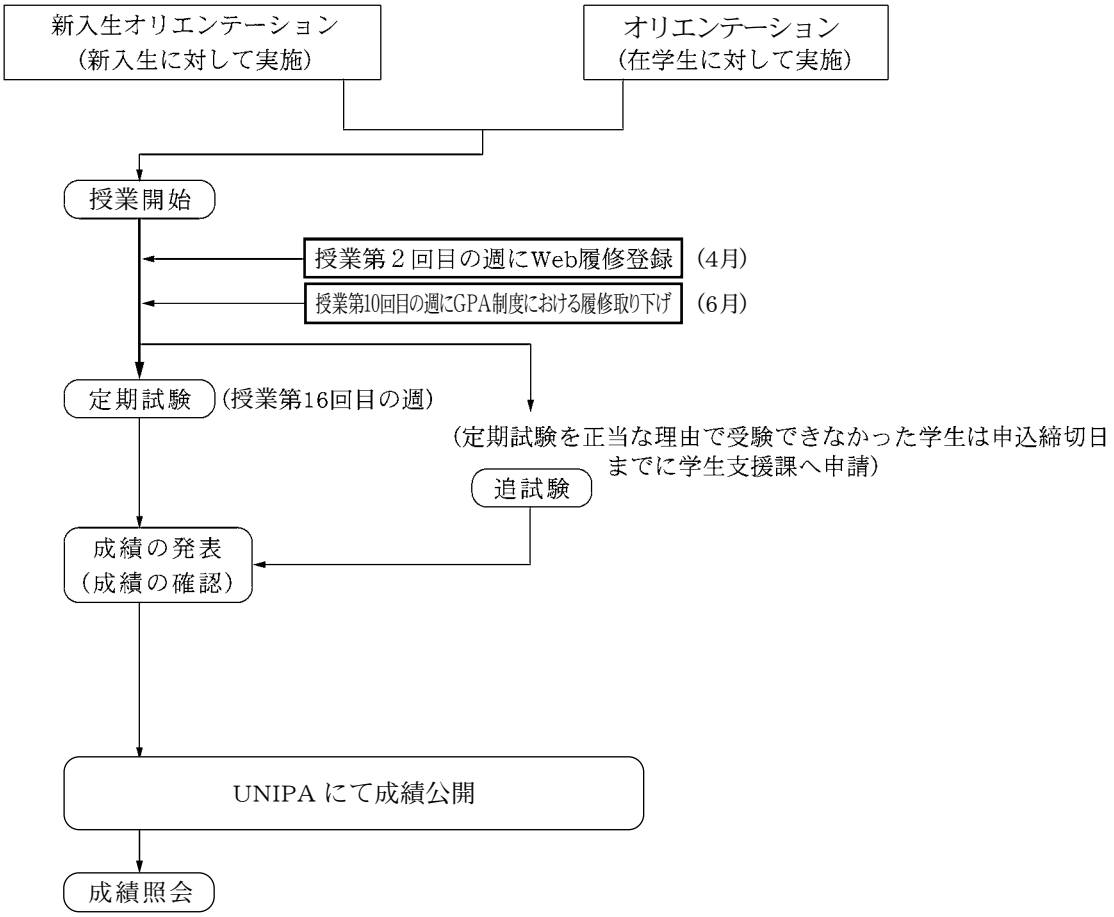
1.6.3　成績（GPA）によるCAPの緩和

１年間（前学期、前々学期）の学期GPA値が連続して3.50以上の学生は、当該学期にCAP制の年間49単位を超えて１科目（２単位まで）の追加履修を認めます。このGPAによるCAPの緩和は、学期ごとに判定を行います。連続して、学期GPA値を3.50以上維持した場合は、次学期の開始時に１科目の追加履修が可能となります。そのため、年間では最大で２科目追加履修ができ、年間で最大53単位まで履修する事ができます。

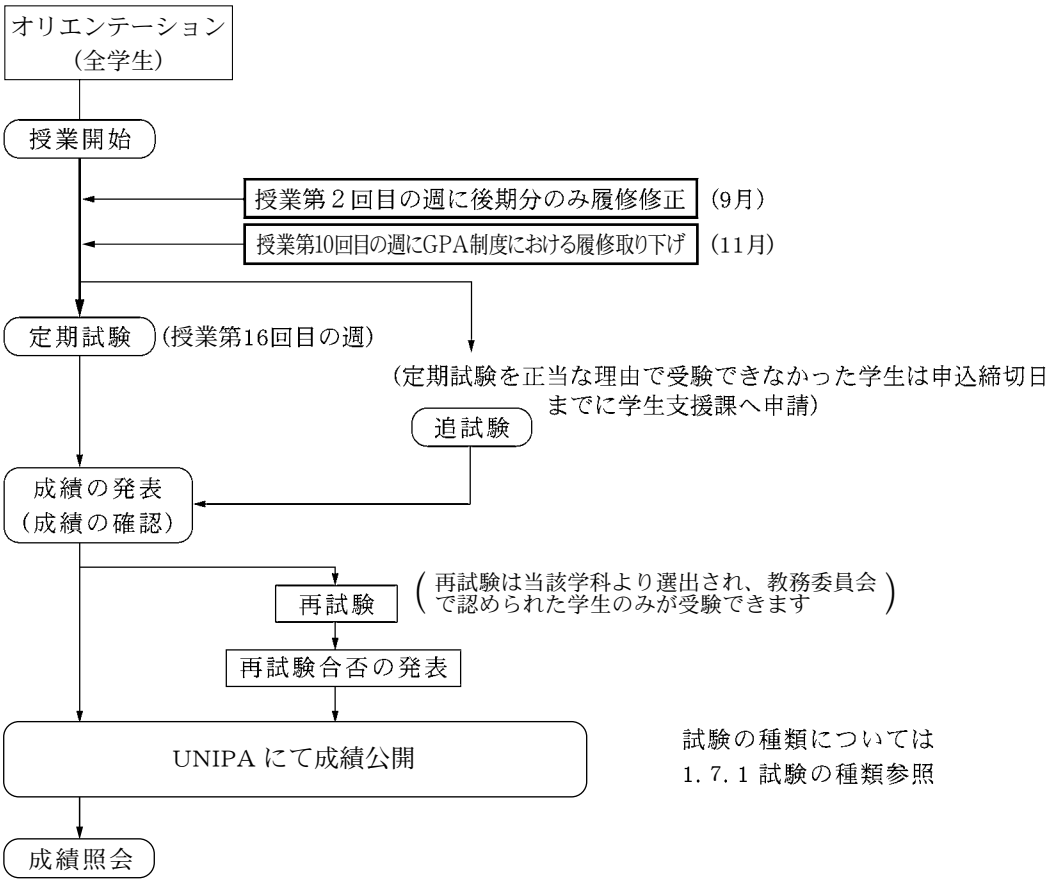
GPAによるCAPの緩和を希望する学生は、各学期の履修登録期間に教務係に申請をしてください。詳細については、ユニパを通じて連絡をします。

表1.7　単位を修得するための手続きの流れ

［前期］



［後期］



1.6.4　履修に関する注意事項

①授業の第２回目の週が履修登録期間となります。
②履修登録期間終了後のWeb履修登録は一切できません。
③英語など一部の科目においては、入学時のテストなどにより受講できる科目や科目名が同じでも受講するクラス（**1.5.4　クラス編成**）が指定されます。
④同一時間帯に二つ以上の授業科目（集中講義を含む）を履修することはできません。同一科目名の授業を同じ学期内に二つ以上履修することもできません。
⑤一度単位を修得した科目を再度履修し、その科目の成績を変更することはできません。
⑥履修制限が行われる共通教養科目やGPA等による選考または抽選により受講者を決定する授業科目がありますので、Web履修登録をしたにもかかわらず授業を受講できない場合があります。受講制限の結果、受講が認められなかった科目をWeb履修登録していた場合は、学生支援課の方でWeb履修登録を取り消します。
⑦休学や留年により卒業が遅れて他学年の科目を履修する場合、授業科目が変更となり、読替対応となる場合があります。
⑧入学年度によっては読替対応していない科目がありますので、「**読替対応表**」を確認して履修登録を行って下さい。
⑨受講者心得を守れない学生は履修を取り消すことがあります。

1.6.5　履修届の変更・修正

履修登録期間内であれば、履修科目の変更・修正はユニパ上で何度でも行えます。その際は、再度Webにて履修登録をしてください。このとき、必ずチェックボタンを押し、エラーがないことを確認後、確定ボタンを押してください。

履修登録が終わると個人別時間割を印刷することができますので、一度出力して授業科目や担当教員が正しく登録されているかを確認し、保管しておいてください。

1.6.6　履修相談

単位修得や履修計画、あるいは履修登録の手順などに関する相談には、各学科の学生支援委員や担任、学生支援課が対応します。その際、「時間割表」や「成績通知書」、「学修の手引」、「履修の手引」を持参してください。

1.6.7　受講者心得

①授業を欠席・遅刻・早退しない。
②授業中に無断で教室の出入りをしない。
③授業中に飲食をしない。
④授業中に私語をしない。
⑤授業中に携帯電話や携帯ゲーム機を使用したり、漫画や雑誌などを読んだりしない。
⑥教室内で帽子やサングラスなどを着用しない。（必要な場合は事前に申し出てください。）
※上記の内容をはじめ授業中のマナーとして問題があると思われる行為や授業を放棄していると思われる行為があった場合は履修登録を取り消すことがあります。

1.6.8　共通教養科目の履修制限

適正な授業運営および教育効果の向上のために、共通教養科目の選択必修科目の一部（人間性・社会性科目群、地域性・国際性科目群、スポーツ・表現活動科目群）については、学期ごとに履修可能な科目数に制限を行います。

履修可能な科目数が制限される共通教養科目については、Web履修登録期間に、受講希望科目の抽選を実施し、その結果によって受講する学生の調整を行います。受講希望科目の抽選詳細および履修が認められた科目については、ユニパを通じて連絡をします。履修制限により、１科目も共通教養科目の履修が認められなかった学生に対して追加希望調査を行い履修を認めますので、ユニパの案内に注意してください。

履修制限を行う共通教養科目の選択必修科目の履修可能科目数

学年	学期	
	前期	後期
１年	履修できない	２科目
２年	２科目	２科目
３年	２科目	履修できない
４年	履修できない	履修できない

1.6.9　留学生の外国語科目の履修に関する注意事項

外国人留学生は「近畿大学外国人留学生規程」の第９条と「外国人留学生の共通教養科目・外国語科目

の履修に関する特例について」により、留学生の外国語科目の履修において、公用語、母国語及びそれに準ずる日常語として使用している言語の履修が認められていません。そのため、必修・選択必修として卒業・進級に必要な外国語科目の単位は日本語科目の修得単位で代えます。詳細については、学生支援課で確認をしてください。

1.6.10　レポートにおける剽窃（ひょうせつ）（盗用）行為（plagiarism）について

“剽窃”とは他人の著作から全部または部分的に文章、図表、語句、話の筋、思想などを盗み、自作の中に自分のものとして用いることです。友人が書いたレポート等を写す行為は剽窃ですし、ネット上の情報を自分のレポートに貼り付けてしまう行為、いわゆる「コピペ」も剽窃です。他人のテキストを自分で入力しても剽窃になります。剽窃は倫理に反することであり、著作権を侵害するなど法に触れる場合もあります。剽窃は学生として絶対に行ってはいけない不正行為なのです。

近畿大学では、剽窃に対してカンニングと同様に厳正に対処します。米国の大学等ではcheating（カンニング）と同じ扱いになり、剽窃を行ったレポートが判明すると、即座に退学させられる場合もあります。ただ、処罰対象になるからやってはいけない、ということではありません。あくまで、剽窃は倫理に反する行為、不正行為だということです。

一方で、レポートを作成するときには、様々な文献を引用することがあります。様々な文献を引用することは、レポートを作成する上で重要なことです。「引用」と「剽窃・盗用」は全く異なります。文献等を引用する際に大事なことは、「自分の文章と他人の文章をレポートの中で明確に区別する」ということです。なお、引用部分は引用符「　　」で囲むなどして明確に示すこと（明瞭区別性）はもちろん、引用部分が従であること（主従関係）、出典を明示することなど厳格なルールが存在します。引用ルールの詳細については、近畿大学中央図書館学修サポート（https://www.clib.kindai.ac.jp/search/study_support.html）の「レポートの書き方」や「ダメなコピペ・パクリ≒「剽窃（ひょうせつ）」について」などを参照してください。

レポートに書いた文章は、それを書いた人の大事な自己表現です。レポートや試験でも自分の文章に誇りを持ち、剽窃などせず、自分自身の個性を存分に発揮してください。

1.7　試験

1.7.1　試験の種類

表1.8　試験の種類と内容

試験の名称	内　　容	実施時期
定　期 試　験	学生全員を対象として各学期末に行う試験（注１）	16回目 授業
臨　時 試　験	各担当教員が必要に応じて行う試験（小テストを含む）	随　時
追試験 （1.7.5参照のこと）	定期試験を正当な理由（注２）で受験できなかったと認められた場合に行う試験	定期試験 終了後
再試験 （1.7.7参照のこと）	定期試験・追試験を受験した結果、不合格となった科目について、その履修年度内で実施する試験をいいます。「不受」の場合は受験できません。 ※ただし最終学年であるなど再試験を受験するには所定の要件を満たしておかなければなりません。 また、再試験受験科目の評価は60点を最高限度とします。	各学期末

（注１）：出席や課題の提出状況、試験の受験状況等により“授業放棄”とみなされる場合があります。この場合、定期試験の受験を認めず、成績はつかず追再試験対象科目からはずされるなどの厳しい対応が行われる場合があるので注意してください。

（注２）：忌引、不慮の交通事故、公共交通機関の事故・故障、突発的な病気など（ただし、この場合は交通機関や病院が発行した証明書が必要です）に起因する場合（表1.9参照のこと）。

1.7.2　定期試験

各学期末（16回目）に実施される試験であり、定期試験を実施する科目については受験しなければ成績評価が行われません。また、定期試験に替えてレポートや課題を求められる科目も同様にすべて提出しなければ成績評価が行われませんので注意してください。

1.7.3　試験期間

試験は授業の16回目に実施し、教室等の変更がある場合はユニパにて発表します。

1.7.4　受験者心得

①授業の出席日数（回）が不足する学生は定期試験を受験できない場合があります。
②試験を受験しなかった場合は成績の評価がつきません。
③受験者は学生証を携帯し、試験中は学生証を試験監督者の見やすいところに置いて下さい。
④不正行為は一切許されません。不正行為とみなされた場合には学則等により処分されます。
⑤20分以上遅刻すると受験できません。また、試験開始後30分間は退室できません。
⑥試験中は、物品（筆記具、消しゴム、計算器等）の貸借は認められません。スマートフォン・タブレット・携帯電話なども使用できません。これらを机の上に出している場合には、電源のON、OFFに関わらず不正行為とみなされます。
⑦学費その他の納付金の未納者は受験しても無効となる場合があります。
⑧その他、受験態度不良もしくは試験監督者の指示に従わない学生は、受験の停止を命じられることがあります。

1.7.5　追試験制度について

定期試験を病気その他正当な理由により受験できなかった学生に対して行う試験であり、理由等を考慮したうえで認められた場合のみ受験資格が与えられます。定められた期間内に申し出て手続きを行わなければなりません。その際、科目数に応じて追試験料が必要となります。

1.7.6　追試験の申請

表1.9にあげられるやむをえない事由により定期試験を受験できないときは、速やかに学生支援課に連絡し、申請期間内に手続きを行ってください。その際、所定の用紙ならびに下記に掲げる提出書類を添付して届け出てください。追試験当日に追試験科目数に応じて追試験料を納めなければいけません。

表1.9　事由および提出書類

要　　件	提出書類	備　　考
本人の病気または怪我	診断書	
三親等以内の危篤または死亡	診断書または会葬礼状	※死亡の場合は最大７日間
交通機関の遅延	交通機関が発行する遅延証明書	
就職活動の面接、試験	受験した企業が発行する証明書（日時・場所等の記載されたもの）	就職活動の３・４年次のみ
勤務都合	在職証明書および勤務理由	社会人学生のみ
交通事故（２輪・４輪）	事故証明書および本学部駐車許可書	通学途中に限る
その他大学が認めるもの	追試験理由書	

※父母・養父母・配偶者・子・・・７日
　祖父母・兄弟姉妹・・・３日
　その他　　・・・１日

1.7.7　再試験制度について

最終学年の学生が履修登録をし、最終試験（定期試験・追試験）を受験した結果、不合格（成績評価「不可」）となった場合、再試験を実施することがあります。

1.7.8に再試験の受験資格と受験上の注意事項を記していますが、受験資格は学科によって異なり、教務委員会により受験資格の有無を厳密に審査します。誰もが再試験制度を利用できるわけではなく、受験したら必ず合格する制度ではありません。

受験資格を確認できた学生は、決められた日時までに手続きを行わなければなりません。その際、科目数に応じて再試験料が必要となります。また、再試験受験科目の評価は60点を最高限度とします。

再試験受験有資格者は、所属学科の教員会議および教務委員会で確認し、教授会が承認する決まりとなっています。学生諸君から、科目担当教員へ直接再試験

の実施を要求することはできません。

1.7.8　再試験の受験資格と受験上の注意

再試験の受験資格は次のとおりです。

①学部・学科が定める受験資格を満たしていること。

受験資格の詳細については、所属学科の在学生オリエンテーション等で確認してください。また、分からないことがあったら、学科の教務委員の先生に尋ねてください。

②日頃、授業に取り組む努力が顕著であること。

③ほかにも、再試験受験には以下の制約があります。

・当該年度に履修登録し不合格となった授業科目だけが対象となる。(前年度以前に履修したことがあっても、当該年度に履修し直さないと対象になりません)

・非常勤講師が担当する科目は、原則再試験の対象外となる。

・定期試験を受験しなかった科目は、再試験を受験できない。(追試験受験を認められた科目はその限りでない)。

受験資格を認められた学生の氏名、試験科目、試験日程、受験料納付期限などは学生支援課より連絡します。

1.8　成績の評価と通知

1.8.1　成績の評価

成績の評価及び判定基準を表1.10に示します。

表1.10　成績の評価

実点評価	100~90点	89~80点	79~70点	69~60点	59点以下	不受験	放棄
評価	秀	優	良	可	不可	不受	放棄
合否	合　格				不　合　格		

不受：試験を受験しなかった者の評価であり追試験の対象となる。(理由が表1.9に該当する場合)。

放棄：授業を放棄したとみなされた者の評価であり追試や再試等の受験資格がなくなる。

1.8.2　成績通知の手順

◆各学期終了時に、ユニパで成績を公開します。

1.8.3　成績照会

試験を受験したにもかかわらず不受験扱いになっている等、成績評価について疑問がある場合、学生支援課を通じて、担当教員に成績の確認を求める事ができます。手続きの詳細については、ユニパにより通知します。

1.8.4　進級判定

１年次生は年度末に、在学期間（“在学”期間は“在籍”期間とは異なります。休学期間は在籍期間には含まれますが、在学期間には含まれません。）が２年次進級の条件を満たしているかどうかが判定されます。

２年次生は年度末に、在学期間と成績が３年次進級の条件を満たしているかどうかが判定されます。３年次進級の条件を満たさず留年した学生は、所定の期日（通常年度始め）までに「留年確認届」を学生支援課に提出しなければなりません。

３年次生は年度末に、在学期間と成績が４年次進級の条件を満たしているかどうかが判定されます。

４年次進級の条件を満たさず留年した学生は、所定の期日（通常年度始め）までに「留年確認届」を学生支援課に提出しなければなりません。

1.8.5　卒業判定

４年次生は後期定期試験の後、その在学期間と成績が卒業要件を満たしているかどうかが判定され、ユニパ上に、判定結果が表示されます。

1.9　表彰および懲罰

1.9.1　表彰

在学中の学業成績、人格ともに優秀であり、他の学生の模範となった学生に対しては、学則の定めるところにより、卒業式において学長賞や学部長賞などが授与されます。また、学友会活動などで功労のあった学生に対しては、学友会活動功労賞が授与されます。

成績優秀な学生を対象とした、当学部独自の奨学金制度もあります。(『学生生活の手引』を参照)

1.9.2　懲罰

学則、学生規定その他の諸規則に違反し、本学の秩序を乱した者、または素行不良その他学生としてふさわしくない行為のあった者に対しては、学則等の手続きに従って譴責、謹慎、停学または退学の処分を行い

ます。

1.10　連絡窓口

1.10.1　休学など

病気その他やむを得ない理由で３ヶ月以上授業に出席できないときは、願い出て、その許可を得て休学することができます。休学期間は、休学を許可された日から当該学期末または当該年度末までとなります。また、**休学期間は、在学期間に算入されません。**

その他、復学、退学、再入学、除籍、復籍といった取り扱いがあります。詳しくは教員または事務窓口に相談してください。

1.10.2　学生への連絡

学生に対する公示、告示およびその他の学修上周知を要する事項は、ユニパにより通知します。常にそれらを見るように心掛けてください。

1.10.3　大学への連絡

行事予定、休講、その他授業および試験などに関する電話による問い合わせは、間違いを生じ易く、業務上も支障がありますので一切応じていません。必要のあるときは、掲示板を見るか、学生支援課の窓口で相談してください。なお、事故などの緊急時に限り、下記の連絡先を使用できます。

連絡先：産業理工学部（電話）0948－22－5655（代表）

1.10.4　事務窓口・取扱時間

事務室窓口の取扱時間帯は通常以下のようになっています。ただし、緊急の場合はこの限りではありません。

平　日　９：00～17：00

1.11　GPA（Grade Point Average）制度について

近畿大学では、100 点満点の成績評価に対応させて、成績評価の指標として GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度を施行しています。GPA とは、100 点満点の実点を５段階の GP に置き換え、その科目の単位数と関連させて GP の平均値を算出したもので、最高点４点から最低点０点までの数値です。

GPA 制度の意義は、GPA や GP によって自分の学修の全体的な達成度合いを簡便に測ることができる点にあります。GPA あるいは GP に基づいて、自分の弱点を把握し、履修計画や学修状況を反省し、より実効性のある勉学に取り組むことができるのです。

GPA は欧米の大学で広く採用されている評価方法であり、日本の大学のクローバル化に対応する制度です。すなわち、海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職などの際に幅広く通用する国際標準の成績評価制度であり、グローバル社会において必要かつ有効な制度です。

（１）GPA値の計算方法

GPA は以下の数値と計算式で算出されます。

実点評価	100～90 点	89～80 点	79～70 点	69～60 点	59 点以下	不受験
５段階評価	秀	優	良	可	不可	不受
GP グレード・ポイント	4	3	2	1	0	0

$$\text{GPA} = \frac{\{(\text{履修登録科目の単位数})\times(\text{履修登録科目の GP})\}\text{の総和}}{\text{総履修登録単位数}}$$

※GPA 算出の具体例

科目	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
単位数	1	2	1	2	2	2	2	1	2	2	2
実点	83	65	82	58	92	74	80	68	90	不受	85
GP	3	1	3	0	4	2	3	1	4	0	3

$$\text{GPA} = \frac{1\times3+2\times1+1\times3+2\times0+2\times4+2\times2+2\times3+1\times1+2\times4+2\times0+2\times3}{1+2+1+2+2+2+2+1+2+2+2}$$

$$= \frac{41}{19} = 2.16\ \text{（小数第３位を四捨五入）}$$

☞　実点は当該科目の点数を表します。

☞　GPA は小数第３位を四捨五入して、表記は小数第２位までとします。
☞　GPA の最高点は４点、最低点は０点になります。
☞　GPA の計算式には、GP 対象外科目（下記一覧参照）および認定科目（実点で成績を出さない科目※）は含まれません。　※おもに編入学生が対象となります。
☞　不可になった科目または不受験および履修放棄の科目を再履修して単位を取得した場合には、修得後のGPで上書きされます。
☞　進級要件、卒業要件には GPA を適用しません。

（２）履修取り下げについて

履修登録後、学部が定めた期間に、学生本人から申し出があった科目に関してのみ履修の取り下げを認めます。ただし、取り下げ期間中の履修科目の変更や追加は認められません。詳しい手続き方法は、別途通知します。

（３）GPA制度の活用

GPA の意義は、その値を自分の履修計画と学修状況を測る指標として活用する点にあります。以下の点に留意して、GPA 値を高めることに努めてください。

1. 履修登録科目について熟慮し、登録科目についてはしっかりと勉学をして試験において不可をとらないこと。
2. 不受験科目をなくすこと。そのために、履修放棄をする科目については「履修取り下げ期間」中に必ず「履修取り下げ」を行うこと。
3. 成績通知書の GPA 値あるいは各科目の GP 値を確認して自分の履修計画、学修状況を反省し、克服するべき課題を自覚すること。

【GP対象外科目一覧】

学科	GP対象外科目
全学科	産業理工学部入門、インターンシップ、近大ゼミ、科学的問題解決法、卒業研究、留学英語、海外語学研修、教養特殊講義Ａ、教養特殊講義Ｂ、教養特殊講義Ｃ
電気電子工学科	初等電気工学実験、電気工学基礎実験Ⅰ、電気工学基礎実験Ⅱ、電気情報工学応用実験、電気情報工学演習、電子情報設計プロジェクト、電子情報工学セミナー
建築・デザイン学科	プロジェクト研究
経営ビジネス学科	プレゼミナールⅠ、プレゼミナールⅡ、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、グローバル・スタディ、フィールドワーク、会計処理演習、特別講義Ⅰ、特別講義Ⅱ、特別講義Ⅲ、特別講義Ⅳ、経営分析
教職科目	職業指導（工業）、職業指導（商業）、教職論、教育学概論、教育心理学、特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法、教育行政学、工業科教育法Ⅰ、工業科教育法Ⅱ、理科教育法Ⅰ、理科教育法Ⅱ、情報科教育法Ⅰ、情報科教育法Ⅱ、商業科教育法Ⅰ、商業科教育法Ⅱ、特別支援教育論、教育方法論、生徒・進路指導論、教育相談、教育実習指導、教育実習、教職実践演習（高等学校）

2．授業科目一覧

2.1　教養・基礎教育部門総括表

○：必修科目　　□：選択必修科目

生物環境化学科、電気電子工学科、
建築・デザイン学科、情報学科、経営ビジネス学科

科目区分	科目群	授業科目の名称	単位数	開講年次	学期	必修・選択	備考
共通教養科目	人間性・社会性科目群	現代社会と法	2	1·2	後	□	人間性・社会性科目群から２単位以上修得すること
		暮らしのなかの憲法	2	2·3	前	□	
		現代社会と倫理	2	1～3	前,後	□	
		哲学と人間・社会	2	2·3	前	□	
		心理と行動	2	1·2	後	□	
		環境と社会	2	2·3	前	□	
		環境科学	2	1·2	後	□	
		企業倫理と知的財産	2	2·3	前	□	
		産業理工学部入門	1	1	後	□	
		教養特殊講義Ａ	2	2	集中	□	
	地域性・国際性科目群	国際経済入門	2	1·2	後	□	地域性・国際性科目群から２単位以上修得すること
		国際社会と日本	2	1·2	後	□	
		国際化と異文化理解	2	1·2	後	□	
		日本史概論	2	1·2	前,後	□	
		日本文学論	2	2·3	前	□	
		地域社会と情報	2	1·2	後	□	
		地域社会と電気技術	2	1·2	後	□	
		教養特殊講義Ｂ	2	2	前	□	
	課題設定・問題解決科目群	近大ゼミ	2	1	前	○	
		科学的問題解決法	2	1	後	○	
		ライフデザイン	2	1	前	○	
		日本語の技法	1	1	後	○	
		論理的表現法Ⅰ	1	2	前	○	
		論理的表現法Ⅱ	2	2	後	□	
		キャリアデザイン	2	2	後	□	
		就職計画	2	3	前	□	
		インターンシップ	2	3	集中	□	
		情報処理Ⅰ	2	1	前	○	
		情報処理Ⅱ	2	1	後	□	
		データリテラシー入門	2	1～4	前,後	□	
		情報処理Ⅲ	2	2	前	□	
		教養特殊講義Ｃ	2	2	後	□	
		暮らしのなかの起業入門	2	1	前,後	□	
	スポーツ・表現活動科目群	生涯スポーツ1	1	1～3	前	□	スポーツ・表現活動科目群から１単位以上修得すること
		生涯スポーツ2	1	1～3	後	□	
		健康とスポーツの科学	2	1·2	集中	□	
		食生活と健康	2	1·2	後	□	
		視覚表現論	2	1～3	前,後	□	
		空間とデザイン	2	1～3	前,後	□	

※開講年次・学期は変更になることがあります。(各年度の時間割に掲載されている学年および学期に従います)

科目区分	授業科目の名称	単位数	開講年次	学期	必修・選択	備考
外国語科目	英語Ⅰ	1	1	前	○	外国語科目から４単位以上修得すること。ただし、□１から２単位以上を含めること
	英語Ⅱ	1	1	前	○	
	英語Ⅲ	1	1	後	○	
	英語Ⅳ	1	1	後	○	
	実用英語Ⅰ	1	2	前	□1	□*は外国人留学生のみ履修できる
	実用英語Ⅱ	1	2	後	□1	
	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	3	前	□1	
	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	3	後	□1	
	インタラクティブ英語Ⅰ	1	2	前	□1	
	インタラクティブ英語Ⅱ	1	2	後	□1	
	留学英語	2	2～4		□	
	中国語Ⅰ	1	2	前	□	
	中国語Ⅱ	1	2	後	□	
	フランス語Ⅰ	1	2	前	□	
	フランス語Ⅱ	1	2	後	□	
	スペイン語Ⅰ	1	2	前	□	
	スペイン語Ⅱ	1	2	後	□	
	海外語学研修	1	1～4		□	
	日本語Ⅰ	1	1	前	□*	
	日本語Ⅱ	1	2	後	□*	
	日本語Ⅲ	1	2	前	□*	
	日本語Ⅳ	1	2	後	□*	

※開講年次・学期は変更になることがあります。

2.2　生物環境化学科総括表

○：必修科目　　□：選択必修科目　　△：選択科目

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	開講年次	学期	必修・選択 バイオサイエンス	食品生物資源	次世代エネルギー・環境材料	備考
専門科目	基礎	数学Ⅰ	2	1	前	△	△	△	
		数学Ⅱ	2	1	後	△	△	△	
		物理学Ⅰ	2	1	前	△	△	△	
		物理学Ⅱ	2	1	後	△	△	△	
	コア	生物学Ⅰ	2	1	前	○	○	○	△＊は、教職課程履修者※のみ履修できる。※Webによる履修申請だけでなく、学生支援課に教職課程受講申込書を提出し、かつ教職課程受講料を毎年度納入していなければなりません。
		生物学Ⅱ	2	1	後	□	□	□	
		物理化学Ⅰ	2	2	前	○	○	○	
		物理化学Ⅱ	2	2	後	□	□	□	
		有機化学Ⅰ	2	1	前	○	○	○	
		有機化学Ⅱ	2	1	後	□	□	□	
		無機化学Ⅰ	2	1	前	○	○	○	
		無機化学Ⅱ	2	1	後	□	□	□	
		分析化学	2	1	後	□	□	□	
		地学概論	4	2	通年	△＊	△＊	△＊	
		アカデミック有機化学Ⅱ	2	2	後	△	△	△	
		生物資源利用学	2	3	前	△	□	△	
		栄養化学	2	3	後	△	△	△	
		バイオ分析化学	2	2	前	□	□	△	
		アカデミック有機化学Ⅰ	2	2·3	前	△	△	□	
		生物環境化学特別講義Ⅰ	2	1～4	前	△	△	△	
		生物環境化学特別講義Ⅱ	2	2·3·4	後	△	△	△	
		生理学	2	2	後	□	□	△	
		公衆衛生学	2	3	後	△	□	△	
		分光分析法	2	2	後	△	△	△	
		卒業研究	6	4	通年	○	○	○	
	実験・演習	生物環境化学基礎実験	3	1	前	○	○	○	
		環境化学基礎実験	3	1	後	○	○	○	
		生物化学基礎実験	3	2	前	○	○	○	
		物質化学基礎実験	3	2	後	○	○	○	
		環境化学実験	3	3	前	○	○	○	
		物質化学実験	3	3	前	○	○	○	
		生物化学実験	3	3	後	○	○	○	
		生物環境化学実験	3	3	後	○	○	○	
	展開（環境化学系）	公害防止管理	2	2	後	△	△	□	
		環境バイオテクノロジー	2	2	後	△	□	□	
		環境とバイオの統計学	2	2	前	□	△	△	
		環境エネルギー化学	2	3	前	△	△	□	
		環境生物学	2	3	前	□	△	△	
		食品衛生学	2	2	後	△	□	△	
		環境計量学	2	3	前	△	△	□	
		生物化学Ⅰ	2	2	前	□	□	△	
		生物化学Ⅱ	2	2	後	△	△	△	
		分子遺伝学	2	3	前	□	△	△	

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	開講年次	学期	必修・選択			備考
						バイオサイエンス	食品生物資源	次世代エネルギー・環境材料	
専門科目	展開（生物化学系）	生物有機化学	2	3	前	□	△	△	
		バイオセンシング	2	3	前	△	△	△	
		微生物学	2	2	前	△	□	△	
		微生物バイオテクノロジー	2	3	後	□	□	△	
		遺伝子工学	2	3	後	□	△	△	
		食品化学	2	3	後	△	□	△	
		食品保存学	2	3	前	△	□	△	
		栄養学	2	1	前	△	△	△	
	展開（材料化学系）	高分子合成化学	2	3	前	△	△	△	
		高分子物性	2	3	後	△	△	△	
		化学と安全	2	1	前	△	△	□	
		分子シミュレーション	2	3	後	△	△	□	
		エネルギー・環境工学	2	3	前	△	△	□	
		固体化学	2	2	後	△	△	□	
		エネルギー材料化学	2	2	後	△	△	□	
		先端無機材料化学	2	3	前	△	△	△	
		有機合成化学	2	3	後	△	△	△	
		生体機能分子化学	2	3	後	△	△	△	

生物環境化学科
バイオサイエンスコース

〔進級条件〕

【２年次進級（１年次から２年次へ）】

⑴　１年次に１年間以上在学していること

【３年次進級条件（２年次から３年次へ）】

⑴　２年次に１年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】

⑴　３年次に１年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること

⑶　所属するコースで３年次までに開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】

⑴　４年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること

⑶　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること

⑷　共通教養科目20単位以上（必修科目を含む）、外国語科目８単位以上（必修科目を含む）の合計28単位以上修得していること。ただし、外国語科目は、「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「アドヴァンスト英語Ⅰ」、「アドヴァンスト英語Ⅱ」、「インタラクティブ英語Ⅰ」、「インタラクティブ英語Ⅱ」から２単位以上を含む４単位以上の選択必修科目を修得していること

⑸　共通教養科目は、「人間性・社会性科目群」から２単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から１単位以上を修得していること

⑹　所属するコースで開講されている専門科目の中から必修科目38単位、選択必修科目14単位以上を含む総計80単位以上を修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は卒業の所要単位に算入しない

食品生物資源コース

〔進級条件〕

【２年次進級（１年次から２年次へ）】

⑴　１年次に１年間以上在学していること

【３年次進級条件（２年次から３年次へ）】

⑴　２年次に１年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】

⑴　３年次に１年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること

⑶　所属するコースで３年次までに開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科

目の全単位を修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】

⑴　４年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選科目の中から総計124単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
⑷　共通教養科目20単位以上（必修科目を含む）、外国語科目８単位以上（必修科目を含む）の合計28単位以上修得していること。ただし、外国語科目は、「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「アドヴァンスト英語Ⅰ」、「アドヴァンスト英語Ⅱ」、「インタラクティブ英語Ⅰ」、「インタラクティブ英語Ⅱ」から２単位以上を含む４単位以上の選択必修科目を修得していること
⑸　共通教養科目は、「人間性・社会性科目群」から２単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から１単位以上を修得していること
⑹　所属するコースで開講されている専門科目の中から必修科目38単位、選択必修科目14単位以上を含む総計80単位以上を修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は卒業の所要単位に算入しない

次世代エネルギー・環境材料コース

〔進級条件〕

【２年次進級（１年次から２年次へ）】

⑴　１年次に１年間以上在学していること

【３年次進級条件（２年次から３年次へ）】

⑴　２年次に１年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修/選択必修/選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】

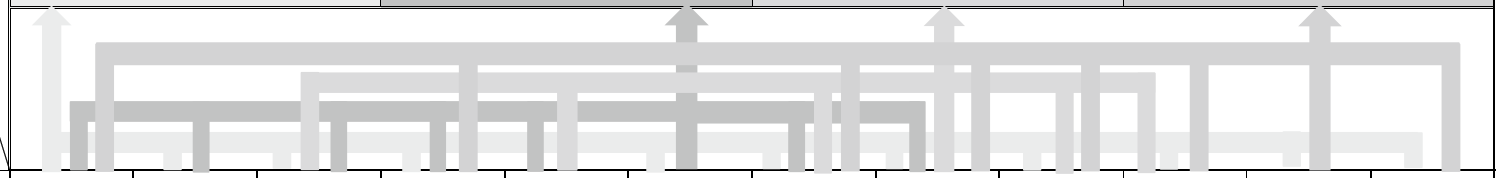
⑴　３年次に１年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで３年次までに開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】

⑴　４年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
⑷　共通教養科目20単位以上（必修科目を含む）、外国語科目８単位以上（必修科目を含む）の合計28単位以上修得していること。ただし、外国語科目は、「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「アドヴァンスト英語Ⅰ」、「アドヴァンスト英語Ⅱ」、「インタラクティブ英語Ⅰ」、「インタラクティブ英語Ⅱ」から２単位以上を含む４単位以上の選択必修科目を修得していること
⑸　共通教養科目は、「人間性・社会性科目群」から２単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から１単位以上を修得していること
⑹　所属するコースで開講されている専門科目の中から必修科目38単位、選択必修科目14単位以上を含む総計80単位以上を修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は卒業の所要単位に算入しない

カリキュラムツリー（履修系統図）・科目ナンバリングについて

生物環境化学科　カリキュラムツリー



4年次	後期					留学英語		卒業研究					教職実践演習（高等学校）
						海外語学研修		生物環境化学特別講義Ⅱ					
	前期					留学英語		卒業研究					
								生物環境化学特別講義Ⅰ					教育実習
3年次	後期	現代社会と法		インターンシップ	生涯スポーツ2	アドヴァンスト英語Ⅱ		公衆衛生学	生物化学実験	食品化学		高分子物性	
		現代社会と倫理			空間とデザイン	留学英語		栄養化学	生物環境化学実験	微生物バイオテクノロジー		有機合成化学	職業指導（工業）
						海外語学研修		生物環境化学特別講義Ⅱ		遺伝子工学			
								エネルギー・環境工学					
	前期	暮らしのなかの憲法	日本文学論	就職計画	生涯スポーツ1	アドヴァンスト英語Ⅰ		生物資源利用学	環境化学実験	分子遺伝学	環境生物学	高分子合成化学	生徒・進路指導論
		現代社会と倫理	日本史概論		視覚表現論	留学英語		生物環境化学特別講義Ⅰ	物質化学実験	生物有機化学	環境計量学	先端無機材料化学	教育相談
		哲学と人間・社会			空間とデザイン			生物環境化学特別講義Ⅰ		バイオセンシング	環境エネルギー化学	生体機能分子化学	
		心理と行動								食品保存学		分子シミュレーション	職業指導（工業）
		環境と社会											
2年次	後期	現代社会と法	国際経済入門	論理的表現法Ⅱ	生涯スポーツ2	実用英語Ⅱ		物理化学Ⅱ	物質化学基礎実験	生物化学Ⅱ	環境バイオテクノロジー		教育行政学
		現代社会と倫理	国際社会と日本	教養特殊講義C	健康とスポーツの科学	インタラクティブ英語Ⅱ		エネルギー材料化学			食品衛生学	固体化学	工業化教育法Ⅱ
		環境科学	国際化と異文化理解	キャリアデザイン	食生活と健康	留学英語		アカデミック有機化学Ⅱ					理科教育法Ⅱ
		企業倫理と知的財産	日本史概論		空間とデザイン	中国語Ⅱ		生理学					特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法
		教養特殊講義A	地域社会と情報		視覚表現論	フランス語Ⅱ		分光分析法					特別支援教育論
		心理と行動	地域社会と電気技術			スペイン語Ⅱ		生物環境化学特別講義Ⅱ					
						海外語学研修		地学概論					
						日本語Ⅱ		エネルギー・環境工学					
	前期	暮らしのなかの憲法	日本史概論	論理的表現法Ⅰ	生涯スポーツ1	実用英語Ⅰ		物理化学Ⅰ	生物化学基礎実験	生物化学Ⅰ	公害防止管理		工業化教育法Ⅰ
		現代社会と倫理	日本文学論	情報処理Ⅲ	視覚表現論	インタラクティブ英語Ⅰ		バイオ分析化学		微生物学	環境とバイオの統計学		理科教育法Ⅰ
		哲学と人間・社会	教養特殊講義B		空間とデザイン	留学英語		アカデミック有機化学Ⅰ					教育方法論
		心理と行動				中国語Ⅰ		生物環境化学特別講義Ⅰ					
		環境と社会				フランス語Ⅰ		地学概論					
						スペイン語Ⅰ							
						日本語Ⅲ							
						日本語Ⅳ							
1年次	後期	現代社会と倫理	国際経済入門	科学的問題解決法	生涯スポーツ2	英語Ⅲ	数学Ⅱ	生物学Ⅱ	環境化学基礎実験				教育心理学
		心理と行動	国際社会と日本	日本語の技法	健康とスポーツの科学	英語Ⅳ	物理学Ⅱ	有機化学Ⅱ					
		環境科学	国際化と異文化理解	情報処理Ⅱ	食生活と健康	海外語学研修		無機化学Ⅱ					
		企業倫理と知的財産	日本史概論	データリテラシー入門	空間とデザイン			分析化学					
		産業理工学部入門	地域社会と情報		視覚表現論								
			地域社会と電気技術										
	前期			近大ゼミ	生涯スポーツ1	英語Ⅰ	数学Ⅰ	生物学Ⅰ	生物環境化学基礎実験	栄養学		化学と安全	教諭論
				ライフデザイン		英語Ⅱ	物理学Ⅰ	有機化学Ⅰ					教育学概論
				情報処理Ⅰ		日本語Ⅰ		無機化学Ⅰ					
				暮らしのなかの起業入門				生物環境化学特別講義Ⅰ					
		人間性・社会性科目群	地域性・国際性科目群	課題設定・問題解決科目群	スポーツ・表現活動科目群	外国語科目	専門基礎科目	専門コア科目	実験・演習科目	展開科目（生物化学系）	展開科目（環境化学系）	展開科目（材料化学系）	教職科目

【ナンバリング科目一覧】

生物環境化学科

【専門科目】

	ナンバリング	科目名	開講年次
1	211	数学Ⅰ	1年次前期
2	212	数学Ⅱ	1年次後期
3	211	物理学Ⅰ	1年次前期
4	212	物理学Ⅱ	1年次後期
5	311	生物学Ⅰ	1年次前期
6	312	生物学Ⅱ	1年次後期
7	321	物理化学Ⅰ	2年次前期
8	322	物理化学Ⅱ	2年次後期
9	311	有機化学Ⅰ	1年次前期
10	312	有機化学Ⅱ	1年次後期
11	311	無機化学Ⅰ	1年次前期
12	312	無機化学Ⅱ	1年次後期
13	311	分析化学	1年次前期
14	321	エネルギー・環境工学	2年次後期
15	331	生物資源利用学	3年次前期
16	321	バイオ分析化学	2年次前期
17	321	エネルギー材料化学	2年次後期
18	321	アカデミック有機化学Ⅰ	2年次前期
19	322	アカデミック有機化学Ⅱ	2年次後期
20	321	生理学	2年次後期
21	331	公衆衛生学	3年次後期
22	311	生物環境化学特別講義Ⅰ	1～4年次前期
23	322	生物環境化学特別講義Ⅱ	2～4年次後期
24	313	生物環境化学基礎実験	1年次前期
25	313	環境化学基礎実験	1年次後期
26	323	生物化学基礎実験	2年次前期
27	323	物質化学基礎実験	2年次後期
28	333	環境化学実験	3年次前期
29	333	物質化学実験	3年次前期
30	333	生物化学実験	3年次後期
31	333	生物環境化学実験	3年次後期
32	421	生物化学Ⅰ	2年次前期
33	422	生物化学Ⅱ	2年次後期
34	431	分子遺伝学	3年次前期
35	431	生物有機化学	3年次前期
36	431	バイオセンシング	3年次前期
37	421	微生物学	2年次前期
38	431	微生物バイオテクノロジー	3年次後期
39	431	遺伝子工学	3年次後期
40	431	食品化学	3年次後期
41	431	食品保存学	3年次前期
42	411	栄養学	1年次前期
43	421	公害防止管理	2年次前期
44	421	環境バイオテクノロジー	2年次後期
45	421	環境とバイオの統計学	2年次前期
46	431	環境エネルギー化学	3年次前期
47	431	環境生物学	3年次前期
48	421	食品衛生学	2年次後期
49	431	高分子合成化学	3年次前期
50	431	高分子物性	3年次後期

	ナンバリング	科目名	開講年次
51	421	化学と安全	1年次前期
52	431	分子シュミレーション	3年次前期
53	421	固体化学	2年次後期
54	431	先端無機材料化学	3年次前期
55	431	有機合成化学	3年次後期
56	431	生体機能分子化学	3年次後期
57	431	環境計量学	3年次前期
58	431	栄養化学	3年次後期
59	421	分光分析法	2年次後期
60	544	卒業研究	4年次通年
61			
62			
63			
64			
65			
66			
67			
68			
69			
70			
71			
72			
73			
74			
75			
76			
77			
78			
79			

【ナンバリングの方法】

□１００の位　　１：共通教養科目・外国語科目
　　２：学部、及び専門初級科目
　　３：専門中級科目
　　４：専門上級科目
　　５：卒業研究、卒研ゼミ等

□１０の位　　開講学年

□１の位　　科目分類に従って付番

※複数の科目で同じ番号が振られる場合もあります。

【例】　○○○○学Ⅰ　２２１

履修系統図やナンバリングは学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。ナンバリングを参照することで、各科目の位置づけや科目同士の関連性を理解し、体系的な履修計画を立てることができます。履修登録時には、必ずナンバリングを参照し、各科目の教育課程における位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

2.3　電気電子工学科総括表

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択 エネルギー・環境	必修・選択 情報通信	必修・選択 半導体エレクトロニクス	備考
専門科目	基礎	基礎数学	2	1	前	○	○	○	エネルギー・環境コース
		電気電子数学	2	1	前	○	○	○	
		電気電子数学演習	2	1	後	○	○	○	□６：14単位以上
		応用数学Ⅰ	2	1	後	□6	□6	○	
		応用数学Ⅱ	2	2	前	□6	□6	○	情報通信コース
		初等信号理論	2	1	前	○	○	○	□６：14単位以上
		データ分析概論	2	1	前	○	○	○	
		シミュレーション	2	1	後	○	○	○	半導体エレクトロニクスコース
		コンピュータ概論	2	1	前	○	○	○	
		エレクトロニクス概論	2	1	前	○	○	○	□６：10単位以上
	電気基礎	電磁気学Ⅰ	2	1	後	○	○	○	
		電磁気学Ⅱ	2	2	前	○	□6	○	
		電気回路Ⅰ	2	1	前	○	○	○	
		電気回路Ⅱ	2	1	後	○	○	○	
		電気回路演習	2	1	後	□6	□6	□6	
		電気回路Ⅲ	2	2	前	○	□6	○	
	情報基礎	計算機システム	2	1	後	○	○	○	
		論理回路	2	2	前	○	○	○	
		論理回路演習	2	2	前	□6	□6	□6	
		プログラミング	2	2	前	○	○	○	
		プログラミング演習	2	2	前	○	○	○	
		データ処理とプログラミング	2	2	後	△	○	□6	
		システムプログラミング	2	2	後	△	○	□6	
	電子基礎	電子回路Ⅰ	2	2	前	○	○	○	
		電子回路Ⅰ演習	2	2	前	○	○	○	
		電子回路Ⅱ	2	2	後	○	○	○	
		電子回路設計	2	3	前	○	□6	○	
		計測工学	2	2	後	○	○	○	
	電力システム	電力システム概論	2	2	後	○	△	□6	
		電気機器	2	3	前	○	△	△	
		パワーエレクトロニクス	2	3	後	○	△	△	
		発変電工学	2	3	前	□6	△	△	
		送配電工学	2	3	後	□6	△	△	
		電気法規・施設管理	2	4	前	□6	△	△	
		エネルギー環境システム	2	3	後	○	△	△	
	情報・通信システム	情報システム概論	2	3	前	△	○	△	
		電磁波工学	2	3	前	□6	□6	□6	
		無線通信工学	2	3	後	□6	□6	□6	
		情報通信工学	2	3	前	△	○	□6	
		情報ネットワーク	2	3	後	△	○	□6	
		情報メディア工学	2	3	後	△	○	△	
		情報と職業	2	1	前	△	△	△	
		情報社会と倫理	2	1	後	△	△	△	
		情報と法	2	3	前	△	△	△	

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	学年	学期	必修・選択			備考
						エネルギー・環境	情報通信	半導体エレクトロニクス	
専門科目	応用エレクトロニクス	電気材料物性	2	3	前	□6	△	○	
		半導体工学	2	3	後	□6	□6	○	
		集積回路工学	2	2	後	△	□6	○	
		半導体エレクトロニクス	2	3	前	△	△	○	
		制御工学	2	3	前	□6	□6	○	
		組込み制御	2	3	前	△	○	□6	
		ロボティクス	2	3	後	△	□6	□6	
	実験・実習	初等電気工学実験	1	1	後	○	○	○	
		電気工学基礎実験Ⅰ	2	2	前	○	○	○	
		電気工学基礎実験Ⅱ	2	2	後	○	○	○	
		電気情報工学応用実験	2	3	前	○	○	○	
		電気情報工学演習	2	3	通年	○	○	○	
		電子情報設計プロジェクト	2	3	後	○	○	○	
		電子情報工学セミナー	2	3	後	○	○	○	
		テクニカル英語演習	2	3	通年	△	△	□6	
		電機設計・製図	2	4	前	□6	△	△	
		卒業研究	6	4	通年	○	○	○	

電気電子工学科
エネルギー・環境コース

〔進級条件〕
【２年次進級（１年次から２年次へ）】
⑴　１年次に１年間以上在学していること
【３年次進級条件（２年次から３年次へ）】
⑴　２年次に１年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで１年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
　※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない
【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】
⑴　３年次に１年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修/選択必修/選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで１年次に開講されている共通教養科目、外国語科目における必修科目の全単位を修得していること
⑷　所属するコースで２年次までに開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
⑸　３年次に開講されている専門科目のうち、「電気情報工学応用実験」、「電子情報設計プロジェクト」、「電子情報工学セミナー」の３科目のいずれの単位も修得していること
　※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない
【卒業要件】
⑴　４年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
⑷　共通教養科目20単位以上（必修科目を含む）、外国語科目８単位以上（必修科目を含む）の合計28単位以上修得していること。ただし、外国語科目は、「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「アドヴァンスト英語Ⅰ」、「アドヴァンスト英語Ⅱ」、「インタラクティブ英語Ⅰ」、「インタラクティブ英語Ⅱ」から２単位以上を含む４単位以上の選択必修科目を修得していること
⑸　共通教養科目は、「人間性・社会性科目群」から２単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「スポーツ表現活動科目群」から１単位以上を修得していること
⑹　エネルギー・環境コースにおいては、専門科目の中から必修科目71単位、選択必修科目14単位以上を含む総計85単位以上を修得していること
　※教職課程科目のうち教職に関する科目は卒業の所要単位に算入しない

情報通信コース

〔進級条件〕
【２年次進級（１年次から２年次へ）】
⑴　１年次に１年間以上在学していること
【３年次進級条件（２年次から３年次へ）】
⑴　２年次に１年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで１年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
　※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない
【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】
⑴　３年次に１年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで１年次に開講されている共通教養科目、外国語科目における必修科目の全単位を修得していること

⑷　所属するコースで２年次までに開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
⑸　３年次に開講されている専門科目のうち、「電気情報工学応用実験」、「電子情報設計プロジェクト」、「電子情報工学セミナー」の３科目のいずれの単位も修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
⑴　４年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
⑷　共通教養科目20単位以上（必修科目を含む）、外国語科目８単位以上（必修科目を含む）の合計28単位以上修得していること。ただし、外国語科目は、「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「アドヴァンスト英語Ⅰ」、「アドヴァンスト英語Ⅱ」、「インタラクティブ英語Ⅰ」、「インタラクティブ英語Ⅱ」から２単位以上を含む４単位以上の選択必修科目を修得していること
⑸　共通教養科目は、「人間性・社会性科目群」から２単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から１単位以上を修得していること
⑹　情報通信コースにおいては、専門科目の中から必修科目71単位、選択必修科目14単位以上を含む総計85単位以上を修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は卒業の所要単位に算入しない

半導体エレクトロニクスコース

〔進級条件〕

【２年次進級（１年次から２年次へ）】
⑴　１年次に１年間以上在学していること

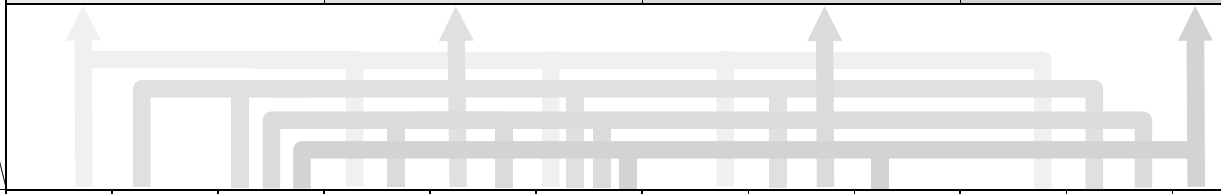
【３年次進級条件（２年次から３年次へ）】
⑴　２年次に１年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで１年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】
⑴　３年次に１年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで１年次に開講されている共通教養科目、外国語科目における必修科目の全単位を修得していること
⑷　所属するコースで２年次までに開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
⑸　３年次に開講されている専門科目のうち、「電気情報工学応用実験」、「電子情報設計プロジェクト」、「電子情報工学セミナー」の３科目のいずれの単位も修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】
⑴　４年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
⑷　共通教養科目20単位以上（必修科目を含む）、外国語科目８単位以上（必修科目を含む）の合計28単位以上修得していること。ただし、外国語科目は、「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「アドヴァンスト英語Ⅰ」、「アドヴァンスト英語Ⅱ」、「インタラクティブ英語Ⅰ」、「インタラクティブ英語Ⅱ」から２単位以上を含む４単位以上の選択必修科目を修得していること
⑸　共通教養科目は、「人間性・社会性科目群」から２単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から１単位以上を修得していること
⑹　半導体エレクトロニクスコースにおいては、専門科目の中から必修科目75単位、選択必修科目10単位以上を含む総計85単位以上を修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は卒業の所要単位に算入しない

カリキュラムツリー（履修系統図）・科目ナンバリングについて

電気電子工学科　カリキュラムツリー



		関心・意欲・態度			思考・判断			技能・表現			知識・理解		
4年次	後期					留学英語	卒業研究						
						海外語学研修							
	前期					留学英語	卒業研究	電機設計・製図	電気法規・施設管理				
3年次	後期	現代社会と法		インターンシップ	生涯スポーツ2	アドヴァンスト英語Ⅱ	電子情報工学セミナー	パワーエレクトロニクス	エネルギー環境システム	半導体工学	ロボティクス	情報ネットワーク	
		現代社会と倫理			空間とデザイン	留学英語	電子情報設計プロジェクト		送配電工学				
						海外語学研修	電気情報工学演習					無線通信工学	
						テクニカル英語演習							
	前期	暮らしのなかの憲法	日本文学論	就職計画	生涯スポーツ1	アドヴァンスト英語Ⅰ	電気電子情報工学実験	電子回路設計	発変電工学	電磁波工学	制御工学	情報システム概論	組込み制御
		現代社会と倫理	日本史概論		視覚表現論	留学英語	電気情報工学演習	電気機器		電気材料物性	半導体エレクトロニクス	情報通信工学	
		哲学と人間・社会			空間とデザイン	テクニカル英語演習						情報メディア工学	
		心理と行動											
		環境と社会											
2年次	後期	現代社会と法	国際経済入門	論理的表現法Ⅱ	生涯スポーツ2	実用英語Ⅱ	電気工学基礎実験Ⅱ	電子回路Ⅱ	電力システム概論	集積回路工学	システムプログラミング	データ処理とプログラミング	論理回路
		現代社会と倫理	国際社会と日本	教養特殊講義C	健康とスポーツの科学	インタラクティブ英語Ⅱ		計測工学					論理回路演習
		環境科学	国際化と異文化理解	キャリアデザイン	食生活と健康	留学英語							
		企業倫理と知的財産	日本史概論		空間とデザイン	中国語Ⅱ							
		教養特殊講義A	地域社会と情報		視覚表現論	フランス語Ⅱ							
		心理と行動	地域社会と電気技術			スペイン語Ⅱ							
						海外語学研修							
						日本語Ⅱ							
	前期	暮らしのなかの憲法	日本史概論	論理的表現法Ⅰ	生涯スポーツ1	実用英語Ⅰ	電気工学基礎実験Ⅰ	電子回路Ⅰ	応用数学Ⅱ	電磁気学Ⅱ	プログラミング		
		現代社会と倫理	日本文学論	情報処理Ⅲ	視覚表現論	インタラクティブ英語Ⅰ		電子回路Ⅰ演習	電気回路Ⅲ		プログラミング演習		
		哲学と人間・社会	教養特殊講義B		空間とデザイン	留学英語							
		心理と行動				中国語Ⅰ							
		環境と社会				フランス語Ⅰ							
						スペイン語Ⅰ							
						日本語Ⅲ							
						日本語Ⅳ							
1年次	後期	現代社会と倫理	国際経済入門	科学的問題解決法	生涯スポーツ2	英語Ⅲ	初等電気工学実験	電気電子数学演習	電気回路演習	電磁気学Ⅰ	計算機システム	シミュレーション	
		心理と行動	国際社会と日本	日本語の技法	健康とスポーツの科学	英語Ⅳ			電気回路Ⅱ				
		環境科学	国際化と異文化理解	情報処理Ⅱ	食生活と健康	海外語学研修			応用数学Ⅰ				
		企業倫理と知的財産	日本史概論	データリテラシー入門	空間とデザイン								
		産業理工学部入門	地域社会と情報		視覚表現論								
			地域社会と電気技術										
	前期			近大ゼミ	生涯スポーツ1	英語Ⅰ		基礎数学	電気回路Ⅰ		コンピュータ概論	初等信号理論	エレクトロニクス概論
				ライフデザイン		英語Ⅱ		電気電子数学					
				情報処理Ⅰ		日本語Ⅰ		データ分析概論					
				暮らしのなかの起業入門									
		人間性・社会性科目群	地域性・国際性科目群	課題設定・問題解決科目群	スポーツ・表現活動科目群	外国語科目	実験実習科目	電気・電子系			情報工学系科目		

【ナンバリング科目一覧】

電気電子工学科

【専門科目】

	ナンバリング	科目名	開講年次
1	211	基礎数学	1年次前期
2	212	電気電子数学	1年次前期
3	212	電気電子数学演習	1年次後期
4	215	応用数学Ⅰ	1年次後期
5	221	応用数学Ⅱ	2年次前期
6	211	データ分析概論	1年次前期
7	211	初等信号理論	1年次前期
8	212	シミュレーション	1年次後期
9	213	コンピュータ概論	1年次前期
10	214	エレクトロニクス概論	1年次前期
11	311	電磁気学Ⅰ	1年次後期
12	321	電磁気学Ⅱ	2年次前期
13	311	電気回路Ⅰ	1年次前期
14	312	電気回路Ⅱ	1年次後期
15	312	電気回路演習	1年次後期
16	323	電気回路Ⅲ	2年次前期
17	313	計算機システム	1年次後期
18	324	論理回路	2年次前期
19	324	論理回路演習	2年次前期
20	321	プログラミング	2年次前期
21	321	プログラミング演習	2年次前期
22	322	データ処理とプログラミング	2年次後期
23	322	システムプログラミング	2年次後期
24	325	電子回路Ⅰ	2年次前期
25	325	電子回路Ⅰ演習	2年次前期
26	326	電子回路Ⅱ	2年次後期
27	327	計測工学	2年次後期
28	421	電力システム概論	2年次後期
29	431	電気機器	3年次前期
30	432	パワーエレクトロニクス	3年次後期
31	433	発変電工学	3年次前期
32	434	送配電工学	3年次後期
33	435	エネルギー環境システム	3年次後期
34	441	電気法規・施設管理	4年次前期
35	442	電機設計・製図	4年次前期

	ナンバリング	科目名	開講年次
36	431	情報システム概論	3年次前期
37	432	情報通信工学	3年次前期
38	433	情報メディア工学	3年次後期
39	434	情報ネットワーク	3年次後期
40	435	半導体エレクトロニクス	3年次前期
41	436	電磁波工学	3年次前期
42	437	無線通信工学	3年次後期
43	431	電子回路設計	3年次前期
44	432	半導体工学	3年次後期
45	433	電気材料物性	3年次前期
46	434	制御工学	3年次前期
47	435	組込み制御	3年次前期
48	436	ロボティクス	3年次後期
49	437	集積回路工学	2年時後期
50	216	初等電気工学実験	1年次後期
51	323	電気工学基礎実験Ⅰ	2年次前期
52	324	電気工学基礎実験Ⅱ	2年次後期
53	435	電気電子情報工学実験	3年次前期
54	436	電気情報工学演習	3年次通年
55	437	テクニカル英語演習	3年次通年
56	531	電子情報設計プロジェクト	3年次後期
57	532	電子情報工学セミナー	3年次後期
58	541	卒業研究	4年次通年

【ナンバリングの方法】

□１００の位　　１：共通教養・外国語科目
　　２：学部、及び専門初級科目
　　３：専門中級科目
　　４：専門上級科目
　　５：卒業研究、卒研ゼミ等

□１０の位　　開講学年

□１の位　　学科毎任意に付番

履修系統図やナンバリングは学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。ナンバリングを参照することで、各科目の位置づけや科目同士の関連性を理解し、体系的な履修計画を立てることができます。履修登録時には、必ずナンバリングを参照し、各科目の教育課程における位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

2.4　建築・デザイン学科総括表

分野	授業科目	開講年次	単位数	必修・選択		週授業時間数								備　考
				建築工学	建築・デザイン	１年次		２年次		３年次		４年次		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
基礎	数学及び演習	1	3	△	△	4								
	物理学	1	2	△	△		2							
構造	静定構造力学Ⅰ及び演習	1	3	○	○	4								
	静定構造力学Ⅱ及び演習	1	3	○	△		4							
	不静定構造力学及び演習	2	3	○	△			4						
	建築と構造	1	2	○	○	2								
	鉄筋コンクリート構造	2	2	○	△				2					
	鋼構造	3	2	○	△					2				
	構造設計及び演習	3	3	□1	△						4			□１：３単位以上
生産	建築材料	1	2	○	○	2								
	施工法Ⅰ	2	2	○	○			2						
	施工法Ⅱ	2	2	○	△				2					
	施工管理及び演習	3	3	□1	△					4				
環境	環境概論	2	2	○	○			2						
	建築と環境	2	2	□2	△				2					□２：４単位以上
	都市と環境	3	2	□2	△					2				
	建築設備の基礎	2	2	○	○				2					
	建築設備の計画	3	2	□2	△					2				
	設備設計及び演習	3	3	□1	△						4			
計画	環境とデザイン	1	2	□3	□4	2								□３：10単位以上
	近現代建築論	1	2	□3	□4		2							□４：４単位以上
	住まいの計画	2	2	□3	□4			2						
	地域施設の計画	2	2	□3	□4				2					
	建築計画	3	2	□3	□4					2				
	空間造形	3	2	□3	□4					2				
	都市計画	3	2	□3	△						2			
造形・表現	基礎造形	1	3	△	△	4								
	造形演習	1	3	△	△		4							
	デザイン企画論	2	2	△	△				2					
	インテリアデザイン論	2	2	△	△					2				
	インテリアデザイン演習	3	3	△	△						4			
	画像設計演習	2	3	△	△				4					
	視覚表現演習	3	3	△	△					4				
	建築メディア論	3	2	△	△						2			
	プレゼンテーション演習	3	3	△	△					4				
	感性とデザイン	2	2	△	△			2						
	リアルサイズデザイン	2	2	△	△			2						
	色彩検定講座	2	2	△	△			2						
	図とデザイン	2	2	△	△			2						
設計	建築・デザイン演習Ⅰ	1	3	○	○	4								
	建築・デザイン演習Ⅱ	1	3	○	○		4							
	建築設計Ⅰ	2	3	○	○			4						
	建築設計Ⅱ	2	3	○	△				4					
	建築設計Ⅲ	3	3	○	△					4				
	建築設計Ⅳ	3	3	□1	△						4			
	ＣＡＤトレーニング	2	2	△	△			4						
共通	建築工学実験	2	2	○	△				4					
	建築法規	3	2	○	○						2			
	建築技術者倫理	3	2	△	△					2				
	プロジェクト研究	3	3	○	○						4			
	卒業研究	4	6	○	○							(10)	(10)	

（注）１．表中の記号は、○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目を表します。
　　２．表中の週授業時間数２時間は、１週に１時限を意味します。

建築・デザイン学科
建築工学コース

〔進級条件〕

【２年次進級（１年次から２年次へ)】

⑴　１年次に１年間以上在学していること

【３年次進級条件（２年次から３年次へ)】

⑴　２年次に１年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目から総計61単位以上を修得していること

⑶　１年次に開講されている専門科目のうち、「建築・デザイン演習Ⅰ」、「建築・デザイン演習Ⅱ」、「静定構造力学Ⅰ及び演習」、「建築と構造」の４科目のいずれの単位も修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【４年次進級条件（３年次から４年次へ)】

⑴　３年次に１年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目から総計110単位以上を修得していること

⑶　所属するコースで２年次までに開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること

⑷　外国語科目の英語科目における必修および選択必修科目の中から４単位以上を修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】

⑴　４年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目から総計124単位以上を修得していること

⑶　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること

⑷　共通教養科目20単位以上（必修科目10単位を含む)、外国語科目８単位以上（必修科目４単位を含む）の合計28単位以上を修得していること。ただし、外国語科目は、「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「アドヴァンスト英語Ⅰ」、「アドヴァンスト英語Ⅱ」、「インタラクティブ英語Ⅰ」、「インタラクティブ英語Ⅱ」から２単位以上を含む４単位以上の選択必修科目を修得していること

⑸　共通教養科目は、「人間性・社会性科目群」から２単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から１単位以上を修得していること

⑹　建築工学コースにおいては、専門科目の中から必修科目53単位、選択必修科目17単位以上を含む総計80単位以上を修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は卒業の所要単位に算入しない

建築・デザインコース

〔進級条件〕

【２年次進級（１年次から２年次へ)】

⑴　１年次に１年間以上在学していること

【３年次進級条件（２年次から３年次へ)】

⑴　２年次に１年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目から総計61単位以上を修得していること

⑶　１年次に開講されている専門科目のうち、「建築・デザイン演習Ⅰ」、「建築・デザイン演習Ⅱ」、「静定構造力学Ⅰ及び演習」、「建築と構造」の４科目のいずれの単位も修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】

⑴　３年次に１年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目から総計110単位以上を修得していること

⑶　所属するコースで２年次までに開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること

⑷　外国語科目の英語科目における必修および選択必修科目の中から４単位以上を修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】

⑴　４年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目から総計124単位以上を修得していること

⑶　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること

⑷　共通教養科目20単位以上（必修科目14単位を含む）、外国語科目８単位以上（必修科目４単位を含む）の合計28単位以上を修得していること。ただし、外国語科目は、「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「アドヴァンスト英語Ⅰ」、「アドヴァンスト英語Ⅱ」、「インタラクティブ英語Ⅰ」、「インタラクティブ英語Ⅱ」から２単位以上を含む４単位以上の選択必修科目を修得していること

⑸　共通教養科目は、「人間性・社会性科目群」から２単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から１単位以上を修得していること

⑹　建築・デザインコースにおいては、専門科目の中から必修科目33単位、選択必修科目４単位以上を含む総計80単位以上を修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は卒業の所要単位に算入しない

カリキュラムツリー（履修系統図）・科目ナンバリングについて

建築・デザイン学科　カリキュラムツリー

		関心・意欲・態度			思考・判断				技能・表現			知識・理解
4年次	後期					留学英語		卒業研究				
						海外語学研修						
	前期					留学英語		卒業研究				
3年次	後期	現代社会と法		インターンシップ	生涯スポーツ2	アドヴァンスト英語Ⅱ		プロジェクト研究	構造設計及び演習	設備設計設計及び演習	都市計画	インテリアデザイン演習
		現代社会と倫理			空間とデザイン	留学英語		建築法規			建築設計Ⅳ	建築メディア論
						海外語学研修						
	前期	暮らしのなかの憲法	日本文学論	就職計画	生涯スポーツ1	アドヴァンスト英語Ⅰ			鋼構造	都市と環境	空間造形	視覚表現演習
		現代社会と倫理	日本史概論		視覚表現論	留学英語		建築技術者倫理	施工管理及び演習	建築設備の計画	建築計画	プレゼンテーション演習
		哲学と人間・社会			空間とデザイン						建築設計Ⅲ	インテリアデザイン論
		心理と行動										
		環境と社会										
2年次	後期	現代社会と法	国際経済入門	論理的表現法Ⅱ	生涯スポーツ2	実用英語Ⅱ		建築工学実験	鉄筋コンクリート構造	建築と環境	地域施設の計画	デザイン企画論
		現代社会と倫理	国際社会と日本	キャリアデザイン	健康とスポーツの科学	インタラクティブ英語Ⅱ			施工法Ⅱ	建築設備の基礎	建築設計Ⅱ	画像設計演習
		環境科学	国際化と異文化理解	教養特殊講義C	食生活と健康	留学英語						
		企業倫理と知的財産	日本史概論		空間とデザイン	中国語Ⅱ						
		教養特殊講義A	地域社会と情報		視覚表現論	フランス語Ⅱ						
		心理と行動	地域社会と電気技術			スペイン語Ⅱ						
						海外語学研修						
						日本語Ⅱ						
	前期	暮らしのなかの憲法	日本史概論	論理的表現法Ⅰ	生涯スポーツ1	実用英語Ⅰ			不静定構造力学及び演習	環境概論	住まいの計画	感性とデザイン
		現代社会と倫理	日本文学論	情報処理Ⅲ	視覚表現論	インタラクティブ英語Ⅰ			施工法Ⅰ		建築設計Ⅰ	リアルサイズデザイン
		哲学と人間・社会	教養特殊講義B		空間とデザイン	留学英語					CADトレーニング	色彩検定講座
		心理と行動				中国語Ⅰ						図とデザイン
		環境と社会				フランス語Ⅰ						
						スペイン語Ⅰ						
						日本語Ⅲ						
						日本語Ⅳ						
1年次	後期	現代社会と倫理	国際経済入門	科学的問題解決法	生涯スポーツ2	英語Ⅲ	物理学		静定構造力学Ⅱ及び演習		近現代建築史	造形演習
		心理と行動	国際社会と日本	日本語の技法	健康とスポーツの科学	英語Ⅳ					建築・デザイン演習Ⅱ	
		環境科学	国際化と異文化理解	情報処理Ⅱ	食生活と健康	海外語学研修						
		企業倫理と知的財産	日本史概論	データリテラシー入門	空間とデザイン							
		産業理工学部入門	地域社会と情報		視覚表現論							
			地域社会と電気技術									
	前期			近大ゼミ	生涯スポーツ1	英語Ⅰ	数学及び演習		静定構造力学Ⅰ及び演習		環境とデザイン	基礎造形
				ライフデザイン		英語Ⅱ			建築と構造		建築・デザイン演習Ⅰ	
				情報処理Ⅰ		日本語Ⅰ			建築材料			
				暮らしのなかの起業入門								
		人間性・社会性科目群	地域性・国際性科目群	課題設定・問題解決科目群	スポーツ・表現活動科目群	外国語科目	専門基礎科目	専門科目（共通）	専門科目（構造・生産）	専門科目（環境）	専門科目（計画・設計）	専門科目（造形・表現）
		共通教養科目										

【ナンバリング科目一覧】

建築・デザイン学科

【専門科目】

	ナンバリング	科目名	開講年次
1	211	数学及び演習	1年次前期
2	211	物理学	1年次後期
3	213	静定構造力学Ⅰ及び演習	1年次前期
4	313	静定構造力学Ⅱ及び演習	1年次後期
5	423	不静定構造力学及び演習	2年次前期
6	213	建築と構造	1年次前期
7	423	鉄筋コンクリート構造	2年次後期
8	423	鋼構造	3年次前期
9	433	構造設計及び演習	3年次後期
10	213	建築材料	1年次前期
11	223	施工法Ⅰ	2年次前期
12	323	施工法Ⅱ	2年次後期
13	433	施工管理及び演習	3年次前期
14	224	環境概論	2年次前期
15	224	建築と環境	2年次後期
16	334	都市と環境	3年次前期
17	224	建築設備の基礎	2年次後期
18	334	建築設備の計画	3年次前期
19	434	設備設計設計及び演習	3年次後期
20	215	環境とデザイン	1年次前期
21	325	住まいの計画	2年次前期
22	325	地域施設の計画	2年次後期
23	335	空間造形	3年次前期
24	335	建築計画	3年次前期
25	335	都市計画	3年次後期
26	215	近現代建築史	1年次後期
27	216	基礎造形	1年次前期
28	316	造形演習	1年次後期
29	326	デザイン企画論	2年次後期
30	326	インテリアデザイン論	3年次前期
31	336	インテリアデザイン演習	3年次後期
32	326	画像設計演習	2年次後期
33	336	視覚表現演習	3年次前期
34	336	建築メディア論	3年次後期
35	326	感性とデザイン	2年次前期
36	326	リアルサイズデザイン	2年次前期
37	326	色彩検定講座	2年次前期
38	326	図とデザイン	2年次前期
39	336	プレゼンテーション演習	3年次前期
40	215	建築・デザイン演習Ⅰ	1年次前期
41	215	建築・デザイン演習Ⅱ	1年次後期
42	325	建築設計Ⅰ	2年次前期
43	325	建築設計Ⅱ	2年次後期
44	435	建築設計Ⅲ	3年次前期
45	435	建築設計Ⅳ	3年次後期
46	225	CADトレーニング	2年次前期
47	322	建築工学実験	2年次後期
48	332	建築法規	3年次後期
49	332	建築技術者倫理	3年次前期
50	532	プロジェクト研究	3年次後期

	ナンバリング	科目名	開講年次
51	542	卒業研究	4年次通年
52			
53			
54			
55			
56			
57			
58			
59			
60			
61			
62			
63			
64			
65			
66			
67			
68			
69			
70			
71			

【ナンバリングの方法】

□１００の位　　１：共通教養・外国語科目
２：学部、及び専門初級科目
３：専門中級科目
４：専門上級科目
５：卒業研究、卒研ゼミ等

□１０の位　　開講学年

□１の位　　学科毎任意に付番
１:専門基礎科目
２:専門科目（共通）
３:専門科目（構造・生産）
４:専門科目（環境）
５:専門科目（計画・設計）
６:専門科目（造形・表現）

※複数の科目で同じ番号が振られる場合もあります。

【例】　○○○○学Ⅰ　２２１
○○○○学Ⅱ　２２２

履修系統図やナンバリングは学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。ナンバリングを参照することで、各科目の位置づけや科目同士の関連性を理解し、体系的な履修計画を立てることができます。履修登録時には、必ずナンバリングを参照し、各科目の教育課程における位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

2.5　情報学科総括表

○：必修科目　　□：選択必修科目　　△：選択科目

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	開講年次	学期	必須・選択 情報エンジニアリング	必須・選択 メディア情報	必須・選択 データサイエンス	備考
専門科目	数学	数学	2	1	前	△	△	○	メディア情報コース□1から６単位以上，□2から２単位以上修得すること 情報エンジニアリングコース□3から８単位以上修得すること。
		数学演習	2	1	前	△	△	○	
		情報数学	2	1	後	△	△	△	
		情報数学演習	2	1	後	△	△	△	
		応用数学	2	1	後	△	△	△	
		応用情報数学	2	2	前	△	△	△	
	基礎・理論	コンピュータ概論Ⅰ	2	1	前	○	○	○	
		コンピュータ概論Ⅱ	2	1	後	○	○	○	
		ネットワークと通信の理論	2	2	前	△	△	△	
		情報と符号の理論	2	2	後	△	△	△	
		計算の複雑さ	2	3	前	△	△	△	
		暗号とセキュリティの理論	2	3	後	△	△	△	
		量子情報理論	2	2	後	△	△	△	
		量子情報理論演習	2	2	後	△	△	△	
	マネジメント・資格支援	情報システム概論	2	1	前	○	□1	△	
		プロジェクト管理	2	2	後	○	□1	△	
		プロフェッショナルデザイン	2	2	後	△	□1	△	
	情報と社会	情報と職業	2	1	前	△	□1	△	
		情報社会と倫理	2	1	後	△	□1	△	
		情報と法	2	3	前	△	□1	△	
	プログラミング	プログラミングⅠ	2	1	前	○	○	○	
		プログラミングⅡ	2	1	後	○	△	△	
		データ構造とアルゴリズム	2	2	前	○	△	△	
		データ構造とアルゴリズム演習	2	2	前	○	△	△	
		ソフトウェア工学	2	3	前	○	△	△	
		オブジェクト指向プログラミング	2	2	前	○	△	△	
		オブジェクト指向プログラミング演習	2	2	前	○	△	△	
		アドバンスドプログラミング（２コマ）	4	2	後	△	△	△	
		ソフトウェア分析・設計	2	3	前	□3	△	△	
		ソフトウェア開発・展開	2	3	前	□3	△	△	
		ソフトウェア開発演習	4	3	後	□3	△	△	
	ネットワーク	コンピュータネットワーク	2	2	前	○	○	○	
		インターネット工学	2	3	前	○	△	△	
		インターネット工学演習	2	3	前	□3	△	△	
		ネットワークセキュリティ	2	3	後	□3	△	△	
		ネットワークセキュリティ演習	2	3	後	□3	△	△	
	コンテンツ系	コンピュータ音楽	2	2	後	△	△	△	
		マルチメディア	2	1	前	△	○	△	
		Webコンテンツ企画設計	2	3	前	△	△	△	
		Webコンテンツ制作	2	2	後	△	□2	△	
		画像処理	2	3	後	△	○	△	
		映像表現	2	2	前	△	△	△	
		ゲームとシナリオのデザイン	2	2	後	△	△	△	
		コンピュータグラフィックス	2	1	後	△	□2	△	
		プロダクションワーク	2	3	前	△	○	△	

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	開講年次	学期	必須・選択			備考
						情報エンジニアリング	メディア情報	データサイエンス	
専門科目	統計ソフトウェア・可視化	統計ソフトウェアⅠ	2	1	前	○	○	○	
		統計ソフトウェアⅡ	2	2	前	△	△	○	
		データマイニングと可視化	2	3	前	△	△	△	
	情報の知的処理	シミュレーション	2	2	前	△	△	△	
		データベース	2	2	後	○	△	○	
		データベース演習	2	2	後	○	△	○	
		データサイエンス	2	3	後	△	△	○	
		データ分析演習	2	3	後	△	△	○	
		深層学習Ⅰ	2	2	後	△	△	△	
		深層学習Ⅱ	2	3	前	△	△	△	
	関連	情報学概論	2	2	前	○	○	○	
		情報学序論	2	2	後	○	○	○	
		情報学プロジェクトⅠ	2	3	前	○	○	○	
		情報学プロジェクトⅡ	2	3	後	○	○	○	
		卒業研究	6	4	前	○	○	○	

情報学科
情報エンジニアリングコース

〔進級条件〕

【２年次進級（１年次から２年次へ）】

⑴　１年次に１年間以上在学していること

【３年次進級条件（２年次から３年次へ）】

⑴　２年次に１年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること

⑶　所属するコースで１年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること

⑷　１年次に開講されている共通教養科目、外国語科目のうち、「近大ゼミ」、「科学的問題解決法」の２科目のいずれの単位も修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】

⑴　３年次に１年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること

⑶　所属するコースで２年次までに開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること

⑷　３年次に開講されている専門科目のうち、「情報学プロジェクトⅠ」、「情報学プロジェクトⅡ」の２科目のいずれの単位も修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】

⑴　４年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること

⑶　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること

⑷　共通教養科目20単位以上（必修科目を含む）、外国語科目８単位以上（必修科目を含む）の合計28単位以上修得していること。ただし、外国語科目は、「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「アドヴァンスト英語Ⅰ」、「アドヴァンスト英語Ⅱ」、「インタラクティブ英語Ⅰ」、「インタラクティブ英語Ⅱ」から２単位以上を含む４単位以上の選択必修科目を修得していること

⑸　共通教養科目は、「人間性・社会性科目群」から２単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から１単位以上を修得していること

⑹　情報エンジニアリングコースにおいては、専門科目の中から必修科目46単位、選択必修科目８単位以上を含む総計80単位以上修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は卒業の所要単位に算入しない

メディア情報コース

〔進級条件〕

【２年次進級（１年次から２年次へ）】

⑴　１年次に１年間以上在学していること

【３年次進級条件（２年次から３年次へ）】

⑴　２年次に１年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること

⑶　所属するコースで１年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること

⑷　１年次に開講されている共通教養科目、外国語科目のうち、「近大ゼミ」、「科学的問題解決法」の２科目のいずれの単位も修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】

⑴　３年次に１年間以上在学していること

⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること

⑶　所属するコースで２年次までに開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
⑷　３年次に開講されている専門科目のうち、「情報学プロジェクトⅠ」、「情報学プロジェクトⅡ」の２科目のいずれの単位も修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

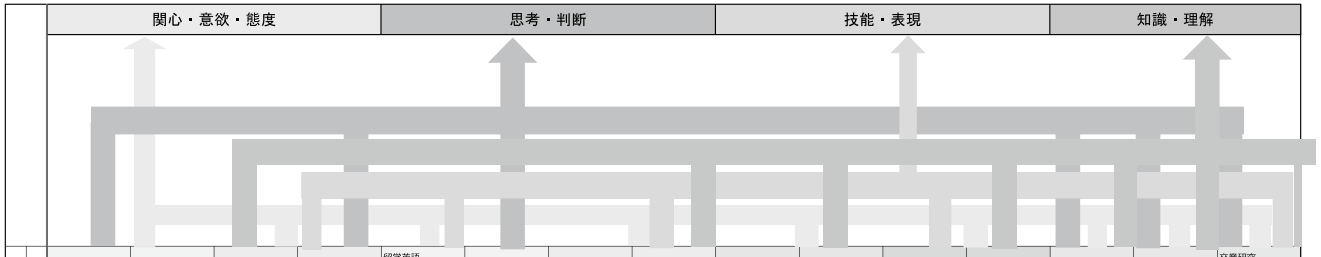
【卒業要件】
⑴　４年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
⑷　共通教養科目20単位以上（必修科目を含む）、外国語科目８単位以上（必修科目を含む）の合計28単位以上修得していること。ただし、外国語科目は、「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「アドヴァンスト英語Ⅰ」、「アドヴァンスト英語Ⅱ」、「インタラクティブ英語Ⅰ」、「インタラクティブ英語Ⅱ」から２単位以上を含む４単位以上の選択必修科目を修得していること
⑸　共通教養科目は、「人間性・社会性科目群」から２単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から１単位以上を修得していること
⑹　メディア情報コースにおいては、専門科目の中から必修科目30単位、選択必修科目８単位以上を含む総計80単位以上修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は卒業の所要単位に算入しない

データサイエンスコース

〔進級条件〕
【２年次進級（１年次から２年次へ）】
⑴　１年次に１年間以上在学していること
【３年次進級条件（２年次から３年次へ）】
⑴　２年次に１年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで１年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること
⑷　１年次に開講されている共通教養科目、外国語科目のうち、「近大ゼミ」、「科学的問題解決法』の２科目のいずれの単位も修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない
【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】
⑴　３年次に１年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで２年次までに開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
⑷　３年次に開講されている専門科目のうち、「情報学プロジェクトⅠ」、「情報学プロジェクトⅡ」の２科目のいずれの単位も修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない
【卒業要件】
⑴　４年間以上在学していること
⑵　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること
⑶　所属するコースで開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること
⑷　共通教養科目20単位以上（必修科目を含む）、外国語科目８単位以上（必修科目を含む）の合計28単位以上修得していること。ただし、外国語科目は、「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「アドヴァンスト英語Ⅰ」、「アドヴァンスト英語Ⅱ」、「インタラクティブ英語Ⅰ」、「インタラクティブ英語Ⅱ」から２単位以上を含む４単位以上の選択必修科目を修得していること
⑸　共通教養科目は、「人間性・社会性科目群」から２単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から１単位以上を修得していること
⑹　データサイエンスコースにおいては、専門科目の中から必修科目38単位を含む総計80単位以上を修得していること
※教職課程科目のうち教職に関する科目は卒業の所要単位に算入しない

カリキュラムツリー（履修系統図）・科目ナンバリングについて

情報学科　　カリキュラムツリー



		関心・意欲・態度				思考・判断				技能・表現				知識・理解		
4年次	後期					留学英語										卒業研究
						海外語学研修										
	前期					留学英語										卒業研究
3年次	後期	現代社会と法		インターンシップ	生涯スポーツ2	アドヴァンスト英語Ⅱ		暗号とセキュリティの理論	データサイエンス			ソフトウェア開発演習	ネットワークセキュリティ	画像処理		情報学プロジェクトⅡ
		現代社会と倫理			空間とデザイン	留学英語			データ分析演習				ネットワークセキュリティ演習			
						海外語学研修			深層学習Ⅱ							
	前期	暮らしのなかの憲法	日本文学論	就職計画	生涯スポーツ1	アドヴァンスト英語Ⅰ		計算の複雑さ			情報と法	ソフトウェア工学	インターネット工学	Webコンテンツ企画設計	データマイニングと可視化	情報学プロジェクトⅠ
		現代社会と倫理	日本史概論		視覚表現論	留学英語						ソフトウェア分析・設計	インターネット工学演習	プロダクションワーク		
		哲学と人間・社会			空間とデザイン							ソフトウェア開発・展開				
		心理と行動														
		環境と社会														
2年次	後期	現代社会と法	国際経済入門	論理的表現法Ⅱ	生涯スポーツ2	実用英語Ⅱ		情報と符号の理論	データベース	プロフェッショナルデザイン		アドバンスドプログラミング		コンピュータ音楽		情報学序論
		現代社会と倫理	国際社会と日本	教養特殊講義C	健康とスポーツの科学	インタラクティブ英語Ⅱ		量子情報理論	データベース演習	プロジェクト管理				Webコンテンツ制作		
		環境科学	国際化と異文化理解	キャリアデザイン	食生活と健康	留学英語		量子情報理論演習	深層学習Ⅰ					ゲームとシナリオのデザイン		
		企業倫理と知的財産	日本史概論		空間とデザイン	中国語Ⅱ										
		教養特殊講義A	地域社会と情報			フランス語Ⅱ										
		心理と行動	地域社会と電気技術			スペイン語Ⅱ										
						海外語学研修										
						日本語Ⅱ										
	前期	暮らしのなかの憲法	日本史概論	論理的表現法Ⅰ	生涯スポーツ1	実用英語Ⅰ	応用情報数学	ネットワークと通信の理論	シミュレーション			データ構造とアルゴリズム	コンピュータネットワーク	映像表現	統計ソフトウェアⅡ	情報学概論
		現代社会と倫理	日本文学論	情報処理Ⅲ	視覚表現論	インタラクティブ英語Ⅰ						データ構造とアルゴリズム演習				
		哲学と人間・社会	教養特殊講義B		空間とデザイン	留学英語						オブジェクト指向プログラミング				
		心理と行動				中国語Ⅰ						オブジェクト指向プログラミング演習				
		環境と社会				フランス語Ⅰ										
						スペイン語Ⅰ										
						日本語Ⅲ										
						日本語Ⅳ										
1年次	後期	現代社会と倫理	国際経済入門	科学的問題解決法	生涯スポーツ2	英語Ⅲ	情報数学	コンピュータ概論Ⅱ			情報社会と倫理	プログラミングⅡ		コンピュータグラフィックス		
		心理と行動	国際社会と日本	日本語の技法	健康とスポーツの科学	英語Ⅳ	情報数学演習									
		環境科学	国際化と異文化理解	情報処理Ⅱ	食生活と健康	海外語学研修	応用数学									
		企業倫理と知的財産	日本史概論	データリテラシー入門	空間とデザイン											
		産業理工学入門	地域社会と情報		視覚表現論											
			地域社会と電気技術													
	前期			近大ゼミ	生涯スポーツ1	英語Ⅰ	数学	コンピュータ概論Ⅰ		情報システム概論	情報と職業	プログラミングⅠ		マルチメディア	統計ソフトウェアⅠ	
				ライフデザイン		英語Ⅱ	数学演習									
				情報処理Ⅰ		日本語Ⅰ										
				暮らしのなかの起業入門												
		人間性・社会性科目群	地域性・国際性科目群	課題設定・問題解決科目群	スポーツ・表現活動科目群	外国語科目	専門科目：数学	専門科目：基礎・理論	専門科目：情報の知的処理	専門科目：マネジメント・資格支援	専門科目：情報と社会	専門科目：プログラミング	専門科目：ネットワーク	専門科目：コンテンツ系	統専門科目：計ソフトウェア・可視化	専門科目：関連
		共通教養科目														

【ナンバリング科目一覧】

情報学科

【専門科目】

	ナンバリング	科目名	開講年次
1	211	数学	1年次前期
2	211	数学演習	1年次前期
3	211	情報数学	1年次後期
4	211	情報数学演習	1年次後期
5	211	応用数学	1年次後期
6	321	応用情報数学	2年次前期
7	439	深層学習Ⅱ	3年次後期
8	212	コンピュータ概論Ⅰ	1年次前期
9	212	コンピュータ概論Ⅱ	1年次後期
10	322	ネットワークと通信の理論	2年次前期
11	322	情報と符号の理論	2年次後期
12	432	計算の複雑さ	3年次前期
13	432	暗号とセキュリティの理論	3年次後期
14	213	情報システム概論	1年次前期
15	323	プロジェクト管理	2年次後期
16	323	プロフェッショナルデザイン	2年次後期
17	214	情報と職業	1年次前期
18	214	情報社会と倫理	1年次後期
19	434	情報と法	3年次前期
20	215	プログラミングⅠ	1年次前期
21	215	プログラミングⅡ	1年次後期
22	325	データ構造とアルゴリズム	2年次前期
23	325	データ構造とアルゴリズム演習	2年次前期
24	435	ソフトウェア工学	3年次前期
25	325	オブジェクト指向プログラミング	2年次前期
26	325	オブジェクト指向プログラミング演習	2年次前期
27	325	アドバンスドプログラミング	2年次後期
28	435	ソフトウェア分析・設計	3年次前期
29	435	ソフトウェア開発・展開	3年次前期
30	435	ソフトウェア開発演習	3年次後期
31	326	コンピュータネットワーク	2年次前期
32	436	インターネット工学	3年次前期
33	436	インターネット工学演習	3年次前期
34	436	ネットワークセキュリティ	3年次後期
35	436	ネットワークセキュリティ演習	3年次後期
36	327	コンピュータ音楽	2年次後期
37	217	マルチメディア	1年次前期
38	437	Webコンテンツ企画設計	3年次前期
39	327	Webコンテンツ制作	2年次後期
40	437	画像処理	3年次後期
41	327	映像表現	2年次前期
42	327	ゲームとシナリオのデザイン	2年次後期
43	217	コンピュータグラフィックス	1年次後期
44	437	プロダクションワーク	3年次前期
45	218	統計ソフトウェアⅠ	1年次前期
46	328	統計ソフトウェアⅡ	2年次前期
47	329	深層学習Ⅰ	2年次後期
48	438	データマイニングと可視化	3年次前期
49	329	シミュレーション	2年次前期
50	322	量子情報理論	2年次後期

	ナンバリング	科目名	開講年次
51	322	量子情報理論演習	2年次後期
52	329	データベース	2年次後期
53	329	データベース演習	2年次後期
54	439	データサイエンス	3年次後期
55	439	データ分析演習	3年次後期
56	320	情報学概論	2年次前期
57	320	情報学序論	2年次後期
58	430	情報学プロジェクトⅠ	3年次前期
59	430	情報学プロジェクトⅡ	3年次後期
60	540	卒業研究	4年次通年
61			
62			
63			
64			
65			
66			
67			
68			
69			
70			
71			
72			
73			
74			
75			
76			
77			
78			

履修系統図やナンバリングは学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。ナンバリングを参照することで、各科目の位置づけや科目同士の関連性を理解し、体系的な履修計画を立てることができます。履修登録時には、必ずナンバリングを参照し、各科目の教育課程における位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

2.6　経営ビジネス学科総括表

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	開講年次	学期	必修・選択 経営マネジメント	必修・選択 グローバル経営	備考
専門科目	基礎	経営ビジネス学入門	2	1	前	○	○	□から６単位以上修得すること
		基礎経営学	2	1	前	○	○	
		基礎経済学	2	1	前	○	○	
		基礎流通論	2	1	前	○	○	
		簿記Ⅰ	2	1	前	○	○	
		地域マネジメント基礎論	2	1	後	○	○	
		ビジネス英語基礎	2	1	後	△	□	
		基礎情報システム論	2	1	前	△	△	
		基礎産業心理学	2	1	後	□	△	
	経営学・商学	経営管理論	2	1	後	□	□	
		経営戦略論	2	2	前	□	□	
		人的資源管理論	2	3	後	△	△	
		企業論	2	2	前	△	△	
		マーケティング論	2	1	後	○	○	
		流通システム論	2	2	後	△	△	
		データ分析	2	1	後	△	△	
		統計学	2	2	前	△	△	
		会社法	2	2	前	△	△	
		組織論	2	3	前	△	△	
		広告論	2	2	前	△	△	
		消費者行動論	2	3	前	△	△	
		マーケティングリサーチ	2	3	後	△	△	
	会計・財務	経営財務論	2	3	後	△	△	
		簿記Ⅱ	2	1	後	□	□	
		会計学	2	1･2	前,後	□	△	
		財務諸表論Ⅰ	2	2	前	□	△	
		財務諸表論Ⅱ	2	2	後	△	△	
		原価管理	2	2	前	△	△	
		経営分析	2	3	前	△	△	
		税務会計	2	2	後	△	△	
		税法Ⅰ	2	3	後	△	△	
		税法Ⅱ	2	3	前	△	△	
		管理会計論	2	2	後	△	△	
	社会・工学	社会調査論	2	2	後	□	□	
		システムの基礎	2	1	前	△	△	
		産業心理学	2	2	後	△	△	
		NPOマネジメント論	2	3	前	△	△	
		地域ビジネス論	2	2	前	□	△	
		地域経済分析	2	3	前	△	△	
		スポーツマネジメント	2	2	後	△	△	
		都市経営論	2	3	後	△	△	

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数	開講年次	学期	必修・選択 経営マネジメント	必修・選択 グローバル経営	備考
専門科目	グローバル	グローバル経営論	2	3	後	□	□	
		グローバル経済論	2	3	前	△	□	
		サステイナビリティ論	2	3	後	△	△	
		比較経営論	2	2	後	□	□	
		アジア社会文化論	2	2	後	△	△	
		グローバル・スタディ	4	3	通年	△	△	
		スポーツ社会学	2	3	前	△	△	
		スポーツ文化論	2	2	前	△	△	
		アジア企業論	2	2	後	△	△	
	コミュニケーション	外書講読	2	1	前,後	△	△	
		ビジネス英語	2	2	前	□	□	
		英語コミュニケーション	2	2	前	△	△	
		中国語コミュニケーションⅠ	2	2	後	△	□	
		中国語コミュニケーションⅡ	2	3	前	△	△	
		韓国語会話	2	2	前	△	□	
		韓国語コミュニケーションⅠ	2	2	後	△	△	
		韓国語コミュニケーションⅡ	2	3	前	△	△	
	演習	フィールドワーク	4	3	通年	△	△	
		会計処理演習	2	3	後	△	△	
		特別講義Ⅰ	2	1	後	△	△	
		特別講義Ⅱ	2	2	前,後	△	△	
		特別講義Ⅲ	2	2	後	△	△	
		特別講義Ⅳ	2	3	前	△	△	
		自然体験学習	2	1	集中	△	△	
		ビジネスゲーム	2	2	後	△	△	
		フェアトレード	2	2	後	△	△	
		ファシリテーション	2	2	後	△	△	
	ゼミナール	プレゼミナールⅠ	2	2	前	○	○	
		プレゼミナールⅡ	2	2	後	○	○	
		ゼミナールⅠ	2	3	前	○	○	
		ゼミナールⅡ	2	3	後	○	○	
		卒業研究	6	4	通年	○	○	

経営ビジネス学科
経営マネジメントコース

〔進級条件〕

【２年次進級（１年次から２年次へ）】

⑴　１年次に１年間以上在学していること

【３年次進級条件（２年次から３年次へ）】

⑴　２年次に１年間以上在学していること

⑵　共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること

⑶　１年次に開講されている共通教養科目、外国語科目のうち、「近大ゼミ」、「科学的問題解決法」、「ライフデザイン」、「日本語の技法」、「情報処理Ⅰ」の５科目のいずれの単位も修得していること

⑷　１年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】

⑴　３年次に１年間以上在学していること

⑵　共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること

⑶　３年次までに開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること

⑷　３年次までに開講されている専門科目における所属するコースの選択必修科目の中から６単位以上を修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】

⑴　４年間以上在学していること

⑵　共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること

⑶　共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること

⑷　共通教養科目20単位以上（必修科目を含む）、外国語科目８単位以上（必修科目を含む）の合計28単位以上修得していること。ただし、外国語科目は、「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「アドヴァンスト英語Ⅰ」、「アドヴァンスト英語Ⅱ」、「インタラクティブ英語Ⅰ」、「インタラクティブ英語Ⅱ」から２単位以上を含む４単位以上の選択必修科目を修得していること

⑸　共通教養科目は、「人間性・社会性科目群」から２単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から１単位以上を修得していること

⑹　専門科目の中から必修科目28単位、所属するコースの選択必修科目６単位以上を含む総計80単位以上を修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は卒業の所要単位に算入しない

グローバル経営コース

〔進級条件〕

【２年次進級（１年次から２年次へ）】

⑴　１年次に１年間以上在学していること

【３年次進級条件（２年次から３年次へ）】

⑴　２年次に１年間以上在学していること

⑵　共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計61単位以上を修得していること

⑶　１年次に開講されている共通教養科目、外国語科目のうち、「近大ゼミ」、「科学的問題解決法」、「ライフデザイン」、「日本語の技法」、「情報処理Ⅰ」の５科目のいずれの単位も修得していること

⑷　１年次に開講されている専門科目における必修科目の全単位を修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【４年次進級条件（３年次から４年次へ）】

⑴　３年次に１年間以上在学していること

⑵　共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計110単位以上を修得していること

⑶　３年次までに開講されている共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること

⑷　３年次までに開講されている専門科目における所属するコースの選択必修科目の中から６単位以上を修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は進級の所要単位に算入しない

【卒業要件】

⑴　４年間以上在学していること

⑵　共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修／選択必修／選択科目の中から総計124単位以上を修得していること

⑶　共通教養科目、外国語科目および専門科目における必修科目の全単位を修得していること

⑷　共通教養科目20単位以上（必修科目を含む）、外国語科目８単位以上（必修科目を含む）の合計28単位以上修得していること。ただし、外国語科目は、「実用英語Ⅰ」、「実用英語Ⅱ」、「アドヴァンスト英語Ⅰ」、「アドヴァンスト英語Ⅱ」、「インタラクティブ英語Ⅰ」、「インタラクティブ英語Ⅱ」から２単位以上を含む４単位以上の選択必修科目を修得していること

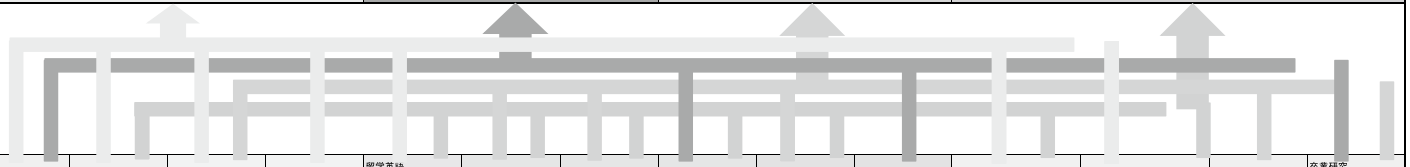
⑸　共通教養科目は、「人間性・社会性科目群」から２単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から１単位以上を修得していること

⑹　専門科目の中から必修科目28単位、所属するコースの選択必修科目６単位以上を含む総計80単位以上を修得していること

※教職課程科目のうち教職に関する科目は卒業の所要単位に算入しない

カリキュラムツリー（履修系統図）・科目ナンバリングについて

経営ビジネス学科　カリキュラムツリー



		関心・意欲・態度				思考・判断			技能・表現			知識・理解			
4年次	後期					留学英語 海外語学研修									卒業研究
4年次	前期					留学英語									卒業研究
3年次	後期	現代社会と法 現代社会と倫理		インターンシップ	生涯スポーツ2 空間とデザイン	アドヴァンスト英語Ⅱ 留学英語 海外語学研修	組織論 人的資源管理論	マーケティングリサーチ	経営財務論 税法Ⅰ	地域経済分析 都市経営論		グローバル・スタディ グローバル経営論		会計処理演習 フィールドワーク	ゼミナールⅡ
3年次	前期	暮らしのなかの憲法 現代社会と倫理 哲学と人間・社会 心理と行動 環境と社会	日本文学論 日本史概論	就職計画	生涯スポーツ1 視覚表現論 空間とデザイン	アドヴァンスト英語Ⅰ 留学英語		消費者行動論	税法Ⅱ 経営分析	NPOマネジメント		グローバル・スタディ グローバル経済論 スポーツ社会学 サステイナビリティ論	中国語コミュニケーションⅡ 韓国語コミュニケーションⅡ	特別講義Ⅳ フィールドワーク	ゼミナールⅠ
2年次	後期	現代社会と法 現代社会と倫理 環境科学 企業倫理と知的財産 教養特殊講義A 心理と行動	国際経済入門 国際社会と日本 国際化と異文化理解 日本史概論 地域社会と情報 地域社会と電気技術	論理的表現法Ⅱ 教養特殊講義C キャリアデザイン	生涯スポーツ2 健康とスポーツの科学 食生活と健康 空間とデザイン 視覚表現論	実用英語Ⅱ インタラクティブ英語Ⅱ 留学英語 中国語Ⅱ フランス語Ⅱ スペイン語Ⅱ 海外語学研修 日本語Ⅱ		流通システム論	財務諸表論Ⅱ 税法Ⅰ 管理会計論 税務会計	スポーツマネジメント 社会調査論	産業心理学	比較経営論 アジア社会文化論 アジア企業論	英語コミュニケーション 中国語コミュニケーションⅠ 韓国語コミュニケーションⅠ	特別講義Ⅱ 特別講義Ⅲ フェアトレード ファシリテーション	プレゼミナールⅡ
2年次	前期	暮らしのなかの憲法 現代社会と倫理 哲学と人間・社会 心理と行動 環境と社会	日本史概論 日本文学論 教養特殊講義B	論理的表現法Ⅰ 情報処理Ⅲ	生涯スポーツ1 視覚表現論 空間とデザイン	実用英語Ⅰ インタラクティブ英語Ⅰ 留学英語 中国語Ⅰ フランス語Ⅰ スペイン語Ⅰ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ	経営戦略論 会社法 企業論	広告論 統計学	会計学 原価管理 財務諸表論Ⅰ	地域ビジネス論		スポーツ文化論	ビジネス英語 韓国語会話	ビジネスゲーム	プレゼミナールⅠ
1年次	後期	現代社会と倫理 心理と行動 環境科学 企業倫理と知的財産 産業理工学部入門	国際経済入門 国際社会と日本 国際化と異文化理解 日本史概論 地域社会と情報 地域社会と電気技術	科学的問題解決法 日本語の技法 情報処理Ⅱ データリテラシー入門	生涯スポーツ2 健康とスポーツの科学 食生活と健康 空間とデザイン 視覚表現論	英語Ⅲ 英語Ⅳ 海外語学研修	経営管理論	マーケティング論 データ分析	簿記Ⅱ 会計学	地域マネジメント基礎論	基礎情報システム論 基礎産業心理学		ビジネス英語基礎 外書講読	特別講義Ⅰ 自然体験学習	
1年次	前期			近大ゼミ ライフデザイン 情報処理Ⅰ 暮らしのなかの起業入門	生涯スポーツ1	英語Ⅰ 英語Ⅱ 日本語Ⅰ	基礎経営学	基礎流通論	簿記Ⅰ	基礎経済学	システムの基礎		外書講読	経営ビジネス学入門	
		人間性・社会性科目群	国際性・地域性科目群	課題設定・問題解決科目群	スポーツ・表現活動科目群	外国語科目群	経営学・商学		会計・財務	社会・工学		グローバル	コミュニケーション	演習	ゼミナール

【ナンバリング科目一覧】

経営ビジネス学科

【専門科目】

	ナンバリング	科目名	開講年次
1	218	経営ビジネス学入門	1年次前期
2	211	基礎経営学	1年次前期
3	214	基礎経済学	1年次前期
4	212	基礎流通論	1年次前期
5	213	簿記Ⅰ	1年次後期
6	214	地域マネジメント基礎論	1年次後期
7	217	ビジネス英語基礎	1年次後期
8	215	基礎情報システム論	1年次後期
9	215	基礎産業心理学	1年次後期
10	211	経営管理論	1年次後期
11	321	経営戦略論	2年次前期
12	431	人的資源管理論	3年次後期
13	321	企業論	2年次前期
14	212	マーケティング論	1年次後期
15	322	流通システム論	2年次後期
16	212	データ分析	1年次後期
17	222	統計学	2年次前期
18	321	会社法	2年次前期
19	431	組織論	3年次後期
20	322	広告論	2年次前期
21	432	消費者行動論	3年次前期
22	432	マーケティングリサーチ	3年次後期
23	433	経営財務論	3年次前期
24	213	簿記Ⅱ	1年次後期
25	323	会計学	1･2年次 前/後期
26	323	財務諸表論Ⅰ	2年次前期
27	423	財務諸表論Ⅱ	2年次後期
28	323	原価管理	2年次前期
29	433	経営分析	3年次前期
30	423	税務会計	2年次後期
31	333	税法Ⅰ	3年次後期
32	433	税法Ⅱ	3年次前期
33	323	管理会計論	2年次後期
34	324	社会調査論	2年次後期
35	215	システムの基礎	1年次前期
36	325	産業心理学	2年次後期
37	434	NPOマネジメント論	3年次前期
38	324	地域ビジネス論	2年次前期
39	434	地域経済分析	3年次後期
40	324	スポーツマネジメント	2年次後期
41	434	都市経営論	3年次後期
42	436	グローバル経営論	3年次前期
43	436	グローバル経済論	3年次前期
44	436	サステイナビリティ論	3年次後期
45	326	比較経営論	2年次後期
46	326	アジア社会文化論	2年次後期
47	436	グローバル･スタディ	3年次通年
48	436	スポーツ社会学	3年次前期
49	326	スポーツ文化論	2年次前期
50	326	アジア企業論	2年次後期

	ナンバリング	科目名	開講年次
51	217	外書講読	1年次 前/後期
52	327	ビジネス英語	2年次前期
53	327	英語コミュニケーション	2年次後期
54	327	中国語コミュニケーションⅠ	2年次後期
55	437	中国語コミュニケーションⅡ	3年次前期
56	227	韓国語会話	2年次前期
57	327	韓国語コミュニケーションⅠ	2年次後期
58	437	韓国語コミュニケーションⅡ	3年次前期
59	438	フィールドワーク	3年次通年
60	438	会計処理演習	3年次後期
61	418	特別講義Ⅰ	1年次後期
62	428	特別講義Ⅱ	2年次前期
63	428	特別講義Ⅲ	2年次後期
64	438	特別講義Ⅳ	3年次前期
65	418	自然体験学習	1年次集中
66	428	ビジネスゲーム	2年次前期
67	428	フェアトレード	2年次後期
68	428	ファシリテーション	2年次後期
69	329	プレゼミナールⅠ	2年次前期
70	329	プレゼミナールⅡ	2年次後期
71	439	ゼミナールⅠ	3年次前期
72	439	ゼミナールⅡ	3年次後期
73	549	卒業研究	4年次通年

【ナンバリングの方法】

□１００の位　　１：教養科目・教養語学科目
　　２：学部、及び専門初級科目
　　３：専門中級科目
　　４：専門上級科目
　　５：卒業研究、卒研ゼミ等

□１０の位　　開講学年

□１の位　　学科毎任意に付番

※複数の科目で同じ番号が振られる場合もあります。

【例】　○○○○学Ⅰ　３２３
　　○○○○学Ⅱ　４３３

３２３：専門中級科目、２年次開講、会計・財務分野
４３３：専門上級科目、３年次開講、会計・財務分野
３２３⇒４３３の順で履修することが望ましい

履修系統図やナンバリングは学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するものです。ナンバリングを参照することで、各科目の位置づけや科目同士の関連性を理解し、体系的な履修計画を立てることができます。履修登録時には、必ずナンバリングを参照し、各科目の教育課程における位置づけを理解したうえで履修計画を立ててください。

2.7　インターンシップについて

⑴　定義

文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」（３省合意）が2022年６月に改正され、以下のタイプ３及びタイプ４がインターンシップであるとされました。

・タイプ１：オープン・カンパニー
・タイプ２：キャリア教育
・タイプ３：汎用型能力・専門活用型インターンシップ
・タイプ４：高度専門型インターンシップ（試行）

タイプ３及びタイプ４のインターンシップについては、「学生がその仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか（自らがその仕事で通用するかどうか）を見極めることを目的に、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験（企業の実務を経験すること）を行う活動（但し、学生の学修段階に応じて具体的内容は異なる）」と定義されています。

産業理工学部において実施する授業科目「インターンシップ」は、上記「タイプ３」に該当します。

⑵　意義

３省合意では、インターンシップの「学生にとっての意義」について、以下のような項目が示されています。

○　高い職業意識の育成

学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成が図られる。また、これにより、就職後の職場への適応力や定着率の向上にもつながる。

○　自主性・独創性のある人材の育成

企業等の現場において、企画提案や課題解決の実務を経験したり、就業体験を積み、専門分野における高度な知識・技術に触れながら実務能力を高めることは、課題解決・探求能力、実行力といった「社会人基礎力」や「基礎的・汎用的能力」などの社会人として必要な能力を高め、自主的に考え行動できる人材の育成にもつながる。また、企業等の現場において独創的な技術やノウハウ等がもたらすダイナミズムを目の当たりにすることにより、Society 5.0 for SDGs に向けたイノベーションの創出の担い手となる独創性と未知の分野に挑戦する意欲を持った人材の育成にも資する。

また、インターンシップの「企業にとっての意義」について、以下のような項目が示されています。

○　実践的な人材の育成
○　大学等の教育への産業界等のニーズの反映
○　企業等に対する理解の促進、魅力発信
○　採用選考時に参照し得る学生の評価材料の取得

企業は一定の基準を満たすインターンシップ（タイプ３）で取得した学生情報を、広報活動・採用選考活動の開始時期以降に限り、それぞれ使用可能とされています。

⑶　履修方法・事前学修

授業科目「インターンシップ」の受講を希望する学生は、３年次前期の履修登録期間に「インターンシップ」のWeb履修登録を行い、その後行われるインターンシップ事前学修（第１回～第４回）に全て出席してください。事前学修の日程については別途ユニパで通知します。

なお、インターンシップにおける単位認定を希望しない場合は、授業科目「インターンシップ」を履修登録する必要はありません。大学を通さず、就職情報サイトや企業独自のインターンシップサイトから、直接企業に申し込むインターンシップも多数ありますので、ご活用ください。

⑷　インターンシップ先の選定

インターンシップを行う企業は自ら探して応募する必要があります。インターンシップ先の選定にあたっては、インターンシップの内容が単位認定基準を満たすのか、事前にキャリア支援室に相談してください。別途指定する期日までに受入企業が見つからない場合、単位認定対象とはなりません。この場合、後期の履修修正期間中に、履修を行ってください。

⑸　単位認定基準を満たすインターンシップの要件

ア　〈就業体験要件〉

必ず就業体験を行う。インターンシップ実施期間の半分を超える日数を職場での就業体験に充てる。

※テレワークが常態化している場合、テレワークを含む。

イ　〈指導要件〉

就業体験では、職場の社員が学生を指導し、インターンシップ終了後、学生に対しフィードバックを

行う。

ウ　〈実施期間要件〉

インターンシップの実施期間は５日間以上。

エ　〈実施時期要件〉

学業との両立に配慮する観点から、学部３年の夏期休暇期間に実施する。

オ　〈情報開示要件〉

募集要項等に、以下の項目に関する情報を記載し、HP等で公表する。

① プログラムの趣旨（目的）
② 実施時期・期間、場所、募集人数、選抜方法、無給　有給等
③ 就業体験の内容（受入れ職場に関する情報を含む）
④ 就業体験を行う際に必要な（求められる）能力
⑤ インターンシップにおけるフィードバック
⑥ 採用活動開始以降に限り、インターンシップを通じて取得した学生情報を活用する旨
（活用内容の記載は任意）
⑦ 当該年度のインターンシップ実施計画
（時期・回数・規模等）
⑧ インターンシップ実施に係る実績概要
（過去２～３年程度）
⑨ 採用選考活動等の実績概要
※企業による公表のみ

⑹　各種手続き

インターンシップに関して必要な手続きはキャリア支援室を通して行います。キャリア支援室からの連絡を見逃さないように注意してください。手続きに関してキャリア支援室から学生の皆さんへ電話確認をすることがありますので、大学からの電話に出られなかった場合は当日中に折り返し電話してください。

⑺　インターンシップ実習簿の作成

インターンシップ期間中は毎日実習簿を記入し、実習終了後すみやかにキャリア支援室に提出してください。実習簿については実習前にキャリア支援室から配付します。

⑻　インターンシップ報告会での発表

後期に開催される報告会にて、インターンシップでの学びをプレゼンテーション形式で発表してください。報告会の日程や発表形式の詳細についてはユニパで通知します。

⑼　その他

インターンシップに関して不明な点は３号館１階キャリア支援室に問い合わせてください。

インターンシップ（単位認定型）の主なスケジュール

４月
- 履修登録
- 授業：第1回を受講（開催時期が変更になる場合があります）

５月
- インターンシップ先の選定、応募、調整
  （参加希望者多数の場合、選考を実施することがあります）

６月
- インターンシップ先の調整、決定
- 応募書類の準備、提出

７月
- 授業：第2回～第4回を受講
- 「インターンシップ実習簿」を受領

夏休み
- インターンシップへ参加（5日間以上）
  （研修期間中は毎日必ず実習簿を記入してください）

９月
- 「インターンシップ実習簿」をキャリア支援室へ提出
  ※インターンシップへ参加できなかった場合は修正期間中に
  ユニパにて履修削除を行ってください。

後期
- インターンシップ報告会にて成果発表
  （日程などの詳細はユニパで案内します）

近畿大学における教員養成の理念と目的

近畿大学は建学以来、未来志向の実学主義を掲げ、全人教育の実現に向て邁進しながら、教育の目的とする「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人」の育成に取り組んできました。

本学教職教育部における教員養成もこの教育の目的と全く軌を一にしています。すなわち、「人に愛される教師、信頼される教師、尊敬される教師」の養成、これが本学教員養成の理念です。この理念を実現することにより、本学が与えられた社会的使命の一端を果たしたいと考えます。

そのため、以下の目的に重点を置きながら、全学的な協力・指導体制をもってこの理念の実現に取り組み、「わが国の次世代を担う教育者」を養成します。

１．真に教育者たるにふさわしい人間性の育成

人に愛され、尊敬され、信頼される教師となるためには、豊かな教養や子どもに対する愛情と理解を持つとともに、人と深く関わることのできるコミュニケーション能力や協調性、教育者としての使命感を備えていることが必要です。このような能力に裏づけられた豊かな人間性を育むことを目指します。

２．教員に求められる専門性、実践的指導力の養成

現実に教員としての職責を全うするには、様々な課題を持つ子どもたちと向き合い、具体的かつ効果的な指導や援助ができなければなりません。そのために必要な専門的知識および技能の修得と実践的指導力の養成を目指します。

３．自ら資質を向上させ続ける自己教育力の獲得

今日のような変化の激しい時代にあって、特に教員には、教職についた後も、自己を教育者として、また人間として、生涯にわたって高めていくことが求められます。そのための不断の努力を可能にする自己教育力の獲得を目指します。

産業理工学部が目指す教師像

本学部では、「実学教育」と「人格の陶冶」という建学の精神や「真に教育者たるにふさわしい人間性の育成」及び「教員に求められる専門性、実践的指導力の養成」という、大学全体の教員養成に対する理念・構想を受け、さらに、文理協働の新しい発想を持った教養ある社会人育成という本学部の目標に基づいて、以下のような高等学校教員の育成を目指している。

１．理工学及び経営学という文理両方にまたがる幅広い専門分野を背景に、実践的教科指導力を有する教師

本学部では、高等学校一種の文系・理系４教科（生物環境化学科は理科・工業科、電気電子工学科は工業科・情報科、建築・デザイン学科は工業科、情報学科は情報科・工業科、経営ビジネス学科は商業科）の教員免許状が取得でき、なおかつ、本学部独自の特色として、真剣に教師を目指している学生に対しては、公立高等学校教員採用試験の個別対策指導や私立高等学校教員への就職斡旋等も実施している。単に教員免許状を取得させることが目的なのではなく、各々の担当教科の教科指導力に秀で、学校現場での即戦力を身につけた教師を育成することに尽力している。このため、各学科の専門教育担当教員と教職課程専任教員が常に密接な連携を取り、「生徒の学力実態に即応した、分かりやすい授業を行うことができる能力」を実践的教科指導力と捉え、学部教授会、各学科会議、教職委員会、教務委員会等の場で教員養成に関する活発な意見交換を行っており、専門教育担当教員も本学部の教員養成方針や教員就職状況等について熟知し、学部全体をあげての教員養成体制を取っている。

２．総合的な人間力を有する教師

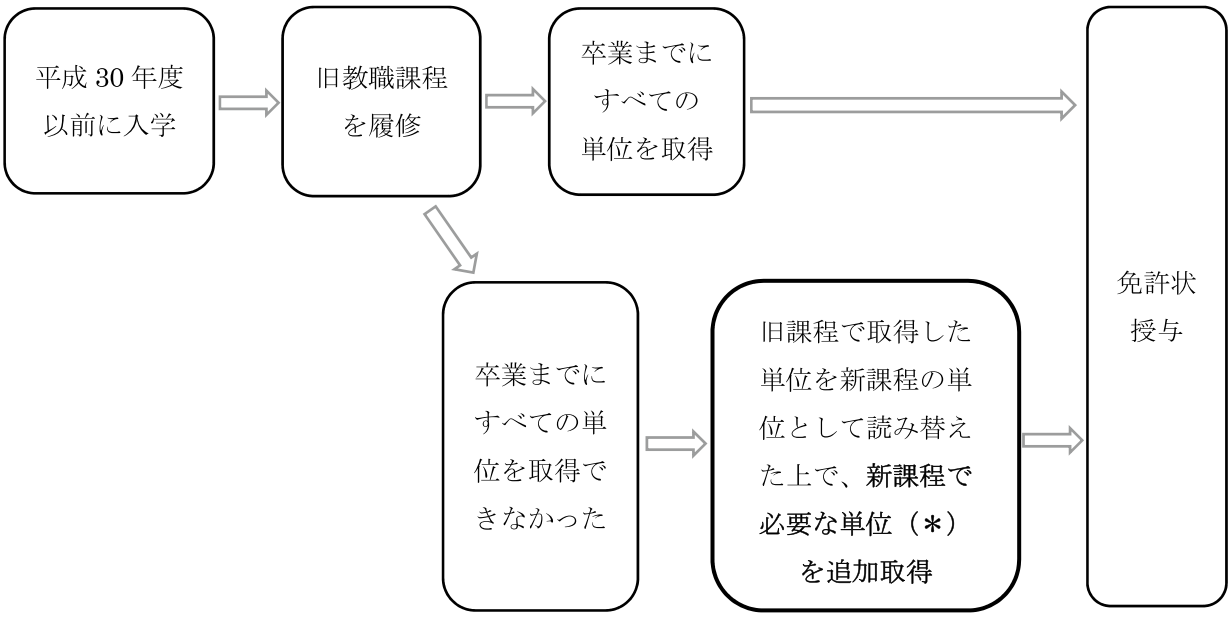
本学部では学生一人ひとりの学問的・人間的成長を重視しているが、単に教科指導力に優れた教師ではなく、学部の特質である文理協働によって培われた、幅広い教養と円満な人間性を有する教師の育成を目指している。このため、特に、教職に関する科目の授業やゼミナール等の場で、教師の人間性育成に関する指導を全体的及び個別に徹底して行っている。

教職課程再課程認定に伴う履修単位の変更について

教職課程について、文部科学省により、「平成30年４月１日において免許状の所要資格を得させるための課程として認定を受けている教職課程が、平成31年４月以降も引き続き教職課程を有するための課程認定（再課程認定）を受ける場合は、文部科学大臣に再課程認定の申請を行わなければならない。」（文部科学省HPより引用）と定められています。本学部も平成30年度に再課程認定の申請を行い、従来通り教員免許の取得が可能となりました。これに従い入学年度によって履修すべきカリキュラムが異なります。

平成31年度以降入学生　新教職課程にて教員免許状を取得
平成30年度以前入学生　旧教職課程にて教員免許状を取得

旧教職課程にて教員免許状を取得する予定であった平成30年度以前の入学生が、**卒業までに教職に関する単位をすべて取得できなかった場合**、卒業後は新教職課程が適応されるため、**新教職課程に合わせて追加で単位を取得しなければなりません**。



新課程で必要な単位（＊）について

新教職課程から初めて教職課程に位置づけられる科目は、以下の３科目となります。

・「特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法」
・「特別支援教育論」
・「教育方法論」

３．教職課程

3.1　教職課程の目的

教職課程とは、本学部卒業後、高等学校の教育職員を希望する学生のために、教員免許状を取得させることを目的としています。免許状の種類に応じた資格条件をみたした学生には、大学による一括申請の後、福岡県教育委員会から教員免許状が授与されます。

教職課程科目は、１年次から４年次まで体系的に編成されていますので、必ず１年次から順に履修してください。卒業要件に示された単位の修得とは別に、多数の教職や教科に関する科目を履修しなければならないため、強い学習意欲とこれにふさわしい人間的、知的資質が必要となります。（教職課程の受講のためには、履修登録・受講料その他も必要です）。

なお、卒業所要単位における教職課程科目の単位の扱い方については、各学科の規定に従ってください。

3.2　教員免許状の種類

本学部で取得できる免許状の種類とその教科を表3.1に示します。

学部での１種免許状取得者が大学院に在籍し、教職科目として認定された所定の単位「24単位」を修得した場合、専修免許状が取得できます。（表3.2参照）。詳細は大学院研究科長および学生支援課の指導に従ってください。

表3.1　本学部で取得できる免許状の種類および教科

学　科	教員免許状の種類および教科	本書での略称
生物環境化学科	高等学校教諭　１種免許状　理科 高等学校教諭　１種免許状　工業	高校理科 高校工業
電気電子工学科	高等学校教諭　１種免許状　情報 高等学校教諭　１種免許状　工業	高校情報 高校工業
建築・デザイン学科	高等学校教諭　１種免許状　工業	高校工業
情報学科	高等学校教諭　１種免許状　情報 高等学校教諭　１種免許状　工業	高校情報 高校工業
経営ビジネス学科	高等学校教諭　１種免許状　商業	高校商業

表3.2　本学大学院産業理工学研究科で取得できる専修免許状の種類および教科

専　攻	教員免許状の種類および教科
産業理工学専攻	高等学校教諭　専修免許状　工業

3.3　受講手続き

教職課程の受講に関する説明は、教職ガイダンスで行いますが、受講希望学生は本章の説明を各自熟読してください。

(1)　教職課程の受講登録

「教職課程履修受講申込書」を学生支援課で受け取り、申請してください。

年度毎に毎年、Web履修申請にて履修登録を行ってください。

(2)　教職課程の受講料

教職課程を受講するにあたっては、教職課程の受講料を毎年度納入するとともに、教育実習と、教員免許申請用単位取得証明書の発行に要する費用が必要となります。

「教職課程履修受講申込書」及び、「教職課程受講料用紙」を学生支援課で受け取り、教職課程受講料の証紙を購入し学生支援課にて手続きを行ってください。

3.4　授業科目

教職課程では教員免許状取得に必要な以下（表3.3）の科目を開講しています。なお、教職課程科目とは、「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教育の基礎的理解に関する科目等」の２つの科目分野を含みます。

表3.3　教職課程における授業科目の構成

授業科目	内　　容
教科及び教科の指導法に関する科目	取得を希望する免許科目に応じて、修得しなければならない専門分野に関する科目（表3.7～表3.11参照）
教育の基礎的理解に関する科目等	免許教科の種類に関係なく共通して、修得しなければならない教育理論や教科指導法などに関する科目（表3.6参照）

3.5　所要資格と修得単位数

高等学校１種免許状を取得するためには、表3.4に示すような基礎資格と所定の単位数を修得することが必要です。なお、これは教育職員免許法に基づいて定めた本学部の規定によるものです。

表3.4　免許状取得に必要な基礎資格と最低取得単位数

	教科及び教科の指導法に関する科目	24
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	10
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8
	教育実践に関する科目	5
	基礎資格教育職員免許法施行規則第66条の6	8

3.6　教科及び教科の指導法に関する科目とその履修方法

⑴　開講されている科目

教科及び教科の指導法に関する科目として各学科で開講されている科目は、表3.7～3.11の通りです。

⑵　履修方法

教職必修科目と教職選択科目の単位数を合計して40単位以上修得することが必要です。

履修すべき教科及び教科の指導法に関する科目は、免許状の種類によって異なります。

3.7　教職課程で履修しなければならない必修科目

教育職員免許法施行規則66条の６に従って、表3.5の諸科目が教職課程の学生には必修となります。

3.8　教育の基礎的理解に関する科目等とその履修方法

教育の基礎的理解に関する科目等として開講されている科目は、表3.6の通りです。教育の基礎的理解に関する科目等は、上級履修と他学科履修はできません。

表3.5教職課程の必修「教養・基礎教育部門」（全学科共通）
教育職員免許法施行規則第66条の６

○：教職必修科目

	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修・選択	単位数	配当学年	備考
第66条の6	日本国憲法	2	暮らしのなかの憲法	○	2	2・3年	
	体育	2	生涯スポーツ1	○	1	1～3年	
			生涯スポーツ2	○	1	1～3年	
	外国語コミュニケーション	2	インタラクティブ英語Ⅰ	○	1	2年	
			インタラクティブ英語Ⅱ	○	1	2年	
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報処理Ⅰ	○	2	1年	
			データリテラシー入門	△	2	1～3年	

表3.6　教職課程の必修「教職に関する開講科目」（全学科共通）
教育の基礎的理解に関する科目等

○：教職必修科目

	各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修・選択	単位数	配当学年	備考
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育学概論	○	2	1年	教育実習参加の必修科目
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論	○	2	1年	同上
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）						
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学	○	2	2年	同上
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	○	2	1年	同上
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	○	2	2年	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習・探究の時間の指導法	8	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	○	2	2年	
	特別活動の指導法						
	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育方法論（情報通信技術の活用を含む）	○	2	2年	
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論	○	2	3年	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	○	2	3年	
教育実践に関する科目	教育実習	3	教育実習	○	2	4年	期間は2週間
			教育実習指導	○	1	3・4年	教育実習参加の必修科目 ３年後期、４年後期にかけての受講となります。
	教職実践演習	2	教職実践演習（高等学校）	○	2	4年	

教科及び教科の指導法に関する科目

表3.7(a)　生物環境化学科（高校工業）

○：教職必修科目　△：教職選択科目

		各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修・選択	単位数	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	工業の関係科目	40	物理化学Ⅰ	○	2	
				無機化学Ⅰ	○	2	
				分析化学	○	2	
				有機化学Ⅰ	○	2	
				高分子合成化学	△	2	
				高分子物性	△	2	
				食品衛生学	△	2	
				環境エネルギー化学	△	2	
				有機合成化学	△	2	
				生体機能分子化学	△	2	
				分光分析法	△	2	
				化学と安全	△	2	
				先端無機材料化学	△	2	
				公害防止管理	△	2	
				環境バイオテクノロジー	△	2	
				バイオセンシング	△	2	
				遺伝子工学	△	2	
				食品化学	△	2	
				環境化学実験	○	3	
				生物化学実験	○	3	
				物質化学実験	○	3	
				生物環境化学実験	○	3	
		職業指導		職業指導（工業）	○	4	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			工業科教育法Ⅰ	○	2	教育実習参加の必修科目
				工業科教育法Ⅱ	○	2	同上

○印の教職必修＋△印の教職選択＝40単位以上修得のこと。

表3.7(b)　生物環境化学科（高校理科）

○：教職必修科目　△：教職選択科目

		各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修・選択	単位数	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	40	物理学Ⅰ	○	2	
				物理学Ⅱ	○	2	
				物理化学Ⅱ	○	2	
				分子シミュレーション	△	2	
				固体化学	△	2	
		化学		無機化学Ⅱ	○	2	
				有機化学Ⅱ	○	2	
				エネルギー・環境工学	△	2	
				アカデミック有機化学Ⅱ	△	2	
				生物有機化学	△	2	
				環境生物学	△	2	
		生物学		生物学Ⅰ	○	2	
				生物学Ⅱ	○	2	
				生物化学Ⅰ	△	2	
				生物化学Ⅱ	△	2	
				微生物学	△	2	
				微生物バイオテクノロジー	△	2	
		地学		地学概論	○	4	
		物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験		生物環境化学基礎実験	○	3	
				生物化学基礎実験	○	3	
				環境化学基礎実験	○	3	
				物質化学基礎実験	○	3	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			理科教育法Ⅰ	○	2	教育実習参加の必修科目
				理科教育法Ⅱ	○	2	同上

○印の教職必修＋△印の教職選択＝40単位以上修得のこと。

●「生物環境化学科」－高校工業と高校理科の免許状を２つとも取得可能です。

表3.8(a)　電気電子工学科（高校工業）　　○：教職必修科目　△：教職選択科目

		各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修・選択	単位数	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	工業の関係科目	40	電磁気学Ⅰ	○	2	
				電磁気学Ⅱ	△	2	
				電気回路Ⅰ	○	2	
				電気回路演習	○	2	
				電気回路Ⅱ	○	2	
				電気回路Ⅲ	△	2	
				電子回路Ⅰ	○	2	
				電子回路Ⅰ演習	○	2	
				電子回路Ⅱ	○	2	
				電子回路設計	△	2	
				エレクトロニクス概論	○	2	
				計測工学	○	2	
				電磁波工学	△	2	
				無線通信工学	△	2	
				電気材料物性	△	2	
				半導体工学	△	2	
				発変電工学	△	2	
				送配電工学	△	2	
				電気機器	△	2	
				パワーエレクトロニクス	△	2	
				電力システム概論	△	2	
				電気法規・施設管理	△	2	
				電機設計・製図	△	2	
				エネルギー環境システム	△	2	
				電気工学基礎実験Ⅰ	○	2	
				電気工学基礎実験Ⅱ	○	2	
				電気情報応用工学実験	○	2	
		職業指導		職業指導（工業）	○	4	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			工業科教育法Ⅰ	○	2	教育実習参加の必修科目
				工業科教育法Ⅱ	○	2	同上

○印の教職必修＋△印の教職選択＝40単位以上修得のこと。

表3.8(b)　電気電子工学科（高校情報）　　○：教職必修科目　△：教職選択科目

		各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修・選択	単位数	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	40	情報社会と倫理	○	2	
				情報と法	△	2	
				情報と職業	○	2	
		コンピュータ・情報処理		コンピュータ概論	○	2	
				論理回路	○	2	
				論理回路演習	△	2	
				システムプログラミング	○	2	
				プログラミング	○	2	
				プログラミング演習	○	2	
				制御工学	△	2	
				ロボティクス	○	2	
				集積回路工学	△	2	
				電子情報設計プロジェクト	○	2	
		情報システム		データ処理とプログラミング	○	2	
				計算機システム	○	2	
				組込み制御	△	2	
				情報システム概論	○	2	
		情報通信ネットワーク		情報通信工学	○	2	
				情報ネットワーク	○	2	
		マルチメディア表現・マルチメディア技術		情報メディア工学	○	2	
				シミュレーション	○	2	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			情報科教育法Ⅰ	○	2	教育実習参加の必修科目
				情報科教育法Ⅱ	○	2	同上

○印の教職必修＋△印の教職選択＝40単位以上修得のこと。

●「電気電子工学科」－高校工業と高校情報の免許状を２つとも取得可能です。

表3.9　建築・デザイン学科（高校工業）　　○：教職必修科目　△：教職選択科目

		各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修・選択	単位数	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	工業の関係科目	40	静定構造力学Ⅰ及び演習	○	3	
				静定構造力学Ⅱ及び演習	△	3	
				不静定構造力学及び演習	△	3	
				建築と構造	○	2	
				鉄筋コンクリート構造	△	2	
				建築材料	○	2	
				施工法Ⅰ	○	2	
				環境概論	○	2	
				建築と環境	△	2	
				建築設備の基礎	○	2	
				環境とデザイン	○	2	
				近現代建築論	△	2	
				住まいの計画	△	2	
				建築計画	△	2	
				都市計画	△	2	
				インテリアデザイン演習	△	3	
				視覚表現演習	△	3	
				プレゼンテーション演習	△	3	
				建築・デザイン演習Ⅰ	○	3	
				建築・デザイン演習Ⅱ	○	3	
				建築設計Ⅰ	○	3	
				ＣＡＤトレーニング	△	2	
				建築工学実験	△	2	
				建築法規	○	2	
		職業指導		職業指導（工業）	○	4	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			工業科教育法Ⅰ	○	2	教育実習参加の必修科目
				工業科教育法Ⅱ	○	2	同上

○印の教職必修＋△印の教職選択＝40単位以上修得のこと。

表3.10(a)　情報学科（高校工業）　　○：教職必修科目　△：教職選択科目

		各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修・選択	単位数	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	工業の関係科目	40	コンピュータ概論Ⅰ	○	2	
				コンピュータ概論Ⅱ	○	2	
				応用数学	△	2	
				情報数学	△	2	
				情報数学演習	△	2	
				統計ソフトウェアⅠ	△	2	
				統計ソフトウェアⅡ	△	2	
				計算の複雑さ	△	2	
				深層学習Ⅱ	△	2	
				アドバンスドプログラミング	△	4	
				量子情報理論	△	2	
				量子情報理論演習	△	2	
				深層学習Ⅰ	△	2	
				データマイニングと可視化	△	2	
				プロジェクト管理	△	2	
				Webコンテンツ企画設計	△	2	
				プロダクションワーク	△	2	
				データサイエンス	△	2	
				データ分析演習	△	2	
				情報学プロジェクトⅠ	○	2	
				情報学プロジェクトⅡ	○	2	
		職業指導		職業指導（工業）	○	4	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			工業科教育法Ⅰ	○	2	教育実習参加の必修科目
				工業科教育法Ⅱ	○	2	同上

○印の教職必修＋△印の教職選択＝40単位以上修得のこと。

表3.10(b)　情報学科（高校情報）　　○：教職必修科目　△：教職選択科目

		各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修・選択	単位数	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	40	情報社会と倫理	○	2	
				情報と法	○	2	
				情報と職業	○	2	
		コンピュータ・情報処理		情報学概論	○	2	
				ソフトウェア工学	○	2	
				ソフトウェア分析･設計	△	2	
				ソフトウェア開発･展開	△	2	
				ソフトウェア開発演習	△	4	
				データ構造とアルゴリズム	○	2	
				データ構造とアルゴリズム演習	○	2	
				プログラミングⅠ	○	2	
				プログラミングⅡ	△	2	
				オブジェクト指向プログラミング	△	2	
				オブジェクト指向プログラミング演習	△	2	
		情報システム		データベース	○	2	
				データベース演習	○	2	
				情報システム概論	○	2	
		情報通信ネットワーク		コンピュータネットワーク	○	2	
				インターネット工学	○	2	
				ネットワークセキュリティ	○	2	
				ネットワークと通信の理論	△	2	
				インターネット工学演習	△	2	
				ネットワークセキュリティ演習	△	2	
		マルチメディア表現・マルチメディア技術		コンピュータグラフィックス	△	2	マルチメディア表現・マルチメディア技術より２単位以上修得のこと。
				Webコンテンツ制作	△	2	
				画像処理	△	2	
				映像表現	△	2	
				コンピュータ音楽	△	2	
				マルチメディア	△	2	
				シミュレーション	△	2	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			情報科教育法Ⅰ	○	2	教育実習参加の必修科目
				情報科教育法Ⅱ	○	2	同上

○印の教職必修＋△印の教職選択＝40単位以上修得のこと。

●「情報学科」－高校工業と高校情報の免許状を２つとも取得可能です。

表3.11　経営ビジネス学科（高校商業）　　○：教職必修科目　△：教職選択科目

		各科目に含めることが必要な事項		授業科目	必修・選択	単位数	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	商業の関係科目	40	基礎経済学	○	2	
				基礎経営学	○	2	
				地域経済分析	△	2	
				財務諸表論Ⅰ	△	2	
				財務諸表論Ⅱ	△	2	
				経営分析	△	2	
				企業論	△	2	
				経営戦略論	○	2	
				経営管理論	○	2	
				基礎流通論	○	2	
				マーケティング論	○	2	
				流通システム論	△	2	
				ビジネス英語基礎	△	2	
				ビジネス英語	△	2	
				会社法	△	2	
				税法Ⅰ	△	2	
				税法Ⅱ	△	2	
				簿記Ⅰ	○	2	
				簿記Ⅱ	○	2	
				会計学	△	2	
				原価管理	△	2	
				税務会計	△	2	
				会計処理演習	△	2	
				広告論	△	2	
		職業指導		職業指導（商業）	○	2	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）			商業科教育法Ⅰ	○	2	教育実習参加の必修科目
				商業科教育法Ⅱ	○	2	同上

○印の教職必修＋△印の教職選択＝40単位以上修得のこと。

3.9　教育実習について

教職課程で学んだ専門知識に基づいて、学校教育の場で教育実践の基礎的訓練を行うことを目的として、教育実習を行います。

⑴　教育実習の参加資格

教育実習（必修）に参加するためには、下記の①②の条件を満たしていることが必要です。

①教育実習の実施年度（４年次）までに「教職論」、「教育心理学」、「教育学概論」、「教育行政学」、「該当する教科教育法Ⅰ、Ⅱ」の単位を修得していること。

②「教育実習ガイダンス」（３年次４月に行う）に出席し、「教育実習指導」を受講中であること。なお、この「教育実習指導」は、３年次後期から４年次前期にかけて開講し（集中講義）、合計して１単位分となるので、３年次・４年次ともに必ず履修すること。また、４年次後期の「教職実践演習（高等学校）」を必ず履修すること。

⑵　教育実習の概要

広義の教育実習は、次の表3.12の３つから成ります。

表3.12　教育実習の概要

	内　　容	場　所
1. 実習事前指導	教育実習の方法や実習に際しての心得、諸注意等に関する講義	本　校
2. 実習校実習	高等学校の教育活動全般について観察・参加・実習を行う 各校の実情に即した指導計画の編成	実習校
3. 実習事後指導	実習中の諸問題についての討議、および教育実習全体のまとめ	本　校

教育実習の成績は実習校の校長と指導教員の採点を主とし、ガイダンス、事前授業、実習関係の提出物、反省会などを含めて総合的に評価します。

※　教育実習校は、原則として各学生の出身校に依頼するので、母校の恩師との親しい関係を保っておいてください。

⑶　教育実習の時期と期間

実習は通常５月から10月頃までの期間、実習予定校の指示に従って、約２週間程度行われます。

⑷　教育実習校の依頼

教育実習は原則として各学生の出身校で行います。（これを「母校実習」と呼びます）。

学内で行われる「教育実習ガイダンス」（第３年次４月に行う）に基づき、第３年次のゴールデンウィークまたは夏季休暇中に各自母校に自身で実習依頼の交渉を行ってください。

［教育実習校の依頼に関する注意事項］

①交渉に入るまでに「教育実習実施要領（「教育実習ガイダンス」で配布）を熟読し、本学の教育内容の概要をよく理解しておきましょう。

②依頼の交渉にあたっては、教育実習生の受け入れがその学校にとって大きな負担であることを十分にわきまえ、謙虚で丁寧な態度で相談してください。

③特定の教員との話し合いだけではなく、必ず校長まで話を通し、担当教員や日程などが職員会議で正式に審議された後に内諾を得ることが大切です。

④交渉の結果、内諾が得られた後に大学から正式の依頼状を実習校宛に郵送します。

⑤第４年次４月の時点で実習参加資格（「3.9教育実習について⑴教育実習の参加資格」を参照）を満たせなかった者、やむをえない正当な理由で実習参加を断念する者は、その旨を学生支援課に連絡し、依頼済みの実習校に対して「実習取消の連絡」を必ず責任を持って行ってください。

　なお、第４年次４月に教育実習の参加資格を満たした実習参加者氏名を発表します。

⑸　教育実習の心得

教育実習に参加するにあたっての全般的な心得と実習開始前および期間中の心得を下記に示します。

［全般的心得］

①学校の教育活動は成長過程にある生徒の人格形成を目指して行われるものです。従って、生徒の人格の尊重、生徒に対する愛情、そして教育に対する熱意が非常に大切となります。

②教職課程の履修については様々な動機があるにしても、教育実習を単に教育職員免許状取得のための一過程であるとか、「とれるものならとっておこう」という安易な考え方でとらえることは慎まなければなりません。それは教育実習が教育のまねごとや授業の練習ではなく、まさに真実の教育活動そのものだからです。たとえ実際には教職に就かない場合も、実習にあたっては、教師になろうとする者のもつべき心構えや態度をわきまえ、責任を自覚して自己に対して厳しくあるべきです。

③教育の実際についてほとんど未経験である教育実習生が、わずか２週間の実習で教育活動のあらゆる領域を経験することは非常に困難です。したがって担当教員の指導助言を謙虚に受け、実習校の教育方針、教育計画に従って実習活動をすすめなければなりません。

④実習校での服装、および実習校の校長や教職員に対する礼儀・言葉遣い・動作は大学生にふさわしいものとしてください。また、生徒に対しては教師としての自信と誠意のある態度で接することが望まれます。

⑤実習期間中の健康維持にくれぐれも注意してください。

［実習開始前の心得］

①母校実習開始前までに、本学において「教育実習指導」の講義を行います。これに欠席したり書類の交付を受けない者は実習を受けることはできません。

②実習校を必ず訪問し通勤所要時間を確かめ、次の事項について打ち合わせておきます。

・実習期間中の勤務時間、教科書の準備

・上履き、弁当などの要否

・その他準備を必要とするもの

③やむを得ない理由で指定された期日に出勤できなくなったときは、事前に実習校にその理由を申し出て了解を得てください。それと同時に、学生支援課担当者に報告してください。実習校の特定の教員との個人折衝によって実習期日を変更したり、実習を中途放棄することは許されません。

［実習期間中の心得］

教育実習期間中は、実習校の校長、副校長、教頭、教務主任、指導教員等の指導を謙虚に受け、学校の教育目標・方針や指導目標などを理解し、服務規程等に従うとともに、**［近畿大学の学生としての自覚と誇り］**を持って良識ある行動、態度、熱意、意欲を示してください。

教育実習期間中に服務に問題がある場合は、中途であっても実習の中止を命ずることがあります。

(a)　勤務

①教育実習期間中は、教員の服務に準じます。

②出校したら直ちに、「教育実習生出席簿」に押印します。

③教育実習生は、実習校の教職員の指示に従ってください。

④病気その他やむをえない事情により欠席、遅刻、早退する場合は、必ず事前に指導教員に連絡し、欠席届けを提出してください。

民間企業等の就職活動（面接等）による欠席は、認められません。

⑤出校後の無断外出は禁止されます。外出が必要な場合は必ず指導教員の許可を得てください。

⑥下校の際は、指導教員に届け出、承認を得てください。

⑦実習生控室の整理、整頓を心がけてください。

⑧校内の備品、教材・教具、図書、帳簿等を使用するときは、係の教職員の許可を受け、その管理には責任を持ち、使用後は所定の位置に返却し、係の教職員の承認を得てください。

⑨「教育実習日誌」は、毎日下校前に必ず指導教員へ提出し指導を受けてください。

⑩服装、言動等については、常に生徒の基本的生活習慣の模範となるように心がけてください。

⑪生徒との私的交際や生徒随伴、無断家庭訪問や家庭への連絡は行なってはなりません。

⑫いかなる場合でも、生徒に対する暴力行為、体罰、いじめ、精神的・身体的な苦痛、いやがらせ、無視等は禁止されます。

問題が生じた場合は、直ちに指導教員等に連絡・届出し指導を受けてください。

実習校にあっては、実習期間中、校長・副校長・教頭・教務主任・教育実習係教員、指導教員（教科担当教員、学級担任）、学年主任、特別活動係教員、部活動顧問、生徒指導主事、事務長など、多くの教職員の方が携わります。学校の組織体制を早く認識・理解し、充実した教育実習となるよう努めてください。

(b)　教科指導

①教育実習期間中を前期・中期・後期に分け、それぞれを「観察」「参加」「実習」の形態になるように、緻密な計画を立ててください。

「観察」生徒の実態や教師の指導などを客観的に観察して、学校教育を総合的に認識・理解することに心がけてください。(模範授業の観察)

「参加」指導教員の下に多用な教育活動に積極的に参加し、教師として求められる知識や技術、熱意、態度を修得する実践的な活動をしてください。(実習授業の実践)

「実習」教科の学習指導を中心に、学習指導案を作成し授業を行い、最終的には査定のための研究授業（多数の教員が参観）などにより実習評価を受けます。

②授業実習にあたっては、「教科書を教える」のではなく、**「教科書で教える」**ように、教材研究に万全を期し、持てる力（知識、技能、意欲、関心、表現、判断など）を発揮してください。

③公正で明朗な指導を心がけてください。

④教材研究や授業において、理解していない不明な箇所がある場合は、指導教員などに指導を受け、明確にするように心がけてください。

⑤器具、機器や薬品などの取り扱いには十分に配慮し、安全の確保に努めてください。

⑥授業実践後は、指導教員や他の実習生からの評価を謙虚に受け、その後の工夫改善に生かすよう努力してください。

教科学習指導に偏ることなく、学級活動、特別活動、部活動などにも積極的に参加し、実習の目的や意義を、生徒達と直接交流を重ねるなかで繰り返し問い直してください。

また、その視座を学生の受動的視点から、教師としての能動的視点に転換し、自己の適正、能力を見直す絶好の機会としてください。

⑹　教育実習終了後の諸手続

①帰学後直ちに教育実習簿、その他実習校で指示された書類を学生支援課に提出してください。

②教育実習簿は、実習終了時に学生に手渡される場合と、後日郵送される場合があります。

③実習簿は、教育実習の評価後に、学生支援課から各学生に返却します。

④実習校の校長および指導教員に、必ず礼状を郵送してください。

3.10　その他、教職課程に関する履修上の注意事項

⑴　学生への伝達方法

学生に対する公示、告示およびその他の履修上周知を要する事項は、すべて「ユニパ」によって通知します。常にユニパ掲示板を見るように心がけてください。

⑵　提出期限を守ること

諸手続の申し込み期限や各種提出物の提出期限を守ってください。

⑶　出席について

学年のはじめに行なわれるオリエンテーションには必ず出席してください。

また、３年次の12月～２月と４年次の４月～５月に行われる「教育実習指導」（集中講義）も必ず出席してください。欠席した場合は教育実習に行くことができなくなります。

４．転学部・転学科、大学院進学

１年間以上在学し、第１学年次の必要単位を修得または修得見込みの者で他学部への転学部または産業理工学部内の他学科への転学科を希望する者は、在学中の成績ならびに選考試験などの結果により許可される場合があります。選考試験は、受験資格や試験内容などを定めた転学部・転学科試験要項に基づいて実施されます。

本学部を卒業し、さらに進学を希望する者には近畿大学ならびに他大学の大学院への道が開かれています。

大学院には博士前期課程、さらに博士課程（博士後期課程）があります。博士前期課程は専門分野における研究能力または高度の専門性を有する職業などに必要な能力を養い、博士後期課程では研究者として独立することを目的とします。修業年限はそれぞれ２年と３年です。本学部に基礎を置く産業理工学研究科にも、平成27年に専攻分野に博士後期課程が設置されました。なお、近畿大学大学院に進学を希望する場合には、在学中の成績が優秀な者には学内推薦や学費免除の制度がありますので、各専攻幹事の教員に相談して下さい。

５．キャリア教育

⑴　豊かな未来を求めて

１年生に入学された皆さんは、大学生としての心構えと同時に、社会情勢、国際情勢等を見極めしっかりした履修計画をもとに学業に専念し、豊かな教養と専門的な知識や学力・技術を身につけることが、これから輝かしい人生を歩むために重要となってきます。

そのためには、自分にふさわしいキャリアプランを持って進路選択することが大切な要素です。

近年、学生の就職・採用活動日程については、①日本経済団体連合会（以下「経団連」）による「採用選考に関する指針」の策定、②就職問題懇談会による「申合せ」、③関係省庁（内閣官房、文部科学省、厚生労働省及び経済産業省）による経済団体・業界団体等に対する遵守等の要請、というプロセスによって、毎年度決定されてきましたが、2018年10月、経団連から、中長期的な観点から我が国の採用活動の在り方を議論すべき、大学の教育と企業の姿勢がどうあるべきかを議論すべきといった問題提起と併せて、2020年度（2021年３月）以降に卒業・修了予定の学生の就職・採用活動からは「採用選考に関する指針」を策定しない方針が示されました。

このような見直しに伴い、就職活動の「早期化」「長期化」「多様化」「流動化」がさらに進む中、学修時間等を確保しながら安心して就職活動に取り組むため、低学年からの準備が必要です。特に、2020年に発生した新型コロナウイルス問題など社会変化を機に、国内でも「オンライン選考」「リファラル採用」「通年採用」など採用方法の見直しが急速に進んでいますので、積極的に情報収集を行う必要があります。

⑵　授業カリキュラム内でのキャリア教育

本学部のキャリア教育は、まず１年次に必修科目「近大ゼミ（２単位）」「ライフデザイン（２単位）」「日本語の技法（１単位）」を履修し、自己理解を深め、在学中の目標や将来的なライフプランを描くことからスタートします。

２年次には必修科目「論理的表現法Ⅰ（１単位）」選択必修科目「論理的表現法Ⅱ（２単位）」「キャリアデザイン（２単位）」を履修し、社会人としてふさわしい日本語表現を身に付け、卒業後のイメージを具体的に描けるようになります。

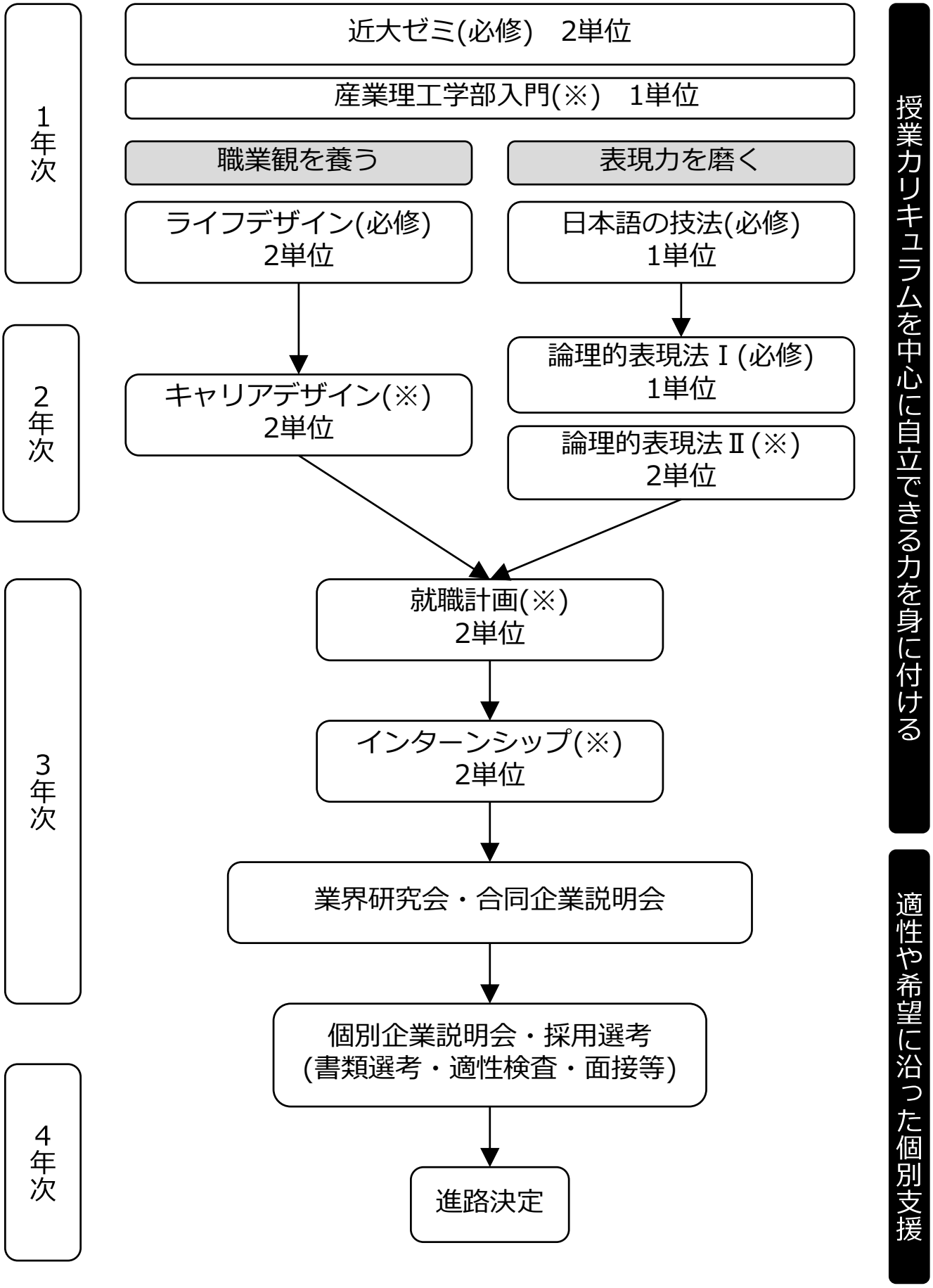
そして、３年次の選択必修科目「就職計画（２単位）」を履修し、就職活動に関する基本的知識を身に付け、どのように就職活動を行っていくのか計画を立てることで、無理なく就職活動をスタートすることができます。また、選択必修科目「インターンシップ」において、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した企業で就業体験を行うことで、その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか（自らがその仕事で通用するかどうか）を見極めます。

⑶　キャリア支援室（３号館１階）のサポート

一人ひとりの適性や希望に沿ったサポートを行うための就職専門スタッフが常駐しており、個別に相談をすることができます。就職活動時の書類作成や面接に関する相談はもちろんのこと、入学直後から自身の将来について相談することができ、不安を和らげ将来のイメージを具体的に描けるようサポートします。まずは気軽にスタッフに話しかけてみてください。

また、個別支援に加え、就職活動に関する各種セミナーや業界研究会、企業見学会、学内企業説明会も随時開催しており、進路選択のヒントとなる様々なきっかけや企業との出会いの場を提供しています。このような情報は随時ユニパで配信していますので、積極的に参加することで視野を広げることができます。

産業理工学部におけるキャリア教育と進路決定までの流れ



(※)選択必修科目

Ⅱ

附属施設利用の手引

［Ⅱ－１］福岡キャンパス
［Ⅱ－２］図　　書　　館
［Ⅱ－３］電算機センター

［Ⅱ－１］福岡キャンパス

●利用時間通常

通常

月～金	8：00～21：00
土曜日・振替授業日	8：00～18：30

時間外利用（ゼミ・研究室、一部の部屋のみ）

平　日	21：00～23：00
土曜日	18：30～23：00
日・祝	08：00～23：00

※平日は当日の17：00までに、土日は金曜日の17：00までに学生センターに申請した場合に限る。
※23：00以降の利用はやむを得ない場合のみとし、理由を明記のうえ事前許可を得ている場合に限る。
※悪天候などによる帰宅措置ならびに休講措置の場合、時間外利用はできない。

ゼミ・実験室と同様時間外利用可能な実験室等

生物環境化学科	5109室　（生物環境化学実験室Ⅰ） 2137室　（生物環境化学実験室Ⅱ） 2131室　（高分解能超伝導 NMR システム室） 2136室 2114室　（バイオ・遺伝子実験室） 2106室　（大学院第１研究室） 2107室　（機能性材料分析室） 2133室　（分析室） 2204室　（赤外分光分析室） 2205室　（卒業研究室） 2109室　（応用生物工学実験室）
電気電子工学科	2228室　（電気基礎実験室） 2215室　（電子工学実験室） 2101室　（電気機器実験室） 5206室　（情報工学実験室Ⅰ） 2211室　（電力応用実験室） 2229室　（大学院第３研究室） 2212室　（半導体デバイス製造実験室） 2214室　（電気電子工学科ものづくり工房） 5205室　（大学院研究室）
建築・デザイン学科	2301室　（製図室） 2327室　（製図・造形室） 2302室　（アクティブラーニング室） 3203室　（造形実習室） 3204室　（図形情報処理室） 2328室　（大学院研究室） 3202室　（大学院研究室）
情 報 学 科	3307室　（ソフトウェア演習室） 3206室　（大学院研究室） 3413室　（大学院研究室）
経営ビジネス学科	1301室　（経営ビジネス演習室） 3411室　（スタディ・カフェ） 3412室　（大学院演習室）

●休業日

・日曜日　祝日　創立記念日（11月５日）
・夏期・冬期休暇中の一定期間
・夏期休暇中の土曜日
・その他大学が指定する日
※利用時間の変更や休業期間中の利用時間については、別途UNIPA 等により連絡します。

●利用上の注意

施設の使用にあたっては、次の事項に注意してください。なお、遵守していただけない場合は、以後の使用を許可できません。

・附帯設備以外の火気の使用は、原則禁止とする。
・原則として構内は一部の指定場所を除いて全て禁煙（歩行中の喫煙も禁止。）である。
・構内での飲酒は認めない。
・構内で大声や騒音を出す行為は認めない。
・PCやタブレット、スマートフォン等のマナーを守ること。
・省エネルギーに十分心がけること。
・施設の使用にあたっては常に清潔を保つよう心がけること。
・使用後は原状回復の上、十分に清掃を行い、ゴミは分別して必ず捨てること。
・本学の講義、実技および課外活動等に支障のないよう十分注意を払うこと。
・その他細部の事項に関しては、その都度本学担当者の指示に従うものとし、器物を破損した場合は速やかに学生センターへ届け出ること。

［Ⅱ－２］図書館

●開館時間

通常

月～金	9：00～21：00
土曜日	9：00～13：00
振替授業日	9：00～17：00

冬期・春期休暇　全学休講時

月～金	9：00～17：00（土曜日は通常どおり)

夏期休暇

月～金	9：00～17：00

●休館日

・日曜日　祝日　創立記念日（11月５日）
・夏期・冬期休暇中の一定期間
・夏期休暇中の土曜日
※開館時間の変更や臨時の休館はその都度、掲示やホームページでお知らせしています。
★図書館ホームページ
https://www.kindai.ac.jp/hose/about/facility/library/

●利用上の心得と注意

・学生証は常に携帯してください。
・館内では静粛にし、携帯電話の「通話」、「カメラ」機能の使用など他人の迷惑となる行為はしないでください。
・館内は、喫煙及び飲食禁止です。ただし、密閉できるフタ付き容器の持ち込み、利用については場所を指定して認める場合があります。
・館内ではルールを守り職員の指示に従ってください。

●貸出

貸出には学生証が必要です。

貸出条件

貸出冊数：10冊まで	貸出期間：15日以内

・貸出期間を超えて利用したい時は２回まで更新できます（最大45日)。
貸出期間内に①②どちらからの方法で更新手続きを行ってください。
①＊Myライブラリーから自分で更新する。
②図書館カウンターで貸出資料と学生証を提示する。
※その資料に予約があったり貸出期間が超過している場合、このサービスは利用できません。
・新聞、学術雑誌、ブラウジング雑誌の最新号、“禁帯出”や“館内”ラベルがあるものは貸出できません。

●返却

・直接カウンターで返却してください。
・閉館後は自動ドア脇の“閉館後図書返却口”で返却できます。
※直接書架や“館内閲覧図書返却台”に返しても返却にはなりません。ご注意ください。
・ペナルティ
返却が遅れた場合はその日数だけ貸出を停止します。この間新たな貸出や貸出の更新はできません。

●館内利用

・館内の資料は全て自由に閲覧できます（開架式)。

◆資料検索

２階カウンター前に検索用パソコンを設置しています。
★図書館ホームページトップ→情報検索（OPAC）でタイトルなどのキーワードを入力して検索します。
※検索結果が貸出中の場合は＊Myライブラリーから予約できます。
※該当する資料がない場合は＊Myライブラリーから他キャンパス所蔵図書の取寄せ、または購入リクエストができます。

・ブラウジングコーナー、AVブースでCDやDVD等の視聴覚資料の視聴ができます。
・ゼミ室…３名以上で利用できます。（Wi-Fi環境も整っています。)
※ゼミ室を利用したい場合は、カウンターで申し込んでください。
・地域資料室（筑豊地区関連の資料を中心に集めています。）…閲覧自由

●コピーサービス

・図書館の所蔵資料のみコピーできます。
※それ以外のものをコピーした場合は没収します。返金もできません。
料金（１枚)

モノクロ：10円	カラー：50円

●相互利用

・必要な資料が図書館にない場合は他大学の図書館やその資料を利用できます。
※料金は本人負担です。
申請方法

紹介状の発行	図書館に来館してください
文献複写・借用	＊Myライブラリーから申請できます

●授業・就職支援

図書館の入口左手にシラバス掲載参考文献・アカデミックスキル関連図書・就職関係・資格関係図書のコーナーがあります。
ぜひ、有効に活用してください。

・アカデミックスキル関連図書
　レポートの書き方、情報の探し方などについて書かれた資料
・シラバス掲載参考文献
　今年度のシラバスに掲載されている授業ごとの指定参考書
・就職関係
　SPIやエントリーシートなどの就職試験に必要な最新の対策本や問題集
・資格関係
　産業理工学部で取得できる資格試験・問題集など

＊Myライブラリーとは

利用者個人ごとの図書館情報ページです。
自宅など、図書館以外のパソコンやスマホからも利用できます。
利用に際しては、ログイン名（ID）とパスワードが必要です。

＊Myライブラリーでできること

図書館ホームページトップ→Myライブラリー→ログイン画面にアクセス　ID・パスワードを入力

□貸出：貸出状況・貸出履歴の確認
　（返却期限・貸出冊数と回数）
　貸出期間の更新
　（予約がない場合２回まで）
□取寄せ
　（無料）：他キャンパスからの図書の借用
□相互利用
　（有料）：図書の借用
　文献複写（論文や図書の一部）
□購入リクエスト：所蔵していない資料の購入
□予約：資料検索の結果が“貸出中”の場合

［Ⅱ－３］電算機センター

１．概要

４号館（図書館・電算棟）の３階全体を「産業理工学部電算機センター」と呼びます。コンピュータ実習や卒業研究などのために、本学部および大学院産業理工学研究科の学生なら誰でも利用することが出来ます。利用に際してはログイン名（ID）とパスワードが必要です。

２．教室

室　　名	収容人数	備　考
ターミナル室１	48名	主に授業で利用
ターミナル室２		
ターミナル室３		
ターミナル室４	20名	少人数用
オープンターミナル室	48名	授業は行わない
リモートターミナル室	－	雑誌の閲覧

どの部屋も授業が行われていない場合は自由に利用できます。

３．利用時間

室　　名	平日（月～金)	土曜日
ターミナル室１	9：00～17：00	利用不可
ターミナル室２		
ターミナル室３		
ターミナル室４		
オープンターミナル室	9：00～20：00	13：00～17：00
リモートターミナル室	9：00～17：00	利用不可

※授業が行われている場合はこの限りではありません。

休暇中の利用については、そのつどホームページ上に掲示します。

４．ログイン名とパスワードの入手方法

事務手続き書類等で、随時、ご確認ください。

５．パスワードの取り扱いについて

パスワードは重要な個人情報のひとつであり、他人に知られないよう厳重に管理してください。また初期パスワードは、必ず変更するようにしてください。パスワードを忘れても再設定できるよう、ワンタイムパスワードの設定を行ってください。

方法については電算機センターのホームページにリンクが貼ってあります。

パスワードを忘れた場合は、管理室まで問い合わせてください。学生証の提示が必要です。

６．17時以降（土曜日は13時以降）の利用について

この時間帯は**電算機センター補助員**（学部学生で、ビブスを着用し名札を付けています）がオープンターミナル室に２名いますので、質問などがある場合は、補助員に相談してください。適切に対応してもらえます。

７．ネットワークの利用について

電算機センターのシステムはインターネットに接続されていますので、世界中の人たちと電子的な情報伝達、情報交換が行えます。センターでは出来る限りオープンな環境を学生のみなさんに提供したいと考えておりますが、それは学生のみなさんが正しい利用をすることが前提となります。注意事項を守って利用してください。

また、電子メール等の利用方法は、必修の授業科目「情報処理Ⅰ」で指導します。欠席しないようにしてください。

８．ネットワーク利用上の注意事項

①個人やグループまたは組織に対する悪意の中傷や一方的な非難をしない。

②プライバシーに関する興味本位の話題提供をしない。

③音楽ファイル等の著作物をダウンロードするのは違法行為です。

④その他、悪用と思われるような行為をしない。

⑤ネットワーク利用を安易に考えてはいけません。はなはだしい場合は、刑事事件として罰せられます。

９．電算機センターに関する情報の入手について

電算機センターの説明は全てホームページに掲載されます。また、利用方法等や新しく導入された機能や、システムの停止案内等もホームページに掲載します。

https://www.kindai.ac.jp/hose/about/facility/center/

10. 電算機センター使用上の注意

下記事項に違反した場合は、一定期間利用を禁止します。

⑴電子機器の故障の原因となるため、センターでの飲食および傘の持ち込みを禁止しています。傘はセンター入り口にある傘立てに入れて下さい。

⑵プリンター用紙はセンターが供給しますが、ランニングコストが非常に高いので無駄な出力は控えてください。無駄遣いが目立つ場合は課金制になる可能性があります。印刷は１人年間500枚まで制限されています。

⑶各自の出したゴミは必ずゴミ箱に入れてください。不要になったプリンター用紙は丸めずにプリンター横に用意された用紙入れに入れてください。

⑷機器は丁寧に操作してください。もし、壊した場合は弁償してもらう場合があります。

⑸雑誌や資料を借り受ける場合は、管理室で貸出簿に記入してください。

⑹違法ダウンロードは禁止です。

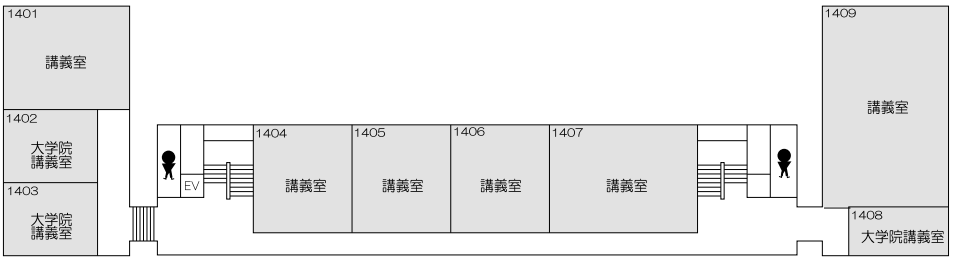
センター内の通信はすべて記録されています。

Ⅲ

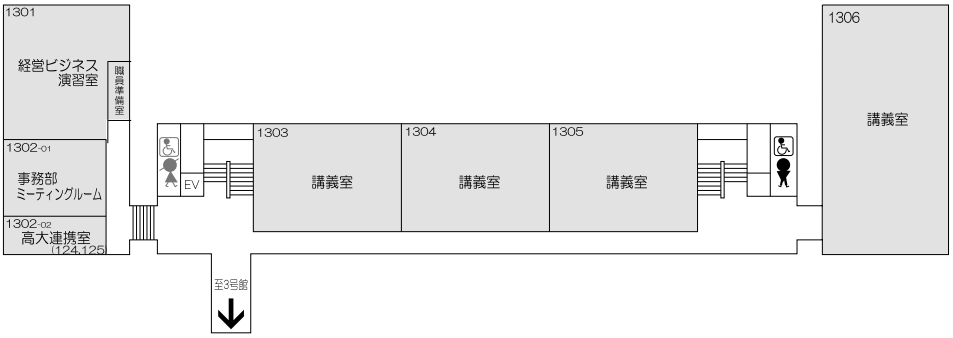
配　置　図

１号館

4F

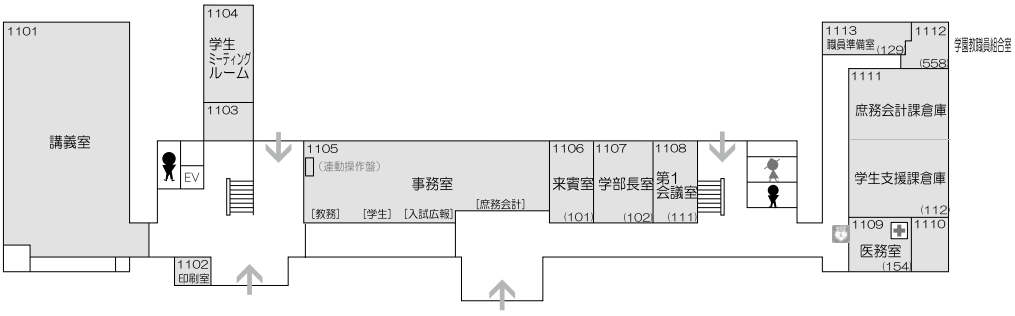


3F



2F

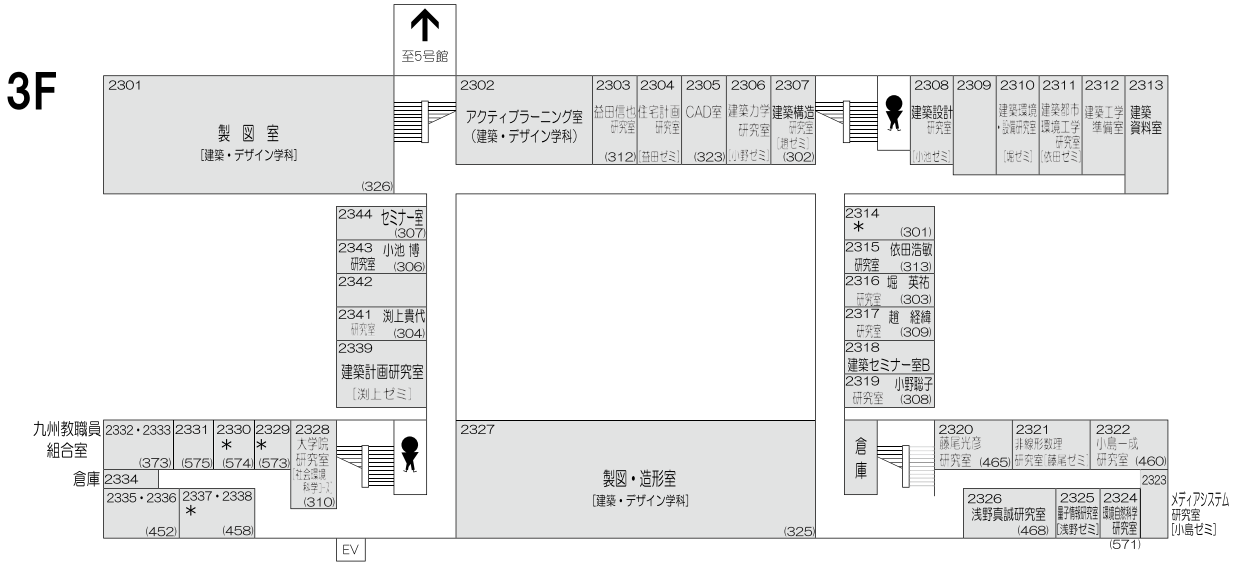
1F



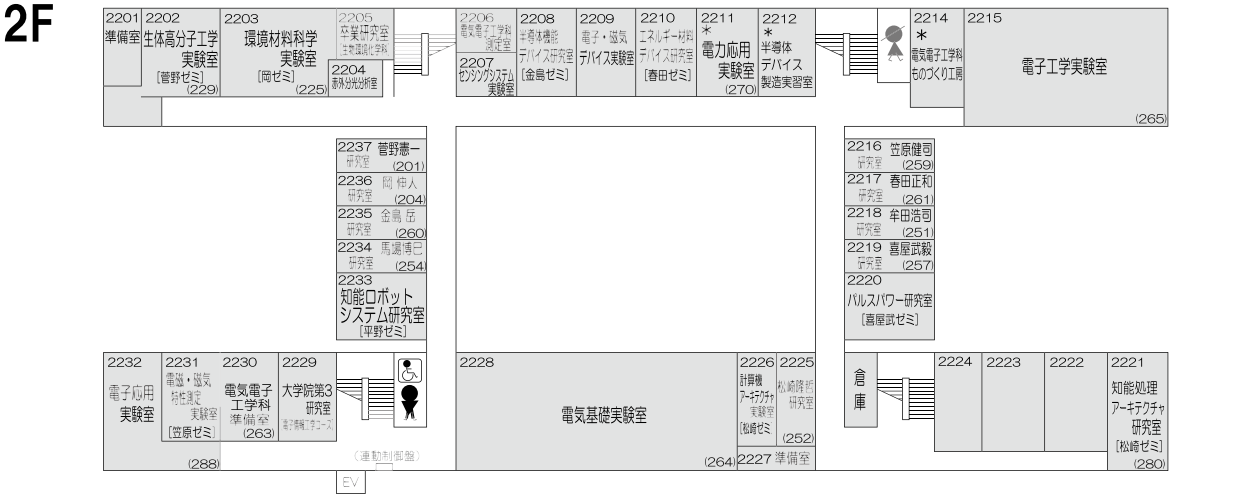
KINDAI UNIVERSITY
Faculty of Humanity-Oriented Science and Engineering

2号館

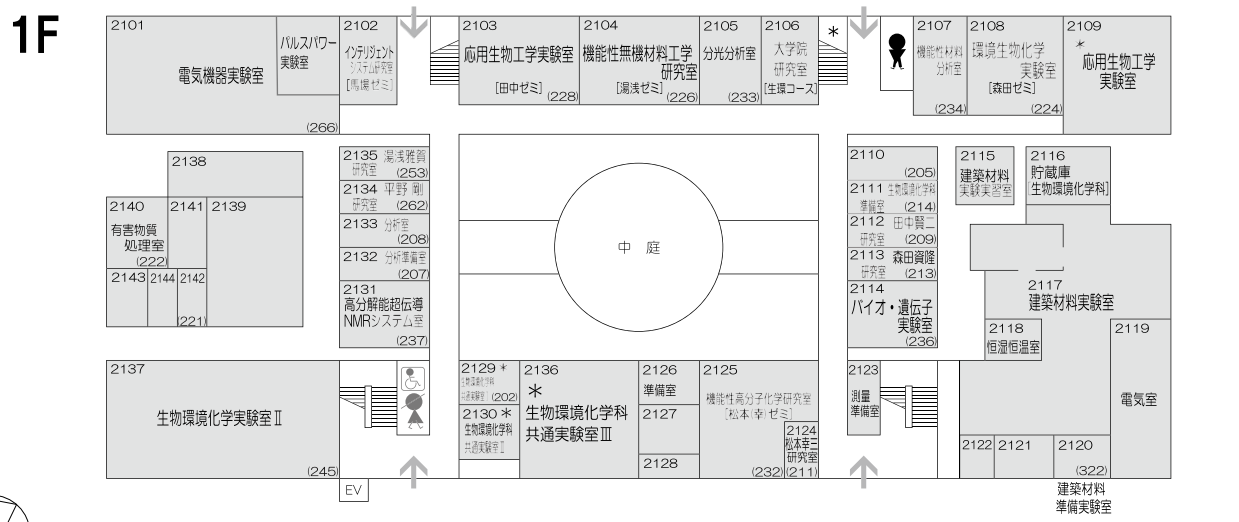
3F


至5号館
2301 製図室 [建築・デザイン学科] (326)
2302 アクティブラーニング室（建築・デザイン学科）
2303 益田信也研究室 (312)
2304 住宅計画研究室 [益田ゼミ]
2305 CAD室 (323)
2306 建築力学研究室 [小野ゼミ]
2307 建築構造研究室 [趙ゼミ] (302)
2308 建築設計研究室 [小池ゼミ]
2309
2310 建築環境・設備研究室 [旭ゼミ]
2311 建築都市環境工学研究室 [依田ゼミ]
2312 建築工学準備室
2313 建築資料室
2344 セミナー室 (307)
2343 小池 博 研究室 (306)
2342
2341 渕上貴代 研究室 (304)
2339 建築計画研究室 [渕上ゼミ]
2314 * (301)
2315 依田浩敏 研究室 (313)
2316 堀 英祐 研究室 (303)
2317 趙 経緯 研究室 (309)
2318 建築セミナー室B
2319 小野瑠子 研究室 (308)
九州教職員組合室
倉庫
2332・2333 (373)
2331 (575)
2330 * (574)
2329 * (573)
2328 大学院研究室 [社会環境科学コース] (310)
2334
2335・2336 (452)
2337・2338 * (458)
2327 製図・造形室 [建築・デザイン学科] (325)
倉庫
2320 藤尾光彦 研究室 (465)
2321 非線形数理研究室 [藤尾ゼミ]
2322 小島一成 研究室 (460)
2323
2326 浅野貴誠研究室 (468)
2325 量子情報研究室 [浅野ゼミ]
2324 環境自然科学研究室 (571)
メディアシステム研究室 [小島ゼミ]
EV

2F


2201 準備室
2202 生体高分子工学実験室 [菅野ゼミ] (229)
2203 環境材料科学実験室 [岡ゼミ] (225)
2205 卒業研究室 [生体環境化学科]
2204 赤外分光分析室
2206 電気電子工学科測定室
2207 センシングシステム実験室
2208 半導体機能デバイス研究室 [金島ゼミ]
2209 電子・磁気デバイス実験室
2210 エネルギー材料デバイス研究室 [春田ゼミ]
2211 * 電力応用実験室 (270)
2212 * 半導体デバイス製造実習室
2214 * 電気電子工学科ものづくり工房
2215 電子工学実験室 (265)
2237 菅野憲一 研究室 (201)
2236 岡 伸人 研究室 (204)
2235 金島 岳 研究室 (260)
2234 馬場博已 研究室 (254)
2233 知能ロボットシステム研究室 [平野ゼミ]
2216 笠原健司 研究室 (259)
2217 春田正和 研究室 (261)
2218 牟田浩司 研究室 (251)
2219 喜屋武毅 研究室 (257)
2220 パルスパワー研究室 [喜屋武ゼミ]
2232 電子応用実験室 (288)
2231 電磁・磁気材性測定実験室 [笠原ゼミ]
2230 電気電子工学科準備室 (263)
2229 大学院第3研究室 [電子情報工学コース]
〈連動制御盤〉
2228 電気基礎実験室 (264)
2226 計算機アーキテクチャ実験室 [松崎ゼミ]
2225 松崎隆哉研究室 (252)
2227 準備室
倉庫
2224
2223
2222
2221 知能処理アーキテクチャ研究室 [松崎ゼミ] (280)
EV

1F


2101 電気機器実験室 (266)
パルスパワー実験室
2102 インテリジェントシステム研究室 [馬場ゼミ]
2103 応用生物工学実験室 [田中ゼミ] (228)
2104 機能性無機材料工学研究室 [湯浅ゼミ] (226)
2105 分光分析室 (233)
2106 大学院研究室 [生環コース]
2107 機能性材料分析室 (234)
2108 環境生物化学実験室 [森田ゼミ] (224)
2109 * 応用生物工学実験室
2138
2140 有害物質処理室 (222)
2141
2139
2143
2144
2142
(221)
2135 湯浅雅賀研究室 (253)
2134 平野 剛 研究室 (262)
2133 分析室 (208)
2132 分析準備室 (207)
2131 高分解能超伝導NMRシステム室 (237)
中庭
2110 (205)
2111 生物環境化学科準備室 (214)
2112 田中賢二 研究室 (209)
2113 森田資隆 研究室 (213)
2114 バイオ・遺伝子実験室 (236)
2115 建築材料実験実習室
2116 貯蔵庫 [生物環境化学科]
2117 建築材料実験室
2118 恒温恒湿室
2119 電気室
2137 生物環境化学実験室Ⅱ (245)
2129 * 建築設計学科 [松本幸雄] (202)
2130 * 生物環境化学科共通実験室Ⅰ
2136 * 生物環境化学科共通実験室Ⅲ
2126 準備室
2127
2128
2125 機能性高分子化学研究室 [松本幸ゼミ]
2124 松本幸二研究室 (211)
(232)
2123 測量準備室
2122
2121
2120 (322)
建築材料準備実験室
EV
N

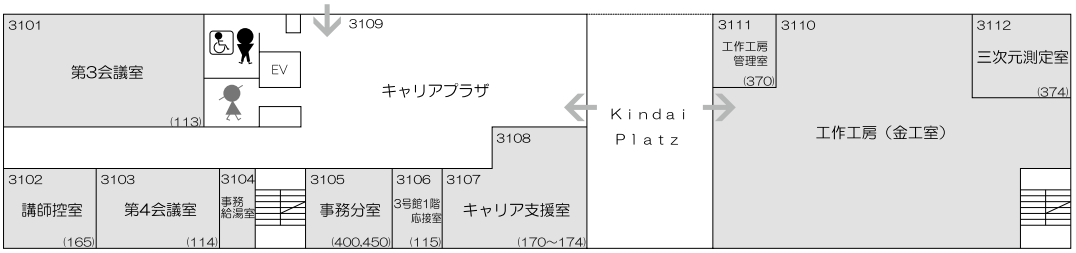
３号館

4F

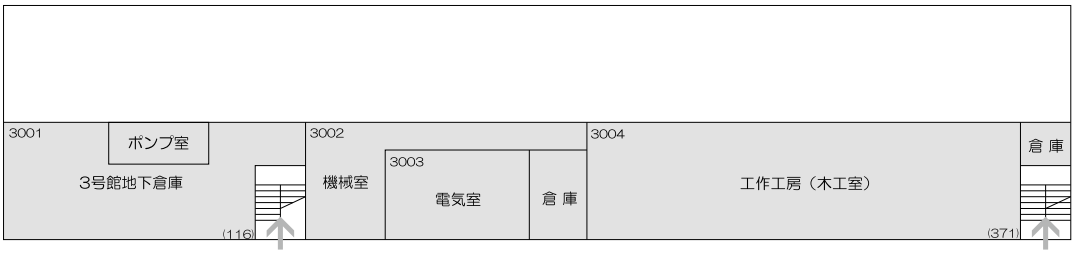
3F

2F

1F



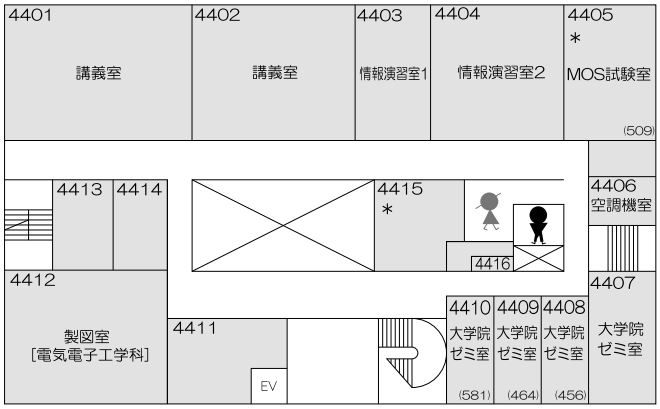
B1



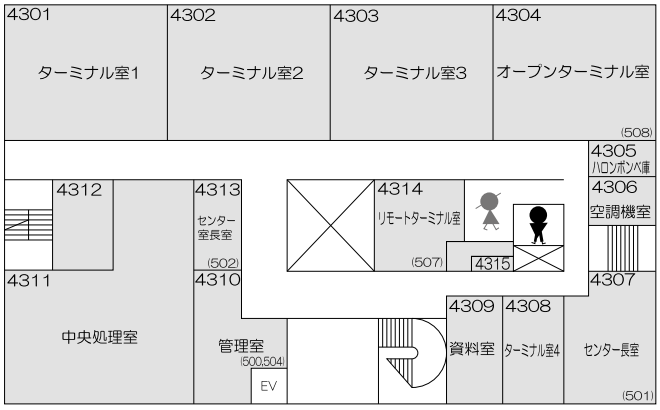
N

４号館

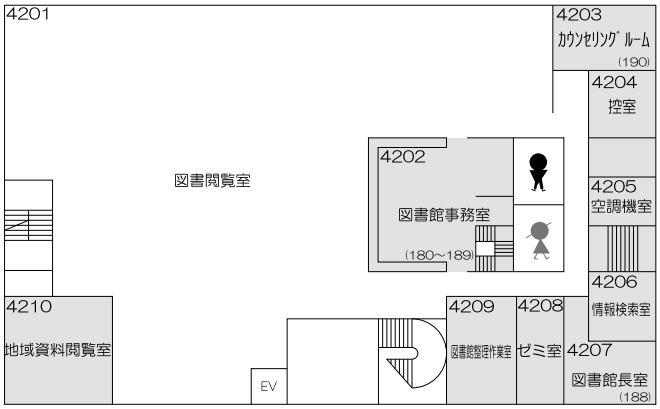
4F



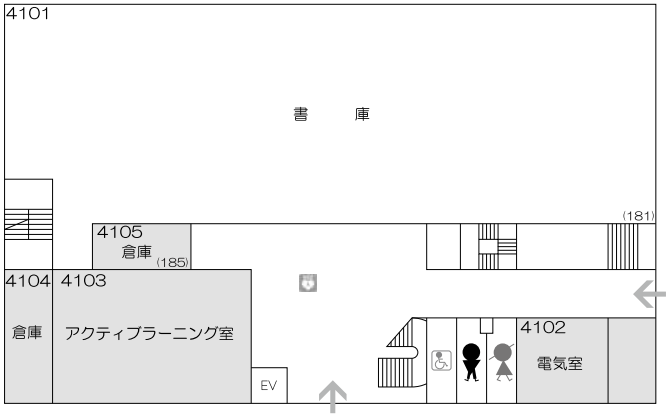
3F

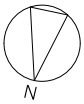


2F



1F





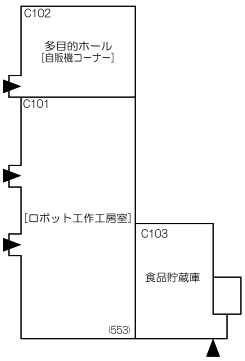
KINDAI UNIVERSITY
Faculty of Humanity-Oriented Science and Engineering

５号館

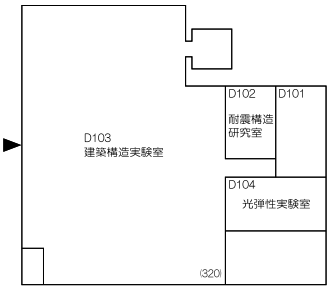
3F
5301 * 情報管理実習室 [情報学科]
* 情報管理実験室 [情報学科] (424)
5302 * 3次元造形準備室
5303 * 3次元造形室 (425)
5308 製図室 [建築・デザイン学科] (324)
5307 心理学実験室 [経営ビジネス学科]
5304
5306 心理学実験室 (427)
5305 * 情報応用実験室 [情報学科]
*
EPS
EV
至2号館
2F
5201 物理実験測定室 (485)
5203 物理実験室 [電気電子工学科]
5202 物理実験暗室 (486)
5204 物理実験準備室 (480)
5205 * 大学院研究室
EPS
5206 情報工学実験室Ⅰ [電気電子工学科] (274)
5207 情報工学実験室Ⅱ [電気電子工学科] (276)
5211 情報工学実験準備室 (255)
5210 白土 浩研究室 (256)
5209 知能情報システム研究室 [白土ゼミ室] (273)
5208 マシーン室 [電気電子工学科] (277)
EV
1F
5101 細胞生物工学研究室 [神武ゼミ] (247)
5102 神武洋二郎研究室 (469)
5103 細胞培養室
5104 暗室
5105 ドラフト室
5106 細胞機能生化学研究室 [武田ゼミ] (231)
5107 測定室
EPS
5108 武田行正研究室 (210)
5109 生物環境化学実験室Ⅰ [生物環境化学科] (243)
5110 天秤室
5111 準備室A (244)
5112 準備室B
5113 放射線測定室 (246)
EV
G1F
5001 北野隆司研究室 (206)
5003 食品生命機能学研究室 [北野ゼミ] (220)
5002 動物実験室
5004 測定室C
5005 村上大樹研究室 (212)
5006 機能材料分析化学研究室 [村上ゼミ] (242)
5007 高分解能走査顕微鏡室
5008 測定室B
5009 測定室A
EPS
5010 ポンプ室
5011 デザイン実習室 [建築・デザイン学科] (375)
EV
N

6. 広場

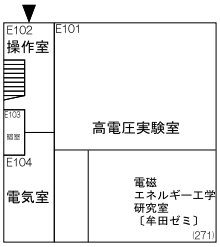
7.トレーニングセンター（B棟）



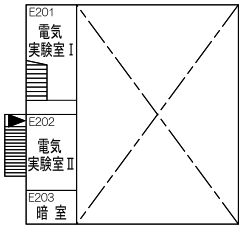
38.多目的ホール・ロボット工作工房（C棟）



11.構造実験室（D棟）

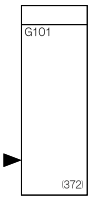


9.高電圧実験室（E棟）1F

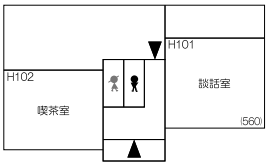


2F

8.塗装実習室（F棟）



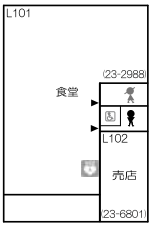
28.（G棟）



39.ログハウス
［バウヒュッテ］（H棟）

14.守衛室（I棟）

32.環境実験室（J棟）



40.食堂・売店（L棟）

サークル棟群（K棟群）

26.弓道場（的場）　25.弓道場（射場）

- K123 的場
- K124 弓道場（射場）

19. 剣道場

- K125 剣道場
- 剣道場(更衣室)

16. 第１クラブハウス

2F
- K214 生物環境化学研究会
- K213 弓　道
- K212 女子バスケットボール
- K211 陸上競技
- K210 ソフトテニス
- K209 H.A.C
- K208
- K207
- K206
- K205 環境ボランティア
- K204 硬式テニス
- K203 バドミントン
- K202 ダンス
- K201 フットサル

1F
- K122 道 場(倉庫)
- K121 会議室 (554)
- K120 学友会
- K119 体育会
- K118 学術文化会 (561)
- K117 準硬式野球
- K116 軽音楽２
- K115 軽音楽１

18. 倉庫

- K126 倉　庫

17. 柔道場

- K127 柔道場

24.倉庫

- K140 倉　庫

30.第２クラブハウス

- K128 第2研修室
- K129 サッカー
- K130 男子バレーボール
- K131 学友会

20.

- K132

23.第3クラブハウス

1F
- K133
- K134 防犯ボランティア
- K135 コピー室
- K136 柏の森祭実行委員会 (556)
- K137 学生健保共済会 (562)
- K138 第1研修室

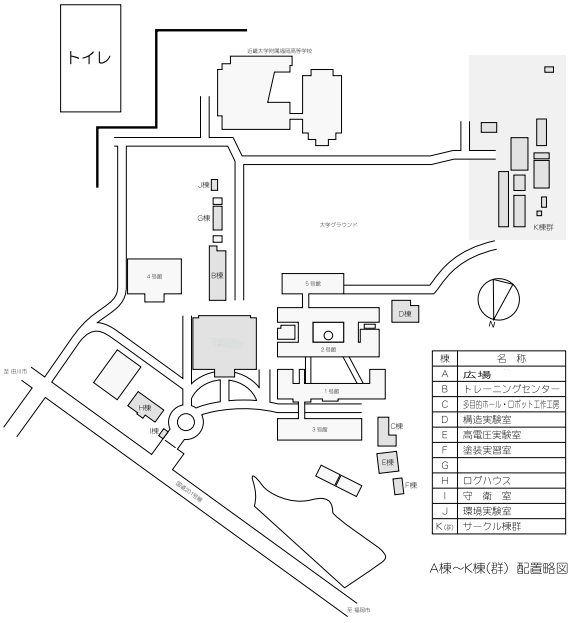
2F
- K216
- K217 楽器庫
- K218 練習場

22.クラブハウス（浴室）

- K139 浴　室

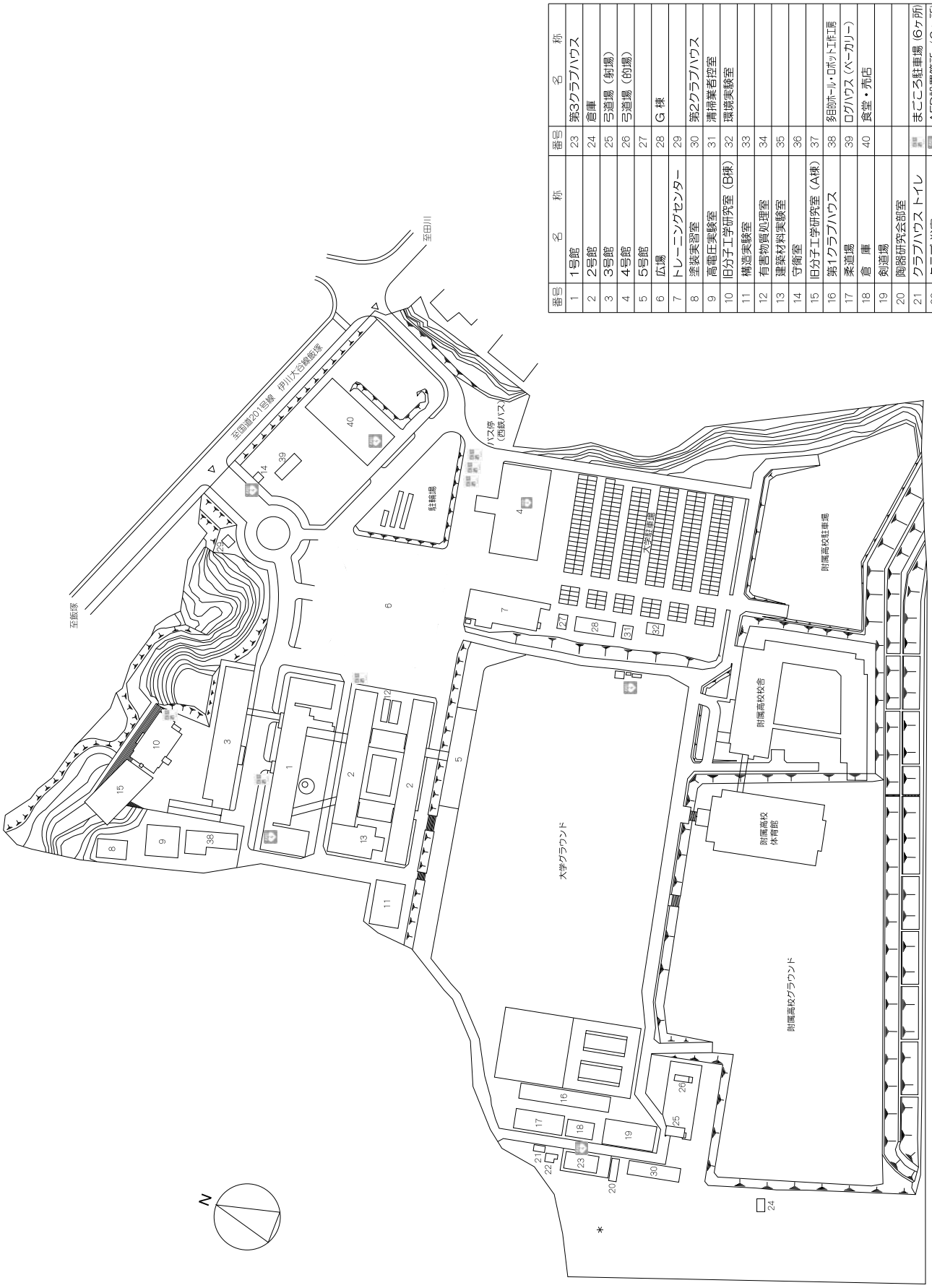
21.クラブハウス（トイレ）

- トイレ



棟	名　称
A	広場
B	トレーニングセンター
C	多目的ホール・ロボット工作工房
D	構造実験室
E	高電圧実験室
F	塗装実習室
G	
H	ログハウス
I	守　衛　室
J	環境実験室
K(群)	サークル棟群

A棟～K棟(群) 配置略図



番号	名　称	番号	名　称
1	1号館	23	第3クラブハウス
2	2号館	24	倉庫
3	3号館	25	弓道場（射場）
4	4号館	26	弓道場（的場）
5	5号館	27	
6	広場	28	G 棟
7	トレーニングセンター	29	
8	塗装実習室	30	第2クラブハウス
9	高電圧実験室	31	清掃業者控室
10	旧分子工学研究室（B棟）	32	環境実験室
11	構造実験室	33	
12	有害物質処理室	34	
13	建築材料実験室	35	
14	守衛室	36	
15	旧分子工学研究室（A棟）	37	
16	第1クラブハウス	38	多目的ホール・ロボット工作工房
17	柔道場	39	ログハウス（バーカリー）
18	倉　庫	40	食堂・売店
19	剣道場		
20	陶器研究会部室		
21	クラブハウス トイレ		まごころ駐車場（6ヶ所）
22	クラブ 浴室		AED設置箇所（6ヶ所）

近畿大学産業理工学部　配置図

履修の手引（令和７年度）

編　集　産業理工学部 教務委員会
発　行　近畿大学　産業理工学部
印　刷　よ し み 工 産 株 式 会 社